

第7期生駒市障がい者福祉計画に関する アンケート調査結果 報告書

お子さまの発達に不安のある保護者の方を対象としたアンケート調査

令和 6 年 3 月

生駒市 障がい福祉課

<目次>

I. アンケート調査の概要	
1. 調査の目的	
2. 調査対象者	
3. 調査期間	
4. 調査方法	
5. 回収状況	
II. アンケート調査結果	4
1. 調査対象者（お子さま）の属性	4
2. お子さまの発達について気になること	12
3. 児童通所サービス利用状況について	38
4. お子さまの成長に関することなどについて	44
5. たけまるノートについて	64
6. お子さまの通園、通学先に対する要望など	66
7. 自由意見	81
III. アンケート調査票	86

I. アンケート調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、「第7期生駒市障がい者福祉計画」策定のための基礎資料とすることを目的として、お子さまの発達に不安のある保護者の方に、お子さま及び保護者の皆様の現在の状況や今後希望するご支援などを把握するために実施しました。

2. 調査対象者

- ・ 児童通所サービスを利用している19歳以下のこどもの保護者の方
- ・ 児童通所サービスを利用していないが発達に不安のある子どもの保護者で、アンケート回答を希望された方

3. 調査期間

令和5年8月16日(水)～8月31日(木)

4. 調査方法

郵送配布、郵送回収及びWEBフォームによる回収。

5. 回収状況

配布数	回収数	回収率
684 件	443 件 うち WEB による回収 159 件	64.8%

●年齢別の内訳(前回調査(令和2年9月実施)との比較)

	3 歳以下	4～5 歳	6～8 歳	9～11 歳	12 歳～14 歳	15 歳以上	無回答
前回調査 (N=185)	34 件 (18.4%)	86 件 (46.5%)	34 件 (18.3%)	21 件 (11.4%)	4 件 (2.2%)	0 件 (0.0%)	6 件 (3.2%)
今回調査 (N=443)	40 件 (9.0%)	92 件 (20.8%)	89 件 (20.1%)	92 件 (20.8%)	74 件 (16.7%)	45 件 (10.2%)	11 件 (2.4%)

※前回調査の調査方法は、今回調査(本調査)とは異なり、「通級教室(ことばの教室)、児童発達支援センターでの配布・回収」となっています。

児童通所サービスの利用者のうち「放課後等デイサービス」では直接配布を行っていないため、前回調査は6歳以上の就学児、特に12歳以上の占める割合が低く、今回調査の年齢構成と大きく異なります。

年齢別のクロス集計については、上記6区分により分析を進めます。

年齢無回答(n=11)はクロス集計の対象としていません。

●診断結果別の回収状況

お子さまの成長や発達について気になる様子が見られた際、医療機関を受診した方は367件となっています（18ページの問7-3参照）。

診断結果の集計結果は以下のとおりです（20ページの問7-5参照）。なお、複数の診断を受けている方がいるため、各診断結果の回答件数の合計は、医療機関を受診した（診断を受けた）方の367件を上回ります。

なお、医療機関を受診したことがない（診断を受けていない）方が64件、無回答（診断を受けたかどうか不明）が12件となっています。

		回答件数
診断結果	自閉スペクトラム症（ASD）	216 件
	知的障がい	100 件
	注意欠如多動症（ADHD）	88 件
	学習障がい（LD）	37 件
	運動機能障がい	16 件
	その他	51 件
	診断名特になし（診断結果 無回答含む）	47 件
診断を受けた方 合計		367 件
診断を受けていない方 合計 ※ ¹		64 件
無回答（診断を受けたかどうか不明） ※ ²		12 件
合 計		443 件

※¹問7（12ページ）で「お子さまの発達について気になるところがありますか」の「ない」25件と
問7-3（18ページ）で「医療機関を受診したことがありますか」の「受診したことがない」39件の合計

※²問7（12ページ）で「お子さまの発達について気になるところがありますか」の無回答2件と
問7-3（18ページ）で「医療機関を受診したことがありますか」の無回答10件の合計

問7の詳細については12ページ、問7-3の詳細については18ページに掲載

診断結果別のクロス集計については、「診断を受けていない方 ※¹」を含む上記区分により分析を進めます。

診断結果無回答「診断を受けたかどうか不明」 ※²」（n=12）はクロス集計の対象としていません。

★集計値について

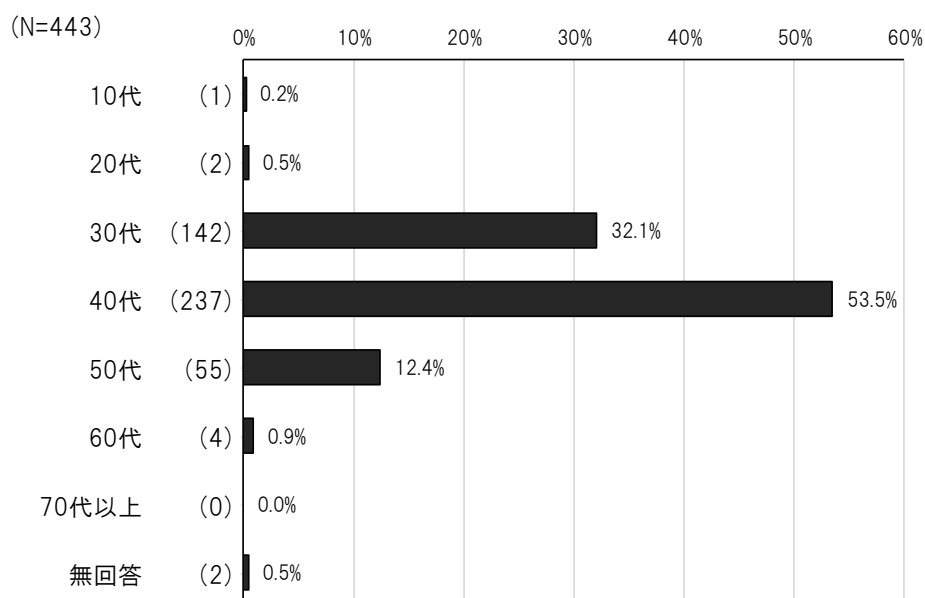
- 回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。
- 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- 図表中において「無回答」とあるものは、回答が示されていないものです。
- 図表中の「N (number of case)」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に応じた数）に該当します。
- 図表中の「n」は、クロス集計において項目別に区分された集計対象者数（あるいは回答者限定設問の限定条件に応じた数）に該当します。
- クロス集計を実施する際は、無回答等は集計の対象としません。また、クロス集計で使用するn値については、参照ページで示されている数値、もしくは図表又はグラフ下に注釈で記載しているように算出した数値です。

Ⅱ. アンケート調査結果

Ⅰ. 調査対象者（お子さま）の属性

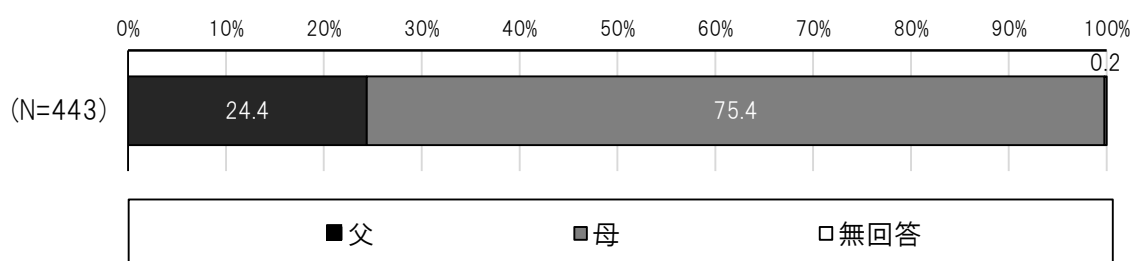
問1. あなた（アンケートの記入者）の年齢

40代が53.5%と最も高く、次いで30代が32.1%、50代が12.4%となっています。



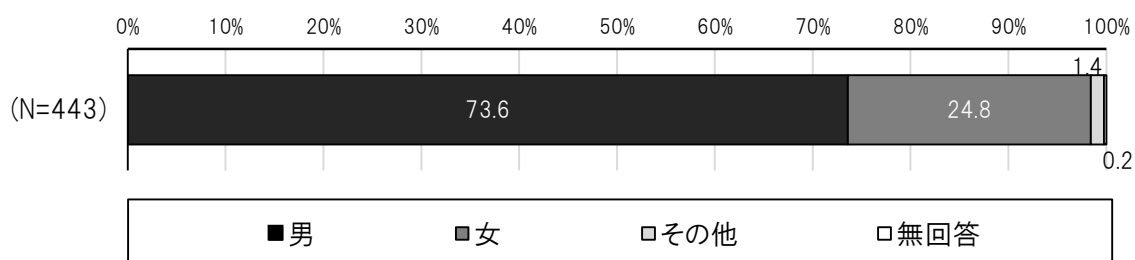
問2. お子さまとの続柄

「母」が75.4%、「父」が24.4%となっています（「祖父」「祖母」「その他」の回答は0件）。



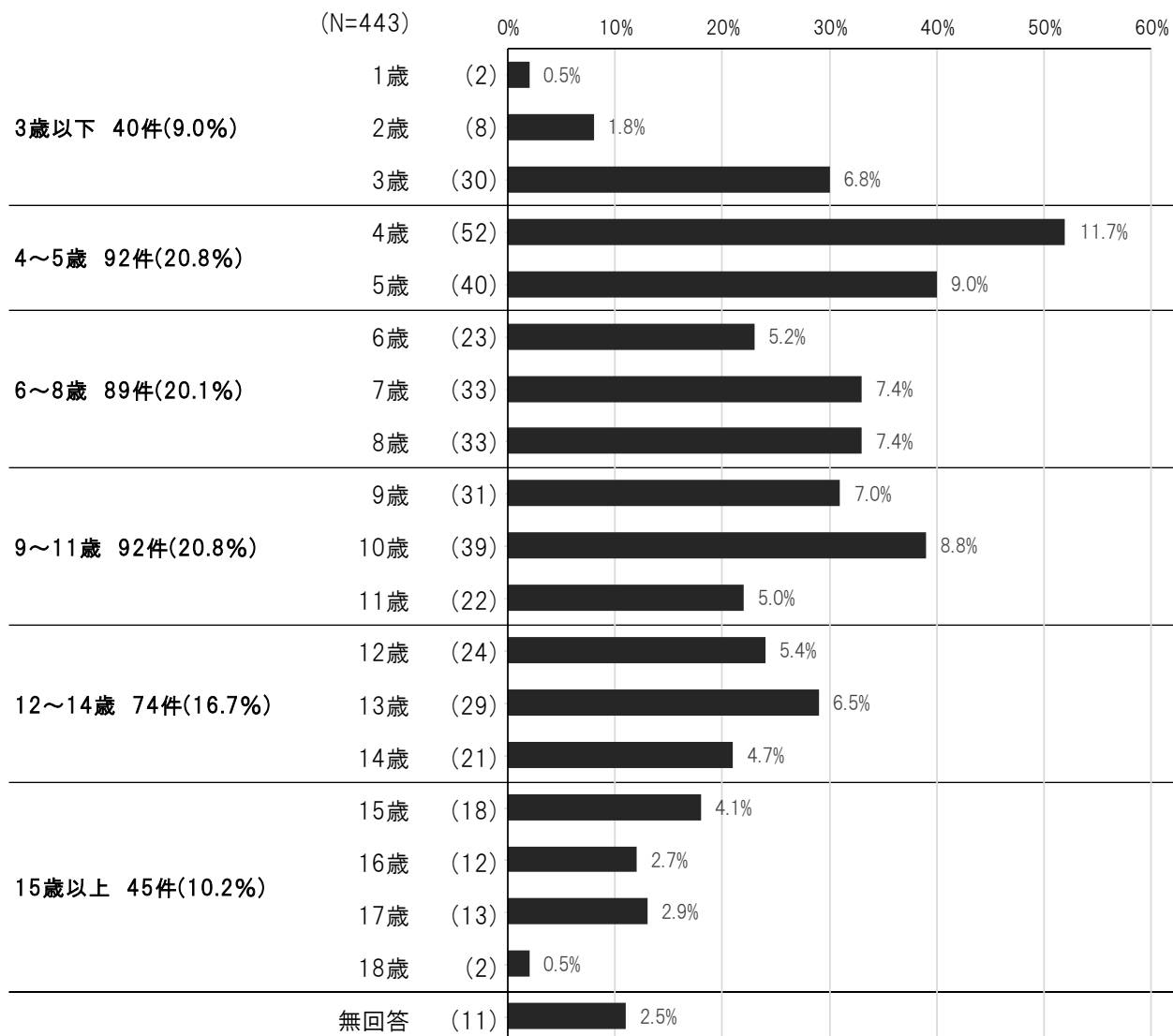
問3. お子さまの性別

「男」が73.6%で、「女」が24.8%となっています。



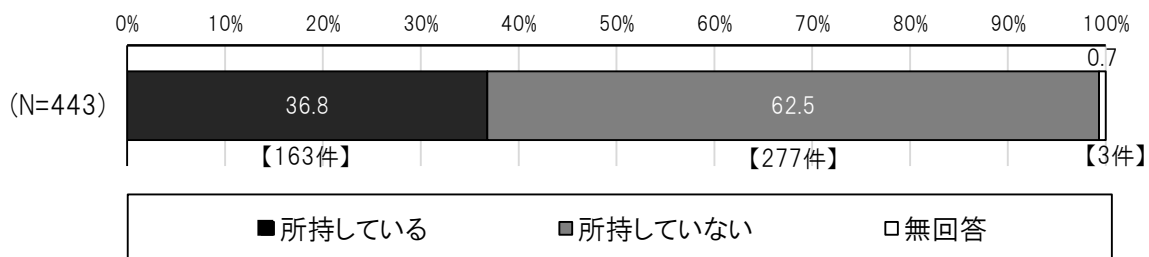
問4. 令和5年4月1日現在のお子さまの年齢（数字を記入）

4歳が11.7%と最も高く、次いで5歳が9.0%となっています。



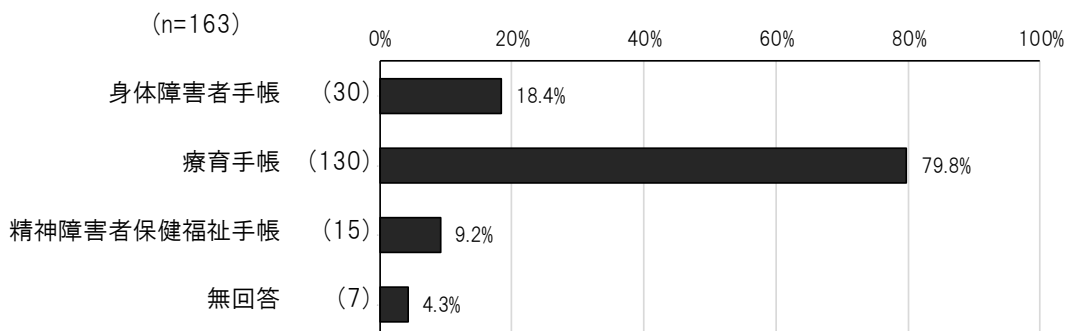
問5. お子さまは障害者手帳を所持されていますか

「所持していない」が62.5%となっており、「所持している」の36.8%を上回っています。



「所持している」を回答した方【163件】は、手帳の種別もお答えください(複数回答)

「療育手帳」が79.8%と最も高く、次いで「身体障害者手帳」が18.4%、精神障害者保健福祉手帳が9.2%となっています。



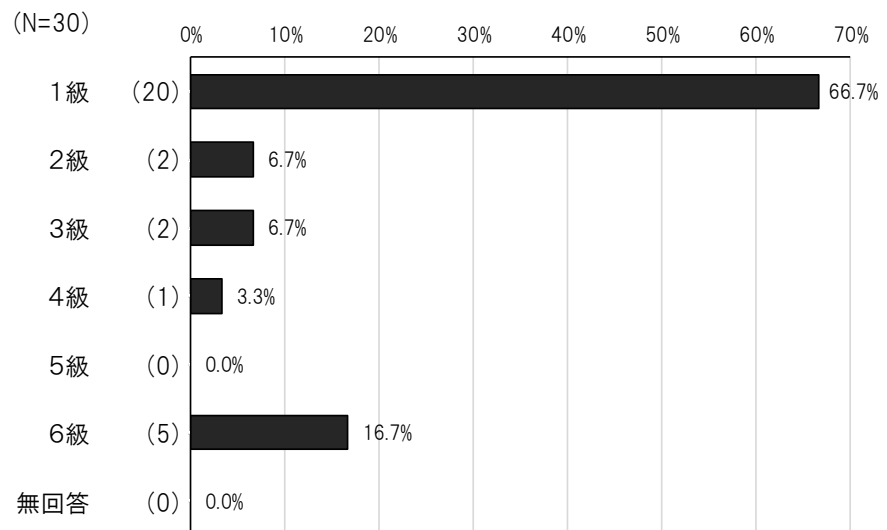
(参考) 重複所持者を区分した集計

「療育手帳」と「身体障害者手帳」との重複が18件、「療育手帳」と「精神障害者保健福祉手帳」の重複が1件となっています。

所持手帳	回答件数	重複所持を含む件数
療育手帳のみ	111件	
療育手帳 + 身体障害者手帳	18件	
療育手帳 + 精神障害者保健福祉手帳	1件	療育 計 111+18+1 =130
身体障害者手帳のみ	12件	身体 計 12+18 = 30
精神障害者保健福祉手帳のみ	14件	精神 計 14+1 = 15
無回答	7件	
合 計	163件	

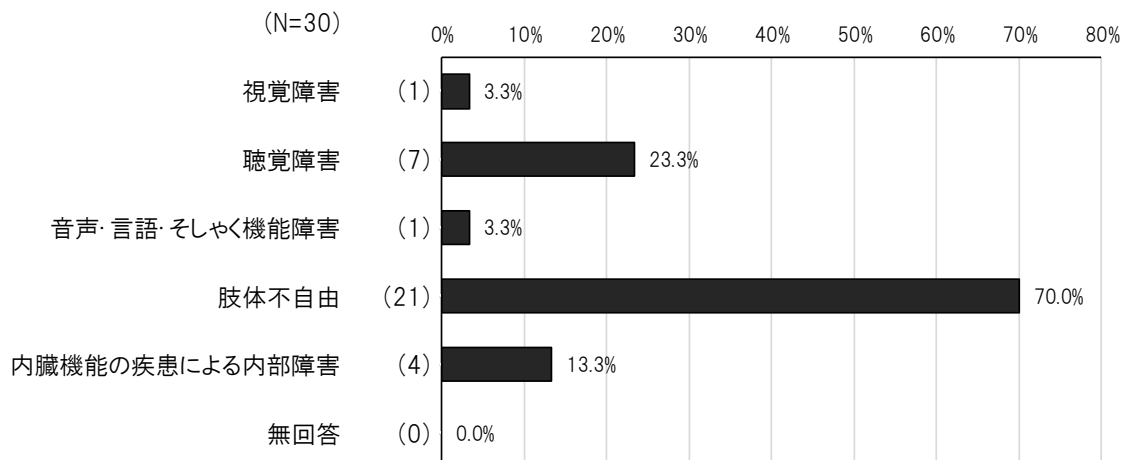
身体障害者手帳所持者【30 件】 障がいの程度

「1級」が66.7%と特に高く、次いで「6級」が16.7%となっています。



身体障害者手帳所持者【30 件】 障がいの種別（複数回答）

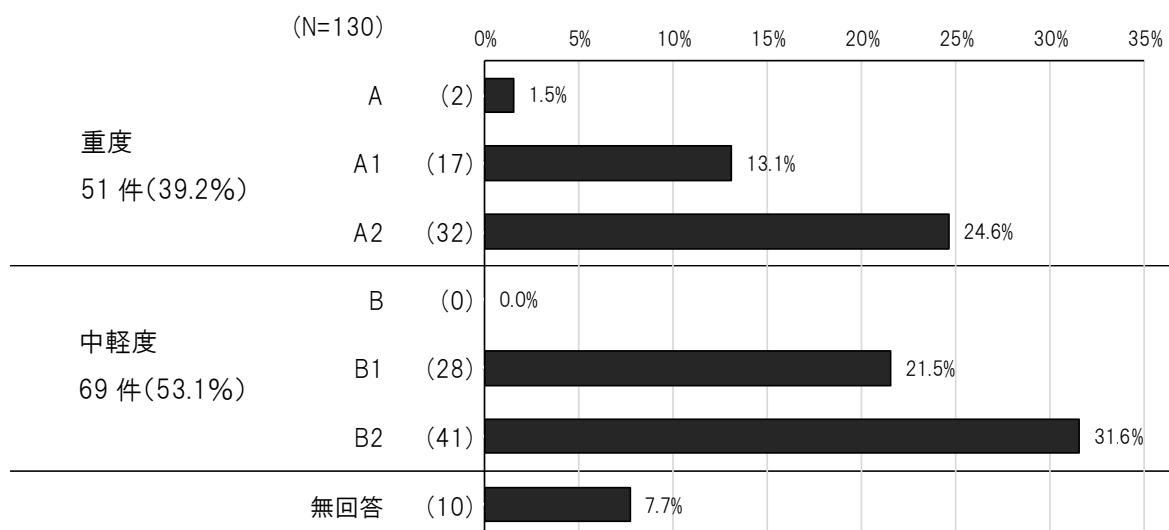
「肢体不自由」が70.0%と特に高く、次いで「聴覚障害」が23.3%となっています。



療育手帳所持者【130 件】 障がいの程度

「B2」が31.6%と最も高く、次いで「A2」が24.6%となっています。

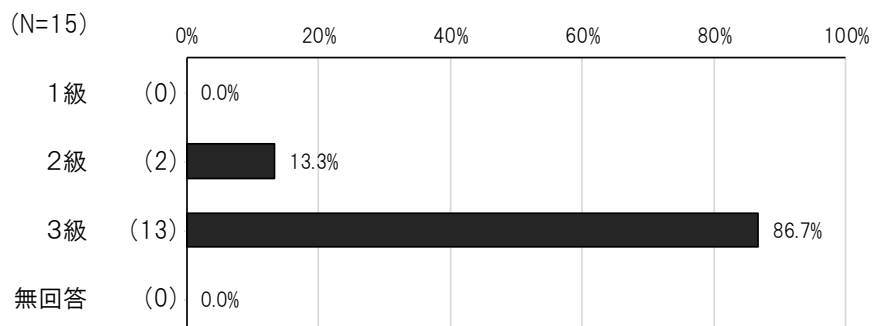
「A」～「A2」を合わせた重度が51件(39.2%)、「B」～「B2」を合わせたが中軽度が69件(53.1%)となっています。



精神障害者保健福祉手帳【15 件】 障がいの程度

「3級」が86.7%と最も高く、次いで「2級」が13.3%となっています。

「1級」の回答は0件となっています。



クロス集計の項目については、「当該設問×クロス集計分析を行う設問」と表示します

●所持手帳(療育手帳を重度・中軽度に2区分+手帳未所持)×年齢

療育:療育手帳所持者、身体:身体障害者手帳所持者、精神:精神障害者保健福祉手帳所持者

※療育には身体、精神の重複所持者を含め、身体、精神には療育との重複所持者を含めない

※療育(中軽度)には程度不明を含む

「療育(重度)」「療育(中軽度)」及び「精神」については、概ね年齢が上がるにつれて高くなっています。「身体」については、3歳以下が他の年齢層に比べてやや高くなっていますが、大きな差はみられません。

	療育 (重度)	療育 (中軽度)	身体	精神	手帳 未所持	無回答
総数(N=443)	11.5%	17.8%	2.7%	3.2%	62.5%	2.3%
3歳以下 (n=40)	2.5%	5.0%	5.0%	0.0%	77.5%	10.0%
4～5歳 (n=92)	7.6%	17.4%	2.2%	0.0%	72.8%	0.0%
6～8歳 (n=89)	14.6%	12.4%	3.4%	4.5%	61.8%	3.4%
9～11歳 (n=92)	6.5%	12.0%	1.1%	2.2%	77.2%	1.1%
12～14歳 (n=74)	16.2%	25.7%	4.1%	2.7%	51.4%	0.0%
15歳以上 (n=45)	22.2%	37.8%	2.2%	13.3%	22.2%	2.2%

年齢無回答(n=11)はクロス集計の対象としていません(1 ページ参照)。

●所持手帳(療育を重度・中軽度に2区分+手帳未所持)×診断結果

「療育(重度)」「療育(中軽度)」ともに、知的障がいが高くなり、他の診断結果と比べて差がみられます。

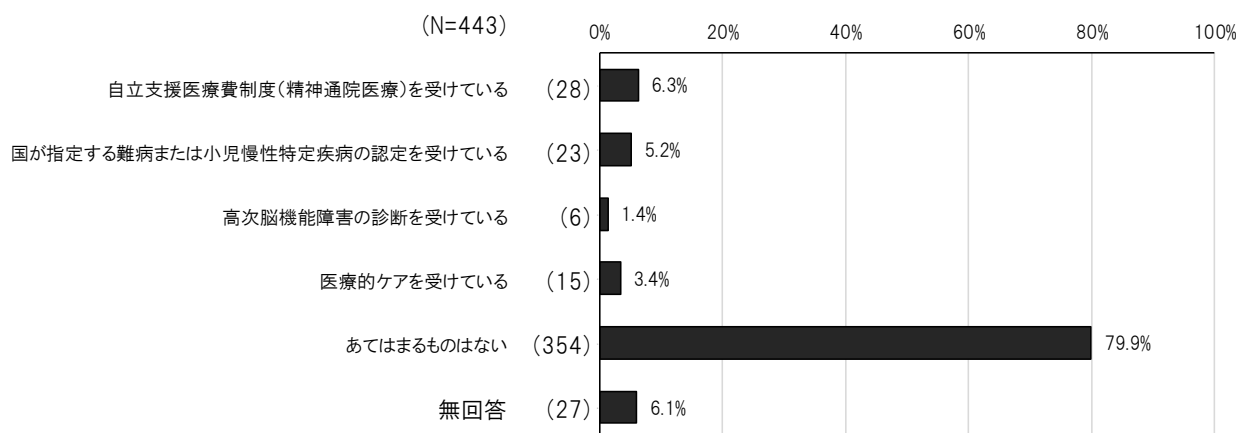
「身体」は運動機能障がい、「精神」は自閉スペクトラム症(ASD)、注意欠如多動症(ADHD)、学習障がい(LD)で他の診断に比べて高くなっています。

	療育 (重度)	療育 (中軽度)	身体	精神	手帳 未所持	無回答
総数(N=443)	11.5%	17.8%	2.7%	3.2%	62.5%	2.3%
自閉スペクトラム症(ASD) (n=216)	9.3%	19.0%	0.0%	5.1%	65.7%	0.9%
注意欠如多動症(ADHD) (n=88)	1.1%	13.6%	0.0%	6.8%	78.4%	0.0%
学習障がい(LD) (n=37)	0.0%	18.9%	2.7%	8.1%	70.3%	0.0%
知的障がい (n=100)	34.0%	43.0%	3.0%	1.0%	18.0%	1.0%
運動機能障がい (n=16)	18.8%	6.3%	12.5%	0.0%	62.5%	0.0%
その他 (n=51)	13.7%	19.6%	3.9%	2.0%	60.8%	0.0%
診断名特になし(無回答含む) (n=47)	8.5%	14.9%	2.1%	0.0%	68.1%	6.4%
診断を受けていない (n=64)	7.8%	7.8%	3.1%	1.6%	73.4%	6.3%

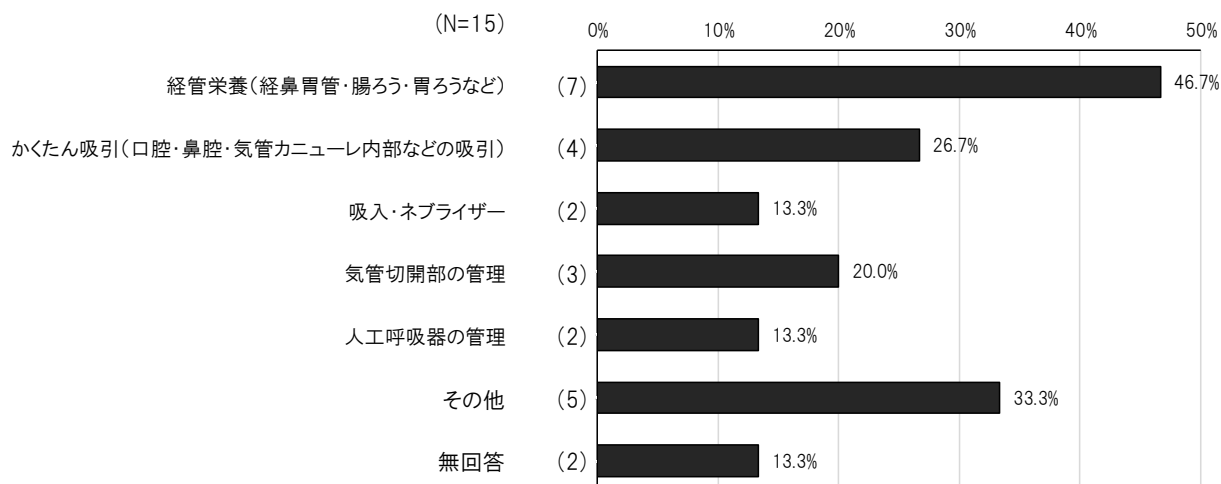
複数の診断を受けている方がいるため、件数の合計は母集団(N=443)の件数を上回ります。また、診断結果無回答(n=12)はクロス集計の対象としていません(2 ページ参照)。

問6. (疾病等の認定) 次のうち、お子さまにあてはまるものすべてお選びください(複数回答)

「あてはまるものはない」が79.9%となっており、受けているものについては、「自立支援医療費制度(精神通院医療)を受けている」が6.3%と高く、次いで「国が指定する難病または小児慢性特定疾病の認定を受けている」が5.2%となっています。



「医療的ケアを受けている」と回答した方【15 件】のケアの内容(複数回答)



「その他」の記入内容 導尿。
自閉で体にチックが出ている為。
投薬。

●疾病等の認定×年齢

概ね、年齢が上がるにつれて「あてはまるものはない」が低くなっており、「自立支援医療費制度（精神通院医療）を受けている」は12～14歳、15歳以上、「国が指定する難病または小児慢性特定疾病の認定を受けている」は15歳以上、「医療的ケアを受けている」は12～14歳で高くなっています。

	自立支援医療費制度（精神通院医療）を受けている	国が指定する難病または小児慢性特定疾病の認定を受けている	高次脳機能障害の診断を受けている	医療的ケアを受けている	あてはまるものはない	無回答
総数(N=443)	6.3%	5.2%	1.4%	3.4%	79.9%	6.1%
3歳以下 (n=40)	2.5%	2.5%	0.0%	2.5%	90.0%	5.0%
4～5歳 (n=92)	2.2%	4.3%	0.0%	2.2%	89.1%	4.3%
6～8歳 (n=89)	4.5%	3.4%	2.2%	4.5%	83.1%	5.6%
9～11歳 (n=92)	5.4%	4.3%	2.2%	2.2%	83.7%	3.3%
12～14歳 (n=74)	10.8%	5.4%	2.7%	5.4%	71.6%	8.1%
15歳以上 (n=45)	15.6%	13.3%	0.0%	4.4%	55.6%	11.1%

年齢無回答(n=11)はクロス集計の対象としていません(1 ページ参照)。

●疾病等の認定×診断結果

数は少ないものの「自立支援医療費制度（精神通院医療）を受けている」については、注意欠如多動症（ADHD）、学習障がい（LD）で他の診断に比べて高くなっており、「国が指定する難病または小児慢性特定疾病の認定を受けている」「医療的ケアを受けている」については、運動機能障がいでの他の診断に比べて高くなっています。

また、「国が指定する難病または小児慢性特定疾病の認定を受けている」については、診断名特になしでも高くなっています。

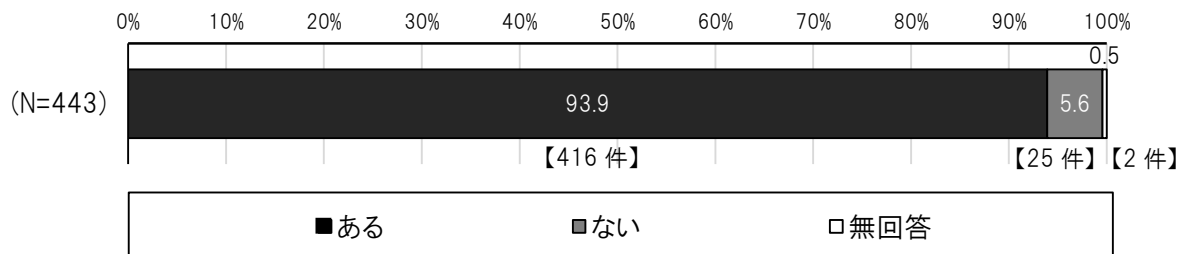
	自立支援医療費制度（精神通院医療）を受けている	国が指定する難病または小児慢性特定疾病の認定を受けている	高次脳機能障害の診断を受けている	医療的ケアを受けている	あてはまるものはない	無回答
総数(N=443)	6.3%	5.2%	1.4%	3.4%	79.9%	6.1%
自閉スペクトラム症（ASD）(n=216)	8.3%	0.0%	0.9%	1.9%	81.0%	7.9%
注意欠如多動症（ADHD）(n=88)	12.5%	0.0%	1.1%	2.3%	81.8%	2.3%
学習障がい（LD）(n=37)	13.5%	0.0%	0.0%	2.7%	81.1%	2.7%
知的障がい (n=100)	3.0%	8.0%	1.0%	3.0%	76.0%	12.0%
運動機能障がい (n=16)	6.3%	12.5%	0.0%	12.5%	68.8%	6.3%
その他(n=51)	5.9%	9.8%	0.0%	2.0%	82.4%	0.0%
診断名特になし（無回答含む）(n=47)	2.1%	14.9%	0.0%	6.4%	78.7%	4.3%
診断を受けていない (n=64)	3.1%	3.1%	0.0%	3.1%	92.2%	0.0%

複数の診断を受けている方がいるため、件数の合計は母集団(N=443)の件数を上回ります。また、診断結果無回答(n=12)はクロス集計の対象としていません(2 ページ参照)。

2. お子さまの発達について気になること

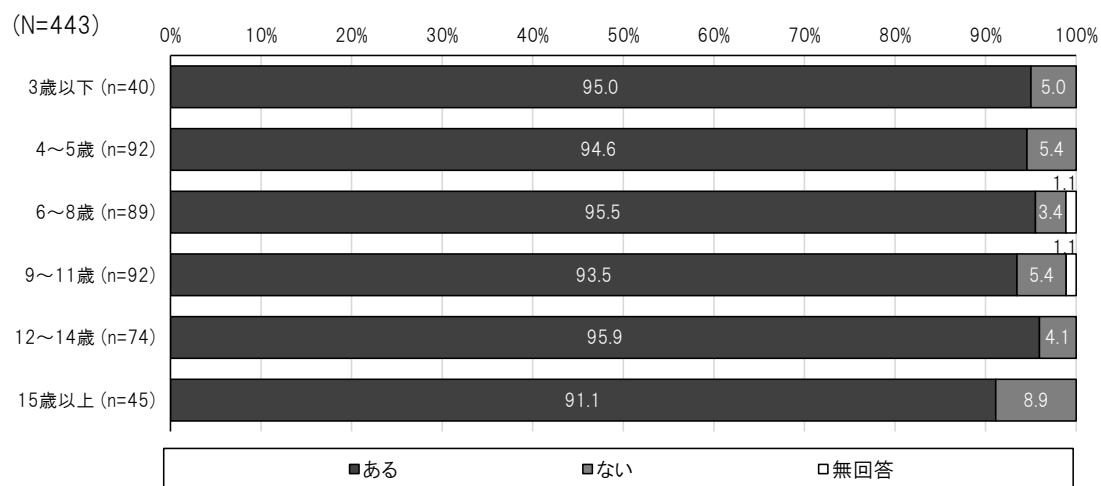
問7. お子さまの現在のご様子についておうかがいします
お子さまの発達について、気になるところがありますか

「ある」が93.9%となっています。



●発達について気になるところがあるか×年齢

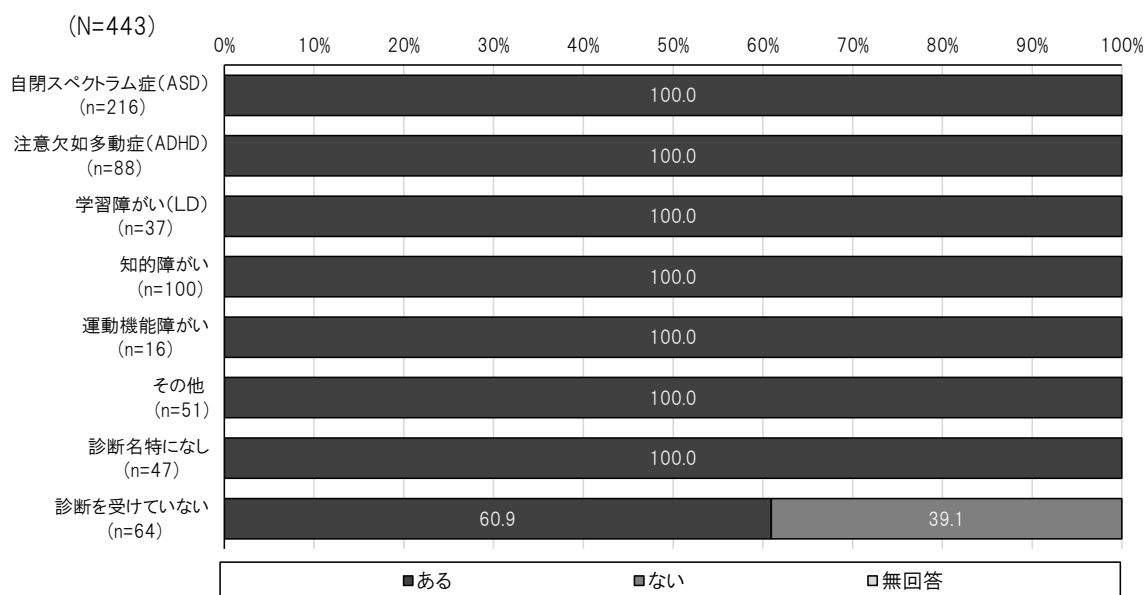
年齢による大きな差はみられません。



年齢無回答(n=11)はクロス集計の対象としていません(1 ページ参照)。

●発達について気になるところがあるか×診断結果

診断を受けていない方の「ある」は60.9%となっています。

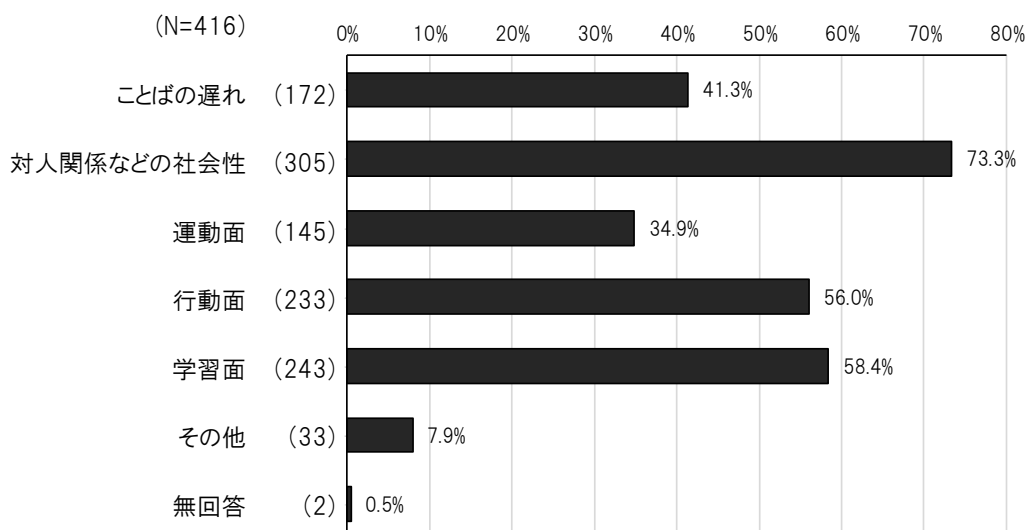


複数の診断を受けている方がいるため、件数の合計は母集団(N=443)の件数を上回ります。また、診断結果無回答(n=12)はクロス集計の対象としていません(2 ページ参照)。

問7で「ある」と答えた方【416件】を対象

問7-1. 気になるところはどのような内容ですか(複数回答)

「対人関係などの社会性」が73.3%と最も高く、次いで「学習面」が58.4%、「行動面」が56.0%となっています。



●発達について気になるところ×年齢

5歳以下と6歳以上で回答傾向が異なります。「ことばの遅れ」は5歳以下が高く、「対人関係などの社会性」「学習面」は6歳以上で高くなっています。

	ことばの遅れ	対人関係などの社会性	運動面	行動面	学習面	その他	無回答
総数(N=416)	41.3%	73.3%	34.9%	56.0%	58.4%	7.9%	0.5%
3歳以下 (n=38)	71.1%	63.2%	36.8%	63.2%	21.1%	7.9%	0.0%
4～5歳 (n=87)	62.1%	64.4%	35.6%	56.3%	47.1%	4.6%	0.0%
6～8歳 (n=85)	43.5%	82.4%	41.2%	57.6%	64.7%	7.1%	1.2%
9～11歳 (n=86)	20.9%	72.1%	36.0%	50.0%	67.4%	10.5%	0.0%
12～14歳 (n=71)	33.8%	76.1%	29.6%	56.3%	74.6%	11.3%	0.0%
15歳以上 (n=41)	24.4%	85.4%	24.4%	61.0%	56.1%	4.9%	0.0%

年齢別の回答数(n値)については、12 ページ中段(発達について気になることがあるか×年齢)のグラフ内の各年齢の回答数(n値)に「ある」の回答割合を乗じた値です【例:3歳以下 n=38[n=40×95.0%]】。なお、年齢無回答については本集計の対象としていません。

●発達について気になるところ×診断結果

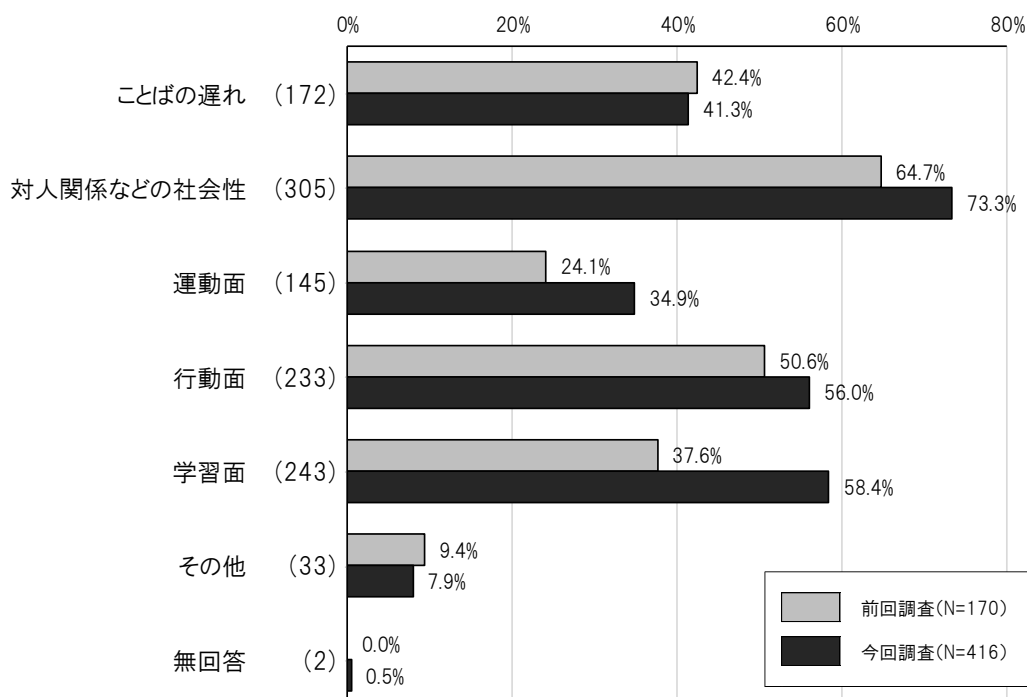
学習障がい(LD)では「学習面」、運動機能障がいでは「運動面」が特に高く、それぞれ94.6%、93.8%となっています。知的障がいでは「ことばの遅れ」が他の診断結果に比べて高くなっています。

	ことばの遅れ	対人関係などの社会性	運動面	行動面	学習面	その他	無回答
総数(N=416)	41.3%	73.3%	34.9%	56.0%	58.4%	7.9%	0.5%
自閉スペクトラム症(ASD) (n=216)	32.9%	83.3%	32.9%	62.0%	63.9%	7.4%	0.0%
注意欠如多動症(ADHD) (n=88)	21.6%	79.5%	36.4%	68.2%	70.5%	9.1%	0.0%
学習障がい(LD) (n=37)	21.6%	64.9%	29.7%	40.5%	94.6%	5.4%	0.0%
知的障がい (n=100)	67.0%	80.0%	48.0%	69.0%	77.0%	7.0%	0.0%
運動機能障がい (n=16)	43.8%	75.0%	93.8%	56.3%	56.3%	12.5%	0.0%
その他 (n=51)	49.0%	80.4%	45.1%	56.9%	64.7%	7.8%	0.0%
診断名特になし(無回答含む) (n=47)	48.9%	63.8%	31.9%	42.6%	38.3%	8.5%	0.0%
診断を受けていない (n=39)	48.7%	61.5%	15.4%	59.0%	20.5%	7.7%	0.0%

診断結果別の回答数(n値)については、13 ページ(発達について気になることがあるか×診断結果)のグラフ内の各診断結果の回答数(n値)に「ある」の回答割合を乗じた値です【例：自閉スペクトラム症(ASD) n=216[n=216×100%]】。複数の診断を受けている方がいるため、件数の合計は母数団(N=416)の件数を上回ります。なお、診断結果無回答については本集計の対象としていません。

◇発達について気になるところ 前回調査との比較

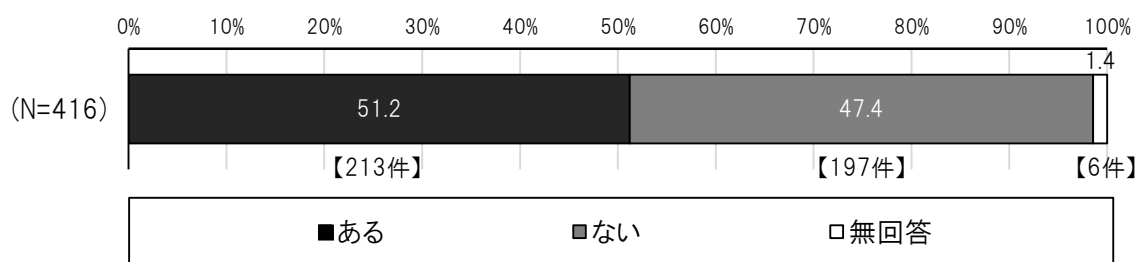
「学習面」が前回調査に比べて大きく増加しており、その要因として、今回調査では就学児童の割合が増加したことが考えられます。



問7で「ある」と答えた方【416 件】を対象

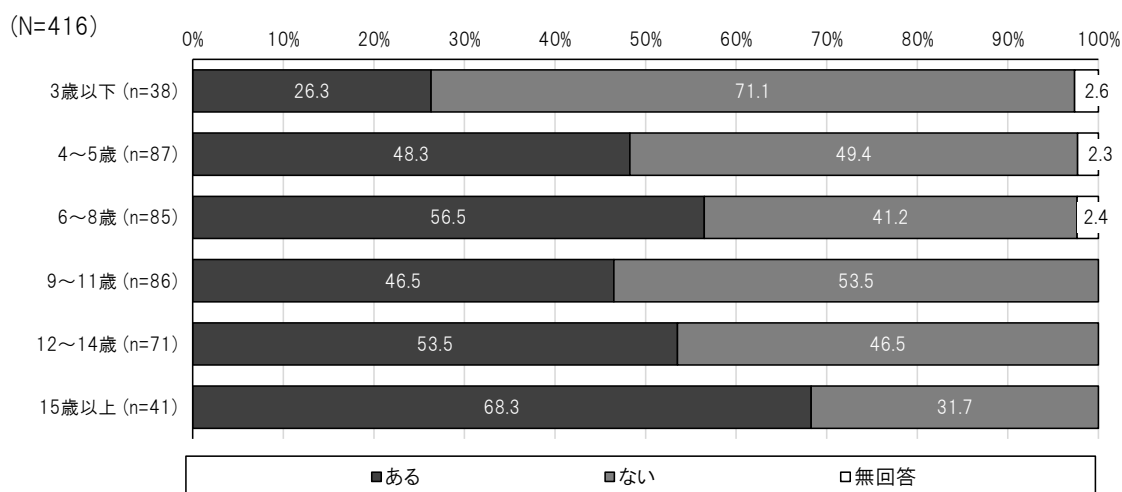
問 7-2. お子さまに対して、知的発達の遅れを指摘されたことはありますか

「ある」が51.2%、「ない」が47.4%となっており、その差が拮抗しています。



●知的発達の遅れを指摘されたことがあるか×年齢

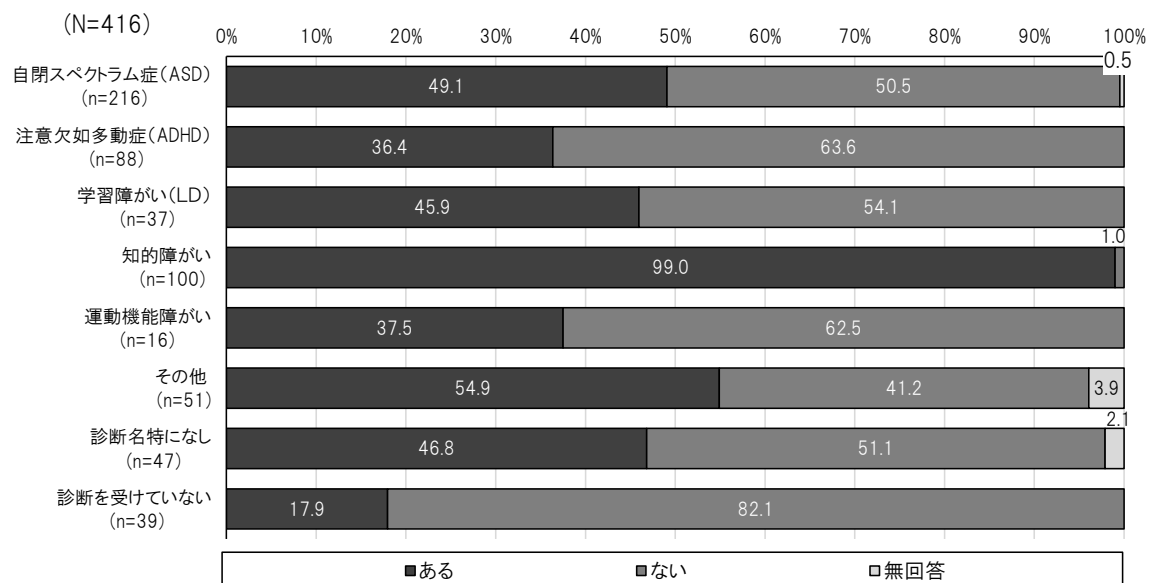
3歳以下の「ある」が低く、15歳以上の「ある」が高くなっています。



年齢別の回答数(n値)については、12 ページ中段(発達について気になることがあるか×年齢)のグラフ内の各年齢の回答数(n値)に「ある」の回答割合を乗じた値です【例:3歳以下 n=38[n=40×95.0%]】。なお、年齢無回答については本集計の対象としません。

●知的発達の遅れを指摘されたことがあるか×診断結果

知的障がい「ある」が99.0%となっています。それ以外では、診断を受けていない、その他の「ある」が他の診断結果に比べて高くなっています。

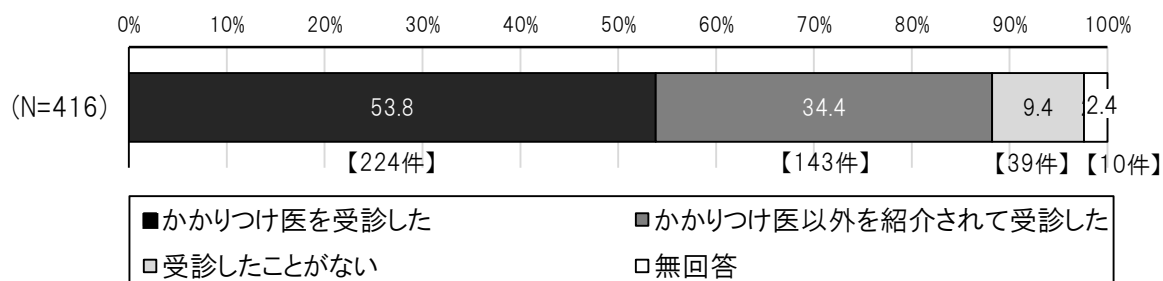


診断結果別の回答数(n値)については、13 ページ(発達について気になることがあるか×診断結果)のグラフ内の各診断結果の回答数(n値)に「ある」の回答割合を乗じた値です【例: 自閉スペクトラム症(ASD) n=216[n=216×100%]】。複数の診断を受けている方がいるため、件数の合計は母数団(N=416)の件数を上回ります。なお、診断結果無回答については本集計の対象としていません。

問7で「ある」と答えた方【416件】を対象

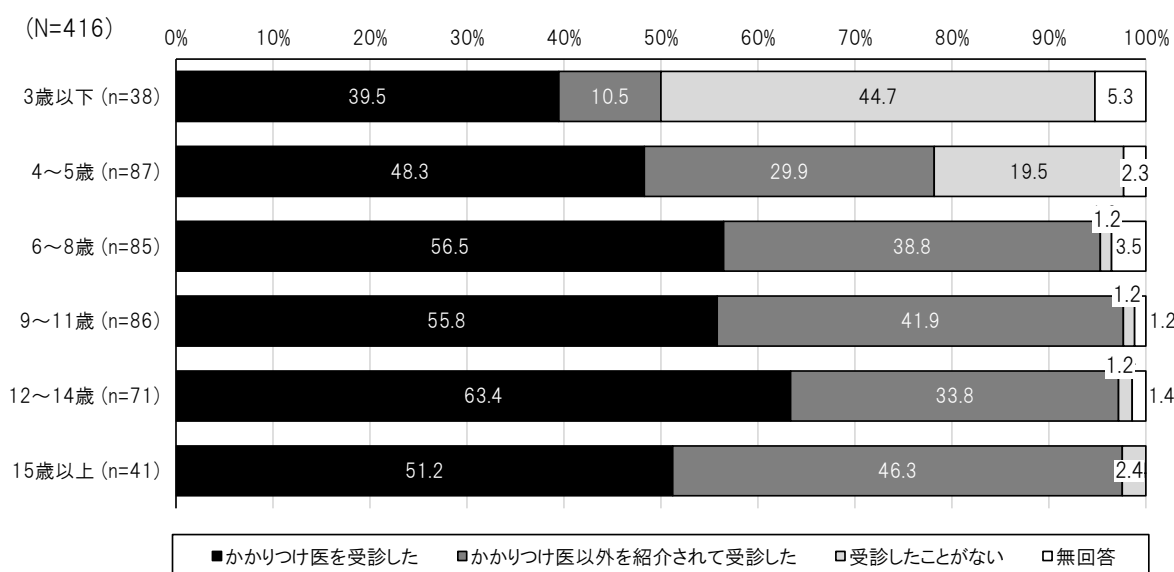
問 7-3. お子さまの成長や発達について気になる様子がみられた際、医療機関を受診したことがありますか

「かかりつけ医を受診した」が53.8%、「かかりつけ医以外を紹介されて受診した」が34.4%となっており、約9割が受診したと回答しています。



●医療機関を受診したことがあるか×年齢

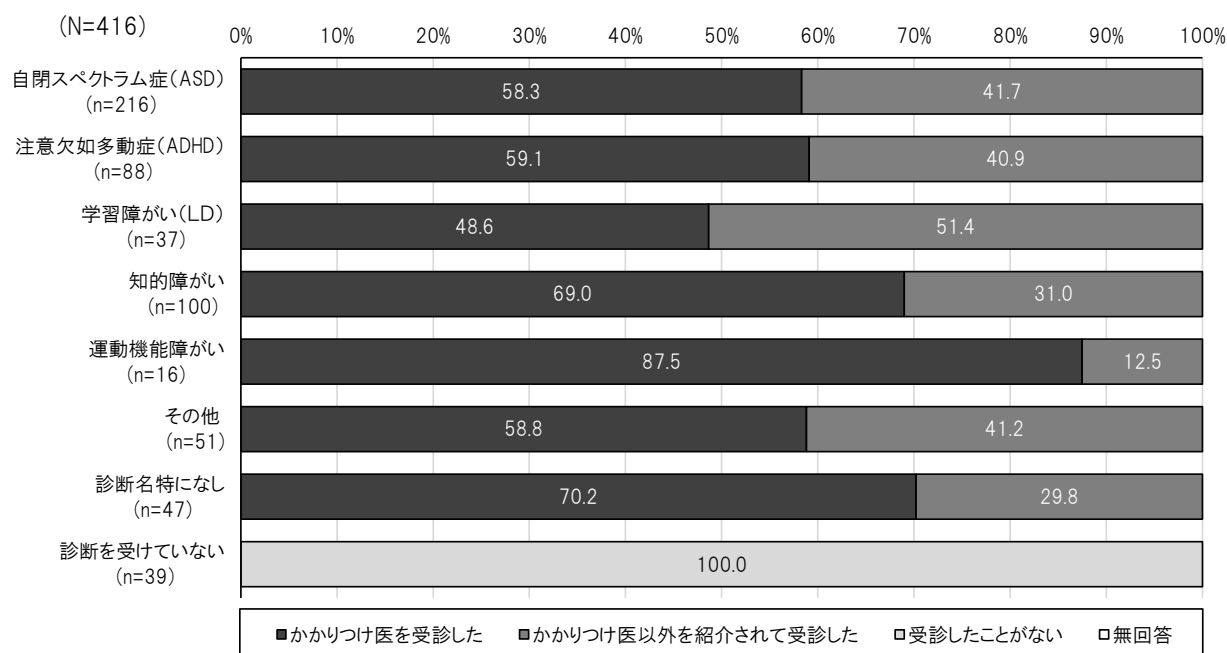
「受診したことがない」は、3歳以下、4～5歳で高くなっており、5歳以上では回答傾向に大きな差はみられません。



年齢別の回答数(n値)については、12 ページ中段(発達について気になることがあるか×年齢)のグラフ内の各年齢の回答数(n値)に「ある」の回答割合を乗じた値です【例:3歳以下 n=38[n=40×95.0%]】。なお、年齢無回答については本集計の対象としていません。

●医療機関を受診したことがあるか×診断結果

運動機能障がい「かかりつけ医を受診した」が他の診断に比べて高くなっています。

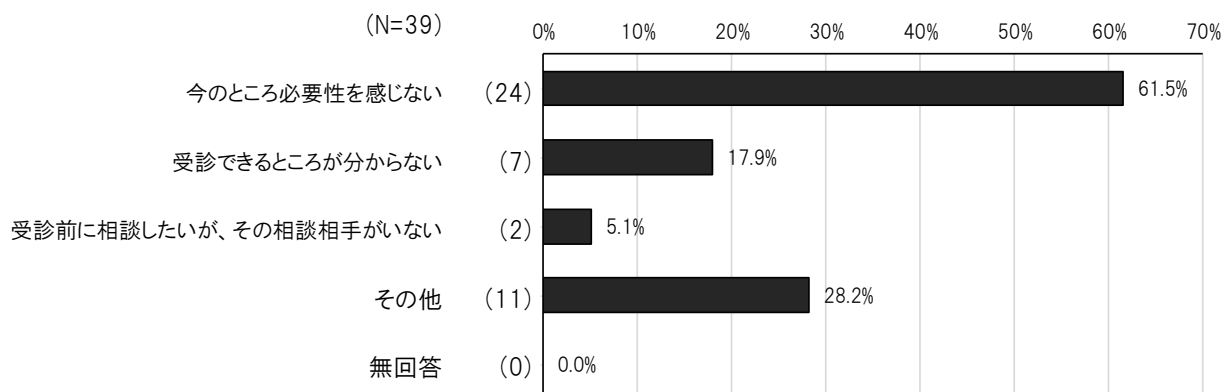


診断結果別の回答数(n値)については、13 ページ(発達について気になることがあるか×診断結果)のグラフ内の各診断結果の回答数(n値)に「ある」の回答割合を乗じた値です【例: 自閉スペクトラム症(ASD) n=216[n=216×100%]】。複数の診断を受けている方がいるため、件数の合計は母数団(N=416)の件数を上回ります。なお、診断結果無回答については本集計の対象としていません。

問 7-3 で「受診したことがない」と答えた方【39 件】を対象

問 7-4. 受診したことがない理由をお答えください(複数回答)

回答数は39件と少なくなりますが、「今のところ必要性を感じない」が61.5%となっています。



「その他」の記入内容

1歳半健診で相談し、市の親子教室、児童発達支援センターとつながったため。診断が必要な場面が今のところない。

3歳半健診時に保健所へ相談するよう繋いでもらった。

生まれた時からの経過観察で定期的に病院に通っているため。

現在のレベルは軽度で小学校で支援学級には入れないので、病院までは必要としていない。

受診したいが、年齢的にまだ早いと言われた。現在予約中(10月健診予定)。

少しずつ言葉も増えて切り替えもできるようになってきているので療育へ通いながら様子をみているところです。

通所施設で発達検査を受けてからでよいと言われた。

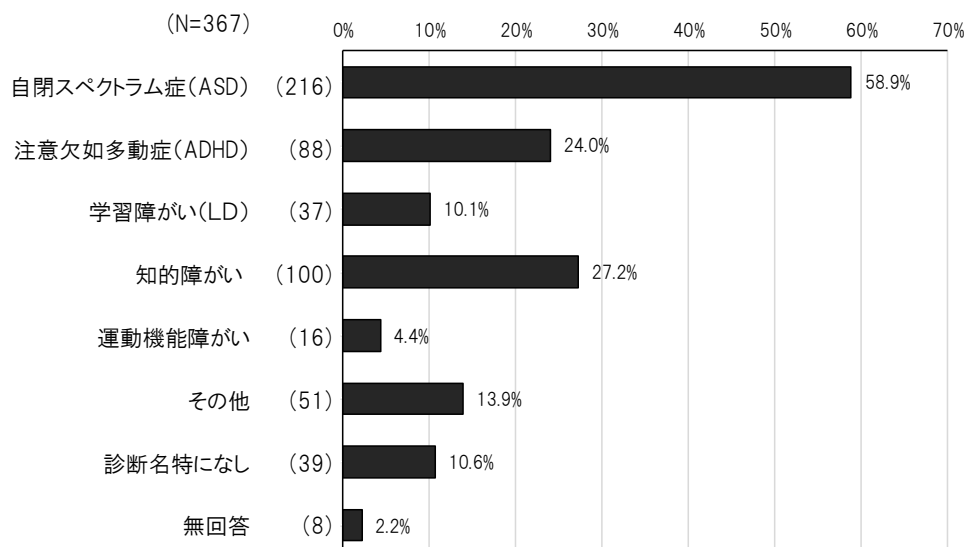
受診した方がいいのか分からず、ずっとそのままになっている。

発達支援センターで相談にのってもらっているから。

問 7-3 で「かかりつけ医を受診した(224 件)」「かかりつけ医以外を紹介されて受診した(143 件)」と答えた方【367 件】を対象

問 7-5. 診断結果について、次よりあてはまるものをお選びください(複数回答)

「自閉スペクトラム症(ASD)」が58.9%と最も高く、次いで「知的障がい」が27.2%、「注意欠如多動症(ADHD)」が24.0%となっています。



「その他」の記入内容

かんもく。	髄膜炎後遺症による脳障がい。	ミオパチー。
グレーゾーン。	聴覚障がい。	境界域知能。
軽度知的障がい。	発達遅れ。	境界知能。
結節性硬化症、てんかん。	発達性運動協調障がい。	強迫性障がい。
言語発達遅延、言語発達遅滞。	発達性協調運動障がい。	現在発達検査を受けている。
ジュベール症候群関連疾患。	発達遅延、発達遅滞。	言葉のおくれ、境界知能、超低出生体重児。
神経発達症。	ダウン症。	場面かんもく。
		発達の遅れはありそうだが様子を見ましようと言われた。

●診断結果×年齢

1～3歳、4～5歳は「診断名とくになし」が高く、6歳以上で「自閉スペクトラム症(ASD)」「注意欠如多動症(ADHD)」が高くなっており、「学習障がい(LD)」は9歳以上で高くなっています。

「知的障がい」「運動機能障がい」は、一部の年齢で高くなっているものの、年齢の高低による変化はありません。

	自閉スペクトラム症(ASD)	注意欠如多動症(ADHD)	学習障がい(LD)	知的障がい	運動機能障がい	その他	診断名特になし	無回答
総数(N=367)	58.9%	24.0%	10.1%	27.2%	4.4%	13.9%	10.6%	2.2%
3歳以下 (n=19)	10.5%	0.0%	0.0%	15.8%	5.3%	26.3%	47.4%	0.0%
4～5歳 (n=68)	44.1%	11.8%	1.5%	17.6%	5.9%	20.6%	27.9%	5.9%
6～8歳 (n=81)	65.4%	21.0%	6.2%	37.0%	6.2%	13.6%	2.5%	1.2%
9～11歳 (n=84)	69.0%	36.9%	16.7%	17.9%	3.6%	14.3%	2.4%	1.2%
12～14歳 (n=69)	65.2%	24.6%	15.9%	30.4%	4.3%	7.2%	7.2%	0.0%
15歳以上 (n=40)	60.0%	30.0%	12.5%	45.0%	0.0%	10.0%	2.5%	5.0%

年齢別の回答数(n値)については、18ページ中段(医療機関を受診したことがあるか×年齢)のグラフ内の各年齢の回答数(n値)に「かかりつけ医を受診した」「かかりつけ医以外を紹介されて受診した」の回答割合を乗じた値です【例:3歳以下 n=19 [n=38×(39.5%+10.5%)]】。なお、年齢無回答については本集計の対象としていません。

(参考)複数の診断結果の集計について(診断結果×診断結果)

「注意欠如多動症(ADHD)」の76.1%、「学習障がい(LD)」の56.8%、「知的障がい」の52.0%、運動機能障がいの43.8%が「自閉スペクトラム症(ASD)」との重複となっています。

また、「学習障がい(LD)」の43.2%が、「注意欠如多動症(ADHD)」とも重複となっています。

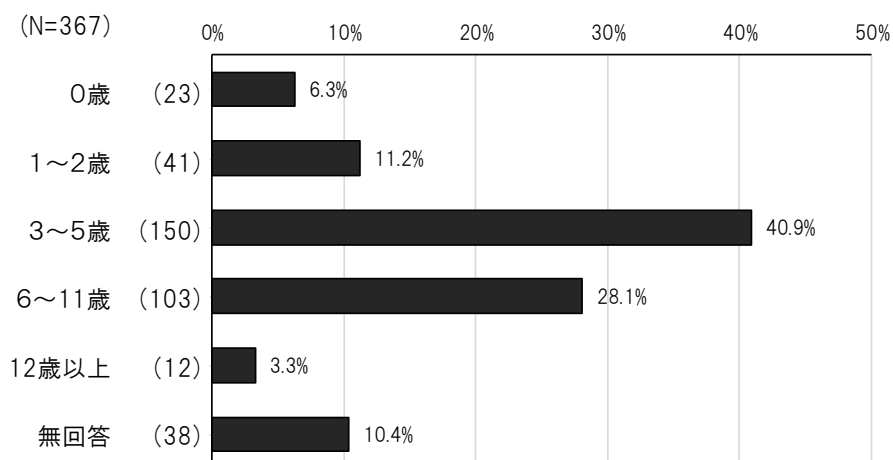
	自閉スペクトラム症(ASD)	注意欠如多動症(ADHD)	学習障がい(LD)	知的障がい	運動機能障がい	その他	診断名特になし	無回答
総数(N=367)	58.9%	24.0%	10.1%	27.2%	4.4%	13.9%	10.6%	2.2%
自閉スペクトラム症(ASD) (N=216)	100.0%	31.0%	9.7%	24.1%	3.2%	6.5%	0.0%	0.0%
注意欠如多動症(ADHD) (N=88)	76.1%	100.0%	18.2%	14.8%	4.5%	6.8%	0.0%	0.0%
学習障がい(LD) (N=37)	56.8%	43.2%	100.0%	10.8%	8.1%	5.4%	0.0%	0.0%
知的障がい (N=100)	52.0%	13.0%	4.0%	100.0%	5.0%	9.0%	1.0%	0.0%
運動機能障がい (N=16)	43.8%	25.0%	18.8%	31.3%	100.0%	12.5%	0.0%	0.0%
その他 (N=51)	27.5%	11.8%	3.9%	17.6%	3.9%	100.0%	0.0%	0.0%
診断名特になし(無回答含む) (N=47)	0.0%	0.0%	0.0%	2.1%	0.0%	0.0%	83.0%	17.0%

診断結果別の回答数(n値)については、19ページ(医療機関を受診したことがあるか×診断結果)のグラフ内の各診断結果の回答数(n値)に「かかりつけ医を受診した」「かかりつけ医以外を紹介されて受診した」の回答割合を乗じた値です【例:自閉スペクトラム症(ASD) n=216[n=216×(58.3%+41.7%)]】。複数の診断を受けている方がいるため、件数の合計は母数団(N=367)の件数を上回ります。

問 7-3 で「かかりつけ医を受診した(224 件)」「かかりつけ医以外を紹介されて受診した(143 件)」と答えた方【367 件】を対象

問 7-6. はじめて診断結果が出たのはいつ頃ですか(数字を記入)

「3～5歳」が40.9%で最も高く、次いで「6～11歳」が28.1%となっています。



● はじめて診断結果が出た時期×年齢

「6～11歳」で診断結果が出た方は、12～14歳では30.4%、15歳以上では32.5%となっています。中学生以上のうち、小学生になってから診断結果が出た方は、約3割となっています。

	0歳	1～2歳	3～5歳	6～11歳	12歳以上	無回答
総数(N=367)	6.3%	11.2%	40.9%	28.1%	3.3%	10.4%
3歳以下 (n=19)	5.3%	31.6%	26.3%	0.0%	0.0%	36.8%
4～5歳 (n=68)	5.9%	17.6%	50.0%	1.5%	0.0%	25.0%
6～8歳 (n=81)	2.5%	8.6%	55.6%	30.9%	0.0%	2.5%
9～11歳 (n=84)	6.0%	2.4%	36.9%	50.0%	0.0%	4.8%
12～14歳 (n=69)	10.1%	14.5%	27.5%	30.4%	10.1%	7.2%
15歳以上 (n=40)	10.0%	7.5%	35.0%	32.5%	12.5%	2.5%

年齢別の回答数(n値)については、18ページ中段(医療機関を受診したことがあるか×年齢)のグラフ内の各年齢の回答数(n値)に「かかりつけ医を受診した」「かかりつけ医以外を紹介されて受診した」の回答割合を乗じた値です【例:3歳以下 n=19 [n=38×(39.5%+10.5%)]】。なお、年齢無回答については本集計の対象としていません。

●はじめて診断結果が出た時期×診断結果

「0歳」「1～2歳」では知的障がい、運動機能障がいが他の年齢に比べて高くなっており、「6～11歳」では学習障がい(LD)、注意欠如多動症(ADHD)が他の年齢に比べて高くなっています。

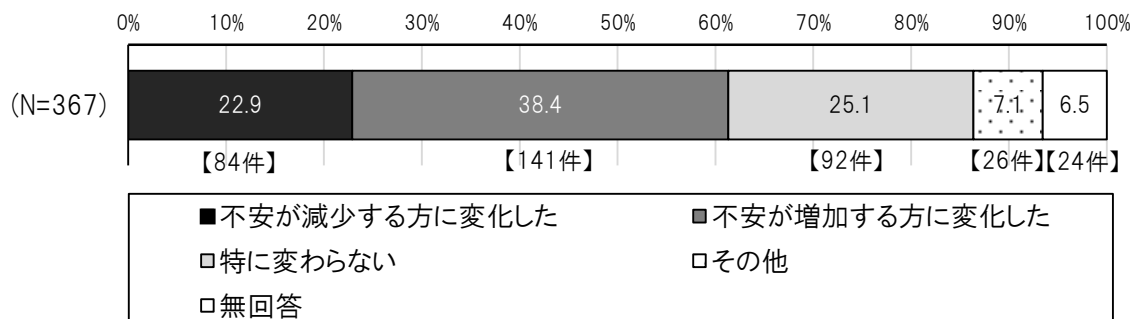
	0歳	1～2歳	3～5歳	6～11歳	12歳以上	無回答
総数(N=367)	6.3%	11.2%	40.9%	28.1%	3.3%	10.4%
自閉スペクトラム症(ASD) (N=216)	1.4%	8.3%	45.8%	35.6%	4.2%	4.6%
注意欠如多動症(ADHD) (N=88)	1.1%	3.4%	42.0%	48.9%	1.1%	3.4%
学習障がい(LD) (N=37)	0.0%	2.7%	29.7%	59.5%	5.4%	2.7%
知的障がい (N=100)	15.0%	18.0%	51.0%	11.0%	1.0%	4.0%
運動機能障がい (N=16)	31.3%	25.0%	18.8%	25.0%	0.0%	0.0%
その他 (N=51)	13.7%	9.8%	51.0%	13.7%	2.0%	9.8%
診断名特になし(無回答含む) (N=47)	6.4%	17.0%	17.0%	4.3%	2.1%	53.2%

診断結果別の回答数(n値)については、19ページ(医療機関を受診したことがあるか×診断結果)のグラフ内の各診断結果の回答数(n値)に「かかりつけ医を受診した」「かかりつけ医以外を紹介されて受診した」の回答割合を乗じた値です【例：自閉スペクトラム症(ASD) n=216[n=216×(58.3%+41.7%)]】。複数の診断を受けている方がいるため、件数の合計は母数団(N=367)の件数を上回ります。

問 7-3 で「かかりつけ医を受診した(224 件)」「かかりつけ医以外を紹介されて受診した(143 件)」と答えた方【367 件】を対象

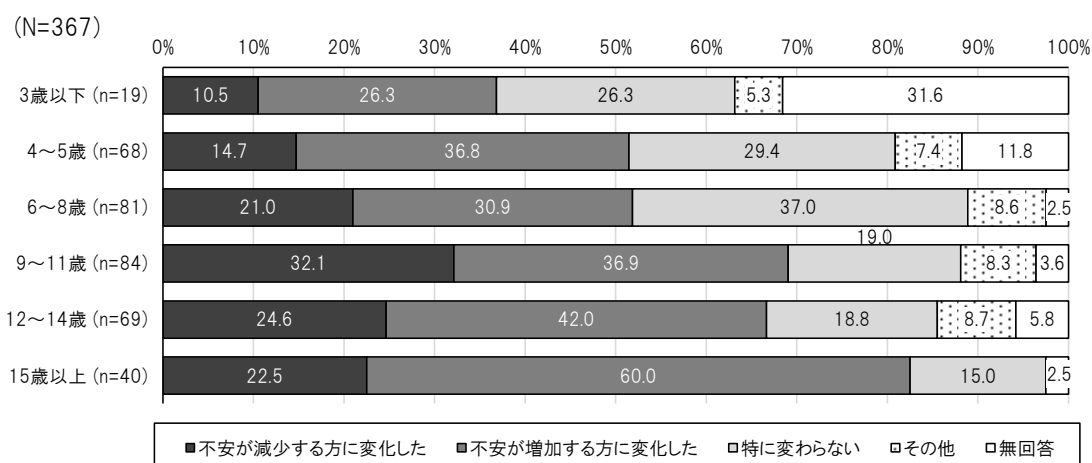
問7-7. 診断結果が出たことによって、あなたご自身の心境はどう変化しましたか

「不安が増加する方に変化した」が38.4%と最も高く、次いで「特に変わらない」が25.1%、「不安が減少する方に変化した」が22.9%となっています。



●診断結果が出たことによる心境の変化×年齢

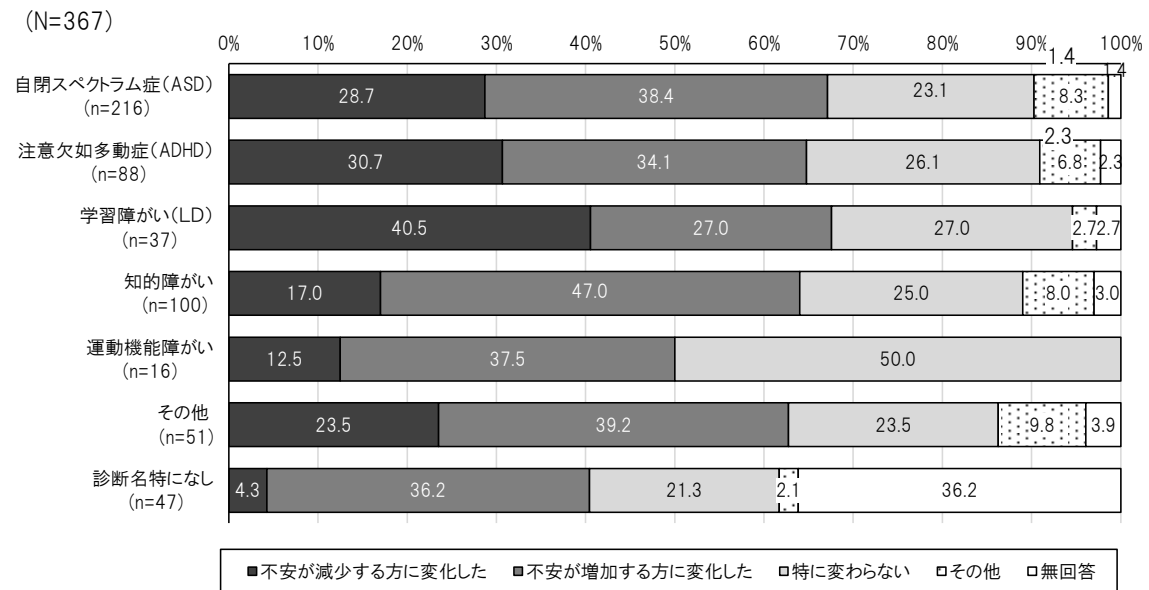
概ね年齢が上がるにつれて「不安が増加する方に変化した」が高くなっており、12～14歳、15歳以上で特に高くなっています。3歳以下は「無回答」が特に高くなっています。



年齢別の回答数(n値)については、18ページ中段(医療機関を受診したことがあるか×年齢)のグラフ内の各年齢の回答数(n値)に「かかりつけ医を受診した」「かかりつけ医以外を紹介されて受診した」の回答割合を乗じた値です【例: 3歳以下 n=19 [n=38×(39.5%+10.5%)]】。なお、年齢無回答については本集計の対象としていません。

●診断結果が出たことによる心境の変化×診断結果

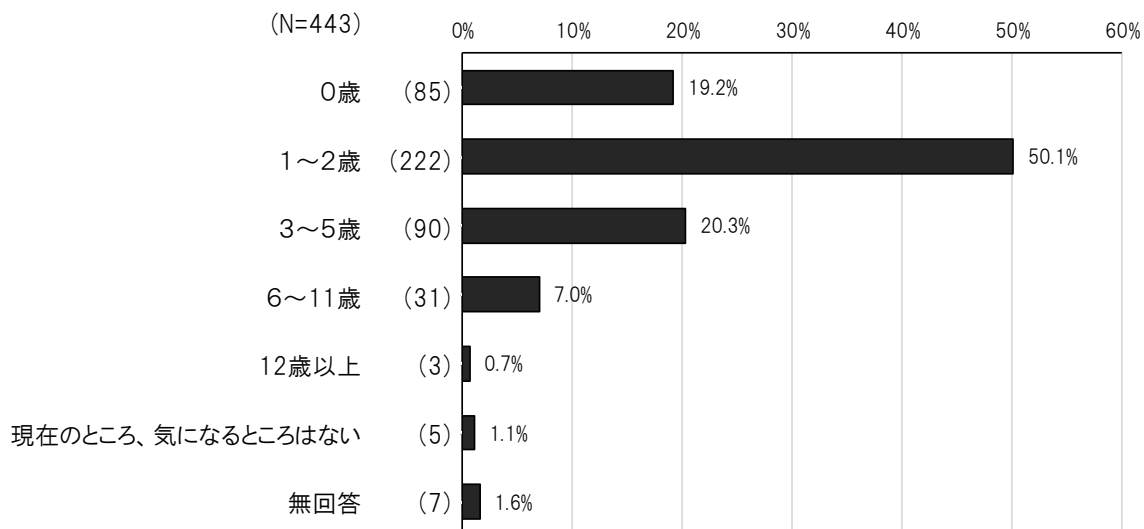
回答数は少ないものの、学習障がい(LD)は「不安が減少する方に変化した」が他の診断に比べて高くなっています。同じく回答数は少ないものの、運動機能障がいは「特に変わらない」が他の診断に比べて高くなっています。



診断結果別の回答数(n値)については、19ページ(医療機関を受診したことがあるか×診断結果)のグラフ内の各診断結果の回答数(n値)に「かかりつけ医を受診した」「かかりつけ医以外を紹介されて受診した」の回答割合を乗じた値です【例: 自閉スペクトラム症(ASD) n=216[n=216×(58.3%+41.7%)]】。複数の診断を受けている方がいるため、件数の合計は母数団(N=367)の件数を上回ります。

問8. お子さまの気になるところにあなたが最初に気づいたのはお子さまが何歳の頃ですか

「1～2歳」の比率が50.1%と特に高くなっており、次いで「3～5歳」が20.3%、「0歳」が19.2%となっています。



●お子さまの気になるところに最初に気づいた時期×年齢

12～14歳、15歳以上では「0歳」「1～2歳」を合わせるとそれぞれ半数を超えています。

	0歳で 気づいた	1～2歳で 気づいた	3～5歳で 気づいた	6～11歳で 気づいた	12歳以上で 気づいた	現在のところ、 気になる ところはない	無回答
総数(N=443)	19.2%	50.1%	20.3%	7.0%	0.7%	1.1%	1.6%
3歳以下 (n=40)	17.5%	82.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
4～5歳 (n=92)	14.1%	62.0%	20.7%	0.0%	0.0%	2.2%	1.1%
6～8歳 (n=89)	18.0%	47.2%	29.2%	1.1%	0.0%	2.2%	2.2%
9～11歳 (n=92)	16.3%	46.7%	27.2%	8.7%	0.0%	0.0%	1.1%
12～14歳 (n=74)	27.0%	36.5%	13.5%	20.3%	2.7%	0.0%	0.0%
15歳以上 (n=45)	26.7%	35.6%	17.8%	13.3%	2.2%	2.2%	2.2%

年齢無回答(n=11)はクロス集計の対象としていません(1 ページ参照)。

●お子さまの気になるところに最初に気づいた時期×診断結果

運動機能障がい「0歳」、学習障がい(LD)は「6～11歳」で高くなっています。

	0歳で 気づいた	1～2歳で 気づいた	3～5歳で 気づいた	6～11歳で 気づいた	12歳以上で 気づいた	現在のところ、気になるところはない	無回答
総数(N=443)	19.2%	50.1%	20.3%	7.0%	0.7%	1.1%	1.6%
自閉スペクトラム症(ASD) (n=216)	14.8%	56.0%	19.9%	7.4%	0.9%	0.5%	0.5%
注意欠如多動症(ADHD) (n=88)	22.7%	43.2%	21.6%	11.4%	0.0%	0.0%	1.1%
学習障がい(LD) (n=37)	16.2%	27.0%	24.3%	32.4%	0.0%	0.0%	0.0%
知的障がい (n=100)	32.0%	50.0%	15.0%	2.0%	0.0%	0.0%	1.0%
運動機能障がい (n=16)	56.3%	31.3%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
その他 (n=51)	29.4%	43.1%	21.6%	3.9%	0.0%	0.0%	2.0%
診断名特になし(無回答含む) (n=47)	21.3%	57.4%	17.0%	4.3%	0.0%	0.0%	0.0%
診断を受けていない (n=64)	14.1%	57.8%	15.6%	1.6%	1.6%	6.3%	3.1%

複数の診断を受けている方がいるため、件数の合計は母集団(N=443)の件数を上回ります。また、診断結果無回答(n=12)はクロス集計の対象としていません(2ページ参照)。

●はじめて診断結果が出た時期×お子さまの気になるところに最初に気づいた時期

初めて診断結果が出た頃別にみると、6～11歳で診断の46.7%(11.7+35.0)、12歳以上で診断の41.6%(8.3+33.3)が、「0歳」もしくは「1～2歳」で最初に気づいている結果となっており、気になるところに最初に気づいてから、診断結果が出るまでに長い年月を要した(早期診断ができていない)児童が一部みられます。

0歳で気づいていたにもかかわらず6～11歳で診断結果→結果が出るまで6～11年(11.7%)。

1歳～2歳で気づいていたにもかかわらず6～11歳で診断結果→結果が出るまで4～10年(35.0%)。

0歳で気づいていたにもかかわらず12歳以上で診断結果→結果が出るまで12年以上(8.3%)。

1歳～2歳で気づいていたにもかかわらず12歳以上で診断結果→結果が出るまで10年以上(33.3%)。

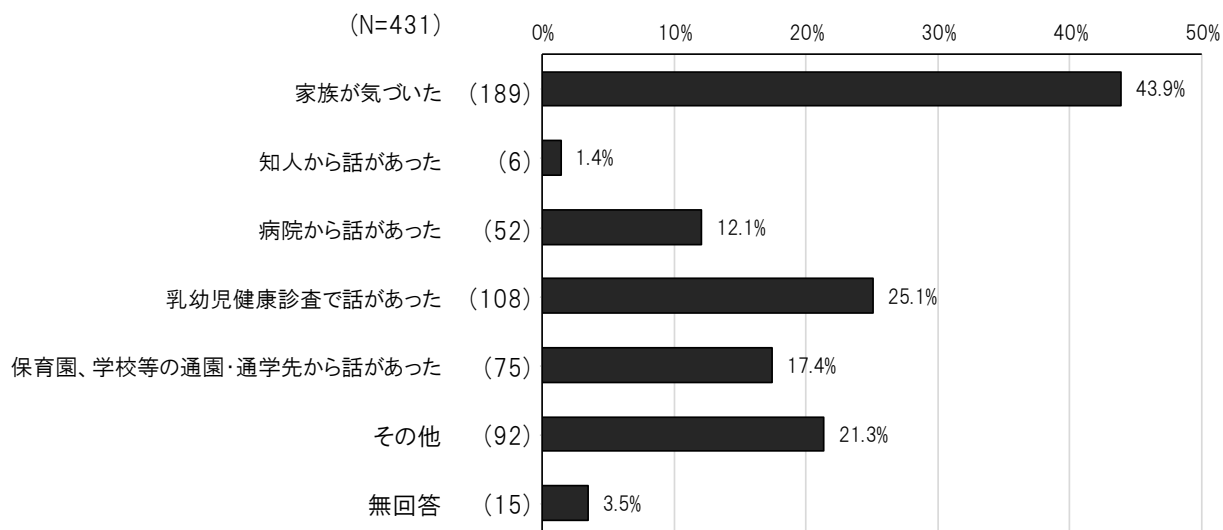
	0歳で 気づいた	1～2歳で 気づいた	3～5歳で 気づいた	6～11歳で 気づいた	12歳以上で 気づいた	現在のところ、気になるところはない	無回答
総数(N=367)	20.2%	48.8%	21.3%	8.2%	0.5%	0.3%	0.8%
0歳で診断 (n=23)	95.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.3%
1～2歳で診断 (n=41)	34.1%	65.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
3～5歳で診断 (n=150)	12.7%	57.3%	28.0%	0.7%	0.0%	0.0%	1.3%
6～11歳で診断 (n=103)	11.7%	35.0%	31.1%	21.4%	0.0%	1.0%	0.0%
12歳以上で診断 (n=12)	8.3%	33.3%	0.0%	41.7%	16.7%	0.0%	0.0%

はじめて診断結果が出た時期の回答数(n値)については、22ページ上段(はじめて診断結果が出た時期)のグラフ参照。また、初めて診断結果が出た頃無回答(n=38)はクロス集計の対象としていません。

問8で「現在のところ、気になるところはない(5件)、無回答(7件)」以外の方【431件】を対象

問8-1. 気づいたきっかけは何でしたか(複数回答)

「家族が気づいた」が43.9%と特に高くなっており、次いで「乳幼児健康診査で話があった」が25.1%、「その他」が21.3%となっています。



「その他」の記入内容(抜粋)

- ・妊娠中から指摘があり。
- ・超低出生体重児。
- ・1歳半健診後、半信半疑だったが、成長が進むにつれ特性が強くなった。
- ・けいれん重積脳症発症して以降全体的に発達の遅れが出ている。
- ・歩行、首のすわり、言葉の遅れがあり気になっていた。
- ・言葉が遅い等自分で気づいた。
- ・泣かない、身ぶり・手ぶりを使わない、声掛けの反応が鈍い。
- ・育てにくさからネット情報など調べて。
- ・幼稚園の未就園クラスで他の子との違いに気が付いた。
- ・癇癪が多かった。
- ・1年生からの不登校がきっかけ。サポートセンターゆうでのカウンセリングで検査を薦められた。

●お子さまの気になるところに気づいたきっかけ×年齢

「家族が気づいた」については年齢によって大きさはみられません。

「乳幼児健康診査で話があった」では3歳以下が高くなっていますが、次いで15歳以上も高くなっています。

「病院から話があった」は年齢が上がるにつれて高くなっています。

	家族が気づいた	知人から話があった	病院から話があった	乳幼児健康診査で話があった	保育園、学校等の通園・通学先から話があった	その他	無回答
総数(N=431)	43.9%	1.4%	12.1%	25.1%	17.4%	21.3%	3.5%
3歳以下 (n=40)	50.0%	2.5%	10.0%	42.5%	2.5%	17.5%	0.0%
4～5歳 (n=89)	47.2%	1.1%	5.6%	27.0%	16.9%	23.6%	0.0%
6～8歳 (n=85)	44.7%	0.0%	7.1%	25.9%	20.0%	25.9%	5.9%
9～11歳 (n=91)	40.7%	2.2%	13.2%	14.3%	19.8%	25.3%	2.2%
12～14歳 (n=74)	44.6%	2.7%	17.6%	21.6%	16.2%	17.6%	5.4%
15歳以上 (n=43)	37.2%	0.0%	23.3%	34.9%	25.6%	14.0%	4.7%

年齢別の回答数(n値)については、26ページ中段(お子さまの気になるところに最初に気づいた時期×年齢)の図表内の「現在のところ、気になるところはない」と「無回答」以外の回答割合を乗じた値です【例：15歳以上 n=43 [n=45×(100%-2.2%-2.2%)]】。なお、年齢無回答については本集計の対象としていません。

●お子さまの気になるところに気づいたきっかけ×診断結果

「病院から話があった」は運動機能障がい、「乳幼児健康診査で話があった」については知的障がい、診断を受けていない、「保育園、学校等の通園・通学先から話があった」は学習障がい(LD)で高くなっています。

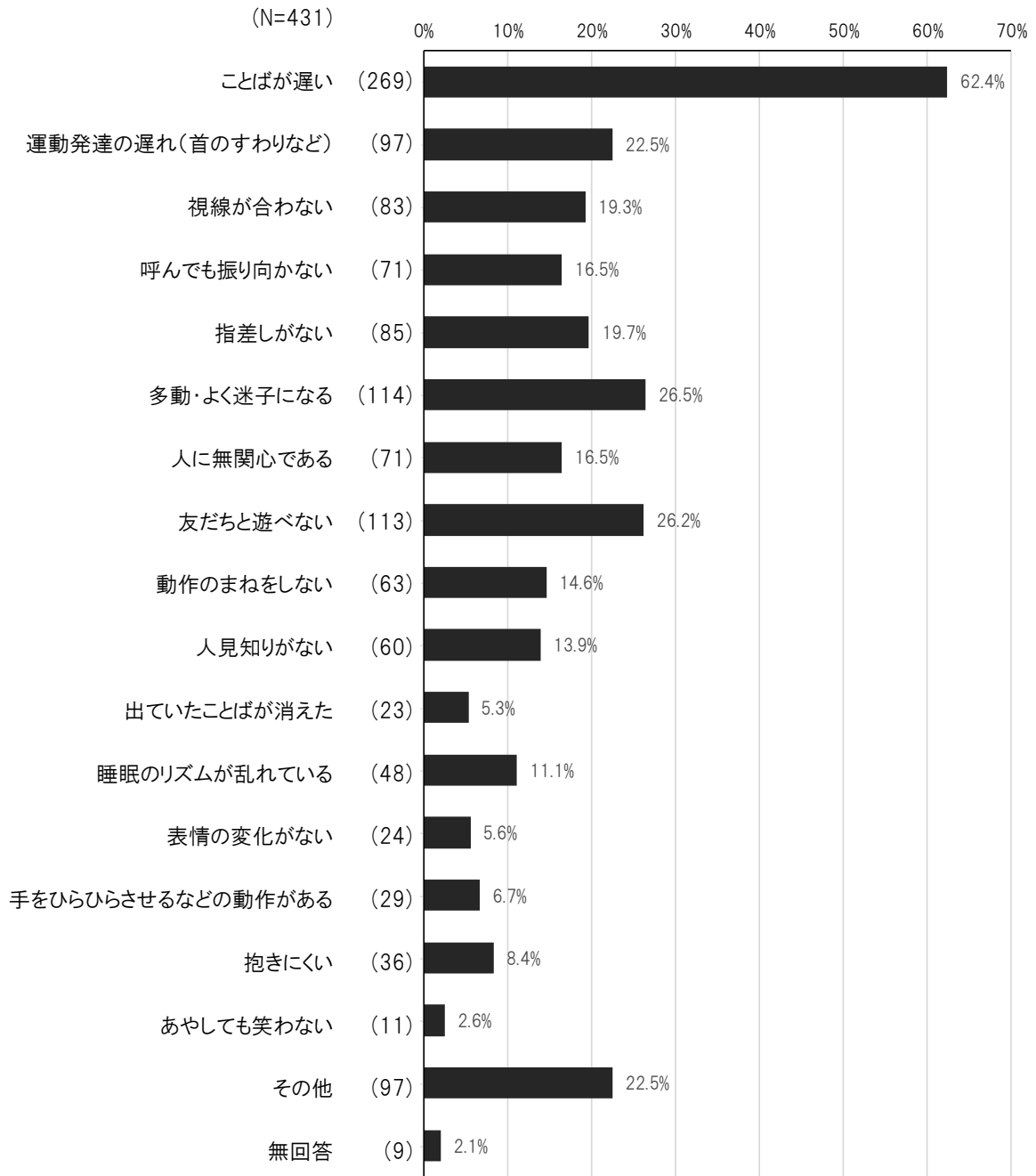
	家族が気づいた	知人から話があった	病院から話があった	乳幼児健康診査で話があった	保育園、学校等の通園・通学先から話があった	その他	無回答
総数(N=431)	43.9%	1.4%	12.1%	25.1%	17.4%	21.3%	3.5%
自閉スペクトラム症(ASD) (n=214)	45.8%	0.9%	9.8%	25.7%	16.8%	23.4%	4.7%
注意欠如多動症(ADHD) (n=87)	40.2%	0.0%	13.8%	19.5%	14.9%	26.4%	8.0%
学習障がい(LD) (n=37)	40.5%	2.7%	8.1%	16.2%	35.1%	18.9%	5.4%
知的障がい (n=99)	37.4%	3.0%	20.2%	37.4%	10.1%	22.2%	5.1%
運動機能障がい (n=16)	50.0%	6.3%	37.5%	18.8%	18.8%	18.8%	0.0%
その他 (n=50)	36.0%	0.0%	14.0%	22.0%	14.0%	38.0%	2.0%
診断名特になし(無回答含む) (n=47)	46.8%	0.0%	14.9%	10.6%	19.1%	23.4%	0.0%
診断を受けていない (n=58)	39.7%	3.4%	6.9%	39.7%	17.2%	6.9%	1.7%

診断結果別の回答数(n値)については、27ページ(お子さまの気になるところに最初に気づいた時期×診断結果)の図表内の「現在のところ、気になるところはない」と「無回答」以外の回答割合を乗じた値です【例：診断を受けていない n=58 [n=64×(100%-6.3%-3.1%)]】。複数の診断を受けている方がいるため、件数の合計は母数団(N=431)の件数を上回ります。なお、年齢無回答については本集計の対象としていません。

問8で「現在のところ、気になるところはない(5件)、無回答(7件)」以外の方【431件】を対象

問 8-2. 最初にお子さまのどういうところが気になりましたか(複数回答)

「ことばが遅い」が62.4%と特に高くなっており、次いで「多動・よく迷子になる」が26.5%、「友だちと遊べない」が26.2%となっています。



「その他」の記入内容(抜粋)

癇癪をおこす。

周囲と同じことができない。

いつまでも泣き止まない。

平仮名の学習が進まない。

好奇心旺盛で周りの子とペースが合わない。

注意散漫。

ひどく人見知りする。

椅子に座れず寝転がる。

おもちゃの遊び方。

呼吸が早い。

●お子さまの気になるところ×年齢

「ことばが遅い」は年齢が上がるにつれて低くなっています。

	ことばが遅い	(運動発達 の遅れなど) (首のすわりなど)	視線が合わない	呼んでも振り向かない	指差しがない	多動・よく迷子になる	人に無関心である	友だちと遊べない	動作のまねをしない	人見知りがない	出たことばが 消えた	睡眠のリズムが 乱れている	表情の変化がない	手をひらひらさせる などの動作がある	抱きにくい	あやしても笑わない	その他	無回答
総数(N=431)	62.4%	22.5%	19.3%	16.5%	19.7%	26.5%	16.5%	26.2%	14.6%	13.9%	5.3%	11.1%	5.6%	6.7%	8.4%	2.6%	22.5%	2.1%
3歳以下 (n=40)	80.0%	20.0%	15.0%	12.5%	20.0%	20.0%	17.5%	32.5%	15.0%	5.0%	7.5%	7.5%	0.0%	2.5%	2.5%	0.0%	10.0%	0.0%
4～5歳 (n=89)	74.2%	16.9%	20.2%	20.2%	27.0%	18.0%	12.4%	16.9%	20.2%	6.7%	6.7%	9.0%	2.2%	4.5%	1.1%	0.0%	20.2%	2.2%
6～8歳 (n=85)	65.9%	24.7%	25.9%	23.5%	18.8%	25.9%	21.2%	34.1%	18.8%	18.8%	9.4%	10.6%	5.9%	12.9%	10.6%	4.7%	22.4%	3.5%
9～11歳 (n=91)	49.5%	15.4%	12.1%	7.7%	16.5%	34.1%	11.0%	24.2%	7.7%	15.4%	2.2%	9.9%	6.6%	6.6%	8.8%	0.0%	33.0%	2.2%
12～14歳 (n=74)	55.4%	29.7%	27.0%	16.2%	20.3%	29.7%	20.3%	23.0%	12.2%	14.9%	5.4%	14.9%	8.1%	2.7%	14.9%	6.8%	24.3%	1.4%
15歳以上 (n=43)	51.2%	32.6%	14.0%	18.6%	16.3%	34.9%	20.9%	25.6%	14.0%	20.9%	0.0%	16.3%	11.6%	11.6%	14.0%	4.7%	18.6%	0.0%

年齢別の回答数(n値)については、26ページ中段(お子さまの気になるところに最初に気づいた時期×年齢)の図表内の「現在のところ、気になるところはない」と「無回答」以外の回答割合を乗じた値です【例:15歳以上 n=43 [n=45×(100%-2.2%-2.2%)]】。なお、年齢無回答については本集計の対象としていません。

●お子さまの気になるところ×診断結果

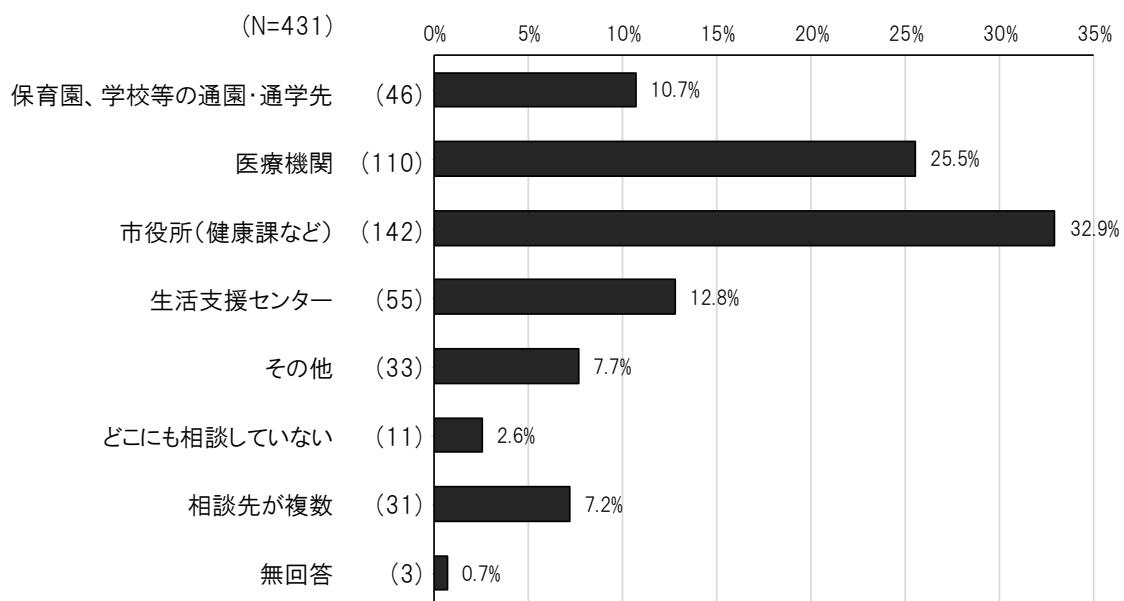
「ことばが遅い」は運動機能障がい、特に低くなっている一方で、「運動発達の遅れ(首のすわりなど)」は高くなっています。「多動・よく迷子になる」は注意欠如多動症(ADHD)が高くなっています。

	ことばが遅い	(運動発達 の遅れなど) (首のすわりなど)	視線が合わない	呼んでも振り向かない	指差しがない	多動・よく迷子になる	人に無関心である	友だちと遊べない	動作のまねをしない	人見知りがない	出たことばが 消えた	睡眠のリズムが 乱れている	表情の変化がない	手をひらひらさせる などの動作がある	抱きにくい	あやしても笑わない	その他	無回答
総数(N=431)	62.4%	22.5%	19.3%	16.5%	19.7%	26.5%	16.5%	26.2%	14.6%	13.9%	5.3%	11.1%	5.6%	6.7%	8.4%	2.6%	22.5%	2.1%
自閉スペクトラム症(ASD) (n=214)	63.6%	18.7%	27.1%	21.0%	25.2%	35.5%	23.8%	34.6%	20.1%	21.0%	8.4%	15.4%	7.5%	10.7%	11.2%	3.7%	22.4%	1.4%
注意欠如多動症(ADHD) (n=87)	55.2%	23.0%	19.5%	14.9%	16.1%	56.3%	12.6%	35.6%	14.9%	29.9%	3.4%	18.4%	6.9%	9.2%	13.8%	1.1%	29.9%	1.1%
学習障がい(LD) (n=37)	48.6%	13.5%	10.8%	8.1%	13.5%	27.0%	10.8%	18.9%	8.1%	16.2%	0.0%	10.8%	0.0%	5.4%	10.8%	2.7%	43.2%	5.4%
知的障がい (n=99)	72.7%	42.4%	34.3%	27.3%	34.3%	25.3%	25.3%	25.3%	25.3%	14.1%	11.1%	15.2%	10.1%	14.1%	15.2%	6.1%	13.1%	2.0%
運動機能障がい (n=16)	25.0%	56.3%	25.0%	0.0%	12.5%	18.8%	6.3%	18.8%	6.3%	6.3%	6.3%	6.3%	0.0%	6.3%	6.3%	6.3%	25.0%	0.0%
その他 (n=50)	56.0%	24.0%	24.0%	20.0%	18.0%	20.0%	10.0%	28.0%	14.0%	6.0%	8.0%	10.0%	4.0%	4.0%	8.0%	2.0%	34.0%	2.0%
診断名特になし(無回答含む) (n=47)	68.1%	19.1%	10.6%	10.6%	17.0%	6.4%	8.5%	19.1%	8.5%	12.8%	4.3%	6.4%	2.1%	2.1%	2.1%	2.1%	21.3%	4.3%
診断を受けていない (n=58)	69.0%	10.3%	8.6%	5.2%	12.1%	27.6%	6.9%	17.2%	8.6%	6.9%	0.0%	5.2%	3.4%	0.0%	3.4%	0.0%	15.5%	0.0%

診断結果別の回答数(n値)については、27ページ(お子さまの気になるところに最初に気づいた時期×診断結果)の図表内の「現在のところ、気になるところはない」と「無回答」以外の回答割合を乗じた値です【例:診断を受けていない n=58 [n=64×(100%-6.3%-3.1%)]】。複数の診断を受けている方がいるため、件数の合計は母数団(N=431)の件数を上回ります。なお、年齢無回答については本集計の対象としていません。

問8で「現在のところ、気になるところはない(5件)、無回答(7件)」以外の方【431件】を対象
 問 8-3. お子さまのことで気になることに最初に気づいてから、どの相談窓口にご相談しましたか

「市役所(健康課など)」が32.9%と最も高く、次いで「医療機関」が25.5%となっています。



●最初に気づいたときの相談窓口×年齢

未就学児（3歳以下と4～5歳）、主に小学生（6～8歳と9～11歳）、主に中・高校生（12～14歳と15歳以上）で回答傾向が異なります。「市役所（健康課など）」は「未就学児で高く、「医療機関」は中・高校生で高くなっています。

	保育園、学校等の通園・通学先	医療機関	市役所（健康課など）	生活支援センター	その他	どこにも相談していない	相談先が複数	無回答
総数(N=431)	10.7%	25.5%	32.9%	12.8%	7.7%	2.6%	7.2%	0.7%
3歳以下 (n=40)	5.0%	20.0%	55.0%	0.0%	15.0%	5.0%	0.0%	0.0%
4～5歳 (n=89)	7.9%	18.0%	43.8%	16.9%	7.9%	1.1%	4.5%	0.0%
6～8歳 (n=85)	11.8%	27.1%	35.3%	12.9%	3.5%	0.0%	8.2%	1.2%
9～11歳 (n=91)	11.0%	22.0%	33.0%	14.3%	7.7%	2.2%	8.8%	1.1%
12～14歳 (n=74)	12.2%	39.2%	16.2%	12.2%	8.1%	5.4%	6.8%	0.0%
15歳以上 (n=43)	11.6%	30.2%	18.6%	11.6%	9.3%	2.3%	16.3%	0.0%

年齢別の回答数(n値)については、26ページ中段(お子さまの気になるところに最初に気づいた時期×年齢)の図表内の「現在のところ、気になるところはない」と「無回答」以外の回答割合を乗じた値です【例：15歳以上 n=43 [n=45×(100%-2.2%-2.2%)]】。なお、年齢無回答については本集計の対象としていません。

●最初に気づいたときの相談窓口×診断結果

学習障がい(LD)、運動機能障がい(他)の診断と異なる傾向となっており、学習障がい(LD)は「保育園、学校等の通園・通学先」、運動機能障がい(他)は「医療機関」が他の診断結果に比べて高くなっています。

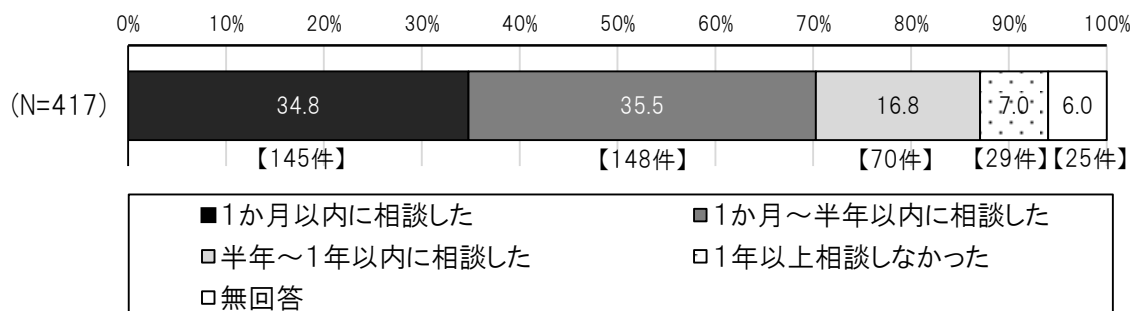
	保育園、学校等の通園・通学先	医療機関	市役所（健康課など）	生活支援センター	その他	どこにも相談していない	相談先が複数	無回答
総数(N=431)	10.7%	25.5%	32.9%	12.8%	7.7%	2.6%	7.2%	0.7%
自閉スペクトラム症(ASD) (n=214)	10.3%	26.2%	31.3%	13.1%	8.4%	1.9%	7.5%	1.4%
注意欠如多動症(ADHD) (n=87)	8.0%	29.9%	31.0%	13.8%	3.4%	5.7%	5.7%	2.3%
学習障がい(LD) (n=37)	18.9%	24.3%	10.8%	13.5%	8.1%	2.7%	16.2%	5.4%
知的障がい (n=99)	8.1%	35.4%	27.3%	17.2%	6.1%	0.0%	6.1%	0.0%
運動機能障がい (n=16)	0.0%	62.5%	6.3%	12.5%	6.3%	0.0%	12.5%	0.0%
その他 (n=50)	6.0%	26.0%	38.0%	14.0%	8.0%	4.0%	4.0%	0.0%
診断名特になし(無回答含む) (n=47)	10.6%	17.0%	53.2%	6.4%	2.1%	0.0%	10.6%	0.0%
診断を受けていない (n=58)	15.5%	12.1%	41.4%	10.3%	12.1%	5.2%	3.4%	0.0%

診断結果別の回答数(n値)については、27ページ(お子さまの気になるところに最初に気づいた時期×診断結果)の図表内の「現在のところ、気になるところはない」と「無回答」以外の回答割合を乗じた値です【例：診断を受けていない n=58 [n=64×(100%-6.3%-3.1%)]】。複数の診断を受けている方がいるため、件数の合計は母数団(N=431)の件数を上回ります。なお、年齢無回答については本集計の対象としていません。

問 8-3 で「どこにも相談していない(11 件)、無回答(3 件)」以外の方【417 件】を対象

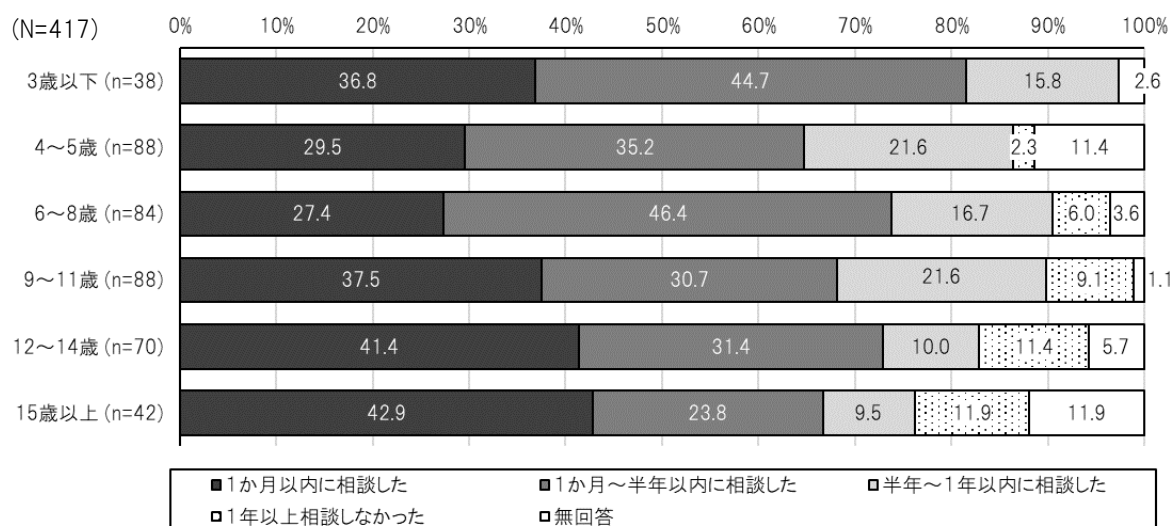
問 8-4. その相談窓口には、最初の気づきから、どれくらいに相談しましたか

「1 か月～半年以内に相談した」が 35.5%と最も高く、次いで「1 か月以内に相談した」が 34.8%となっています。



●最初の気づきから相談した時までの期間×年齢

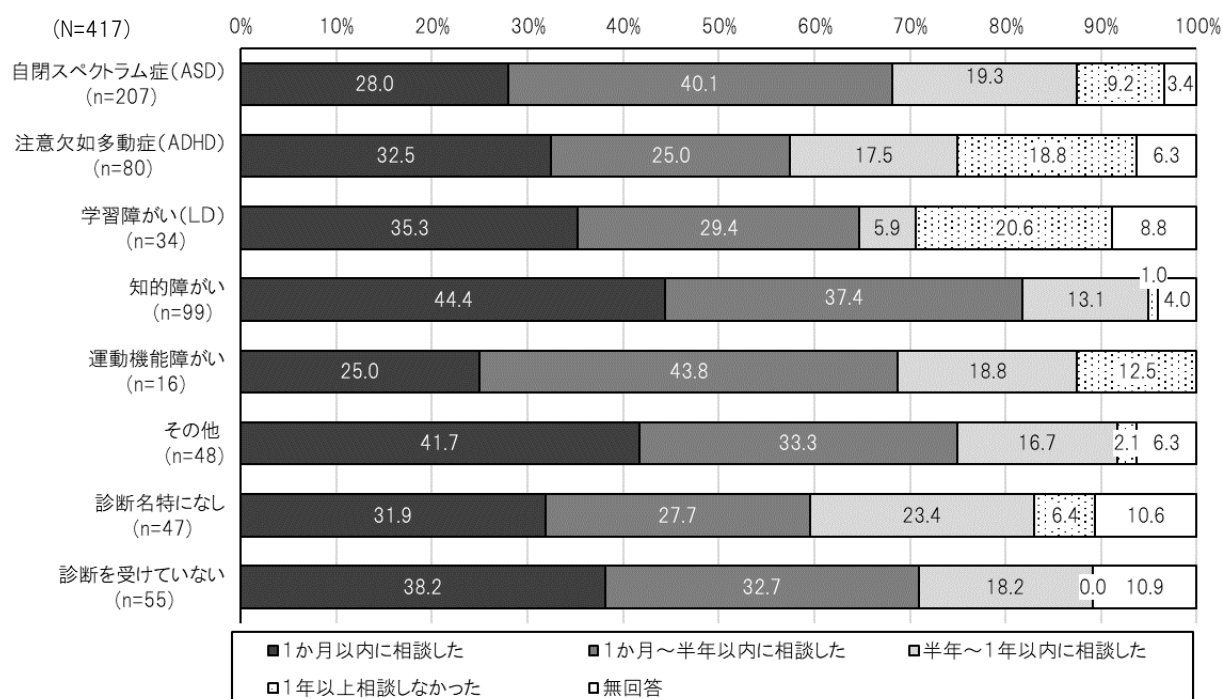
「1 か月以内に相談した」は、12～14 歳、15 歳以上など高年齢層で高くなっていますが、低年齢層については、3 歳以下が 4～5 歳、6～8 歳を上回っており、年齢による相関がみられません。



年齢別の回答数(n値)については、33ページ上段(最初に気づいたときの相談窓口×年齢)の図表内の「どこにも相談していない」と「無回答」以外の回答割合を乗じた値です【例:9～11歳 n=88 [n=91×(100%-2.2%-1.1%)]】。なお、年齢無回答については本集計の対象としていません。

●最初の気づきから相談した時までの期間×診断結果

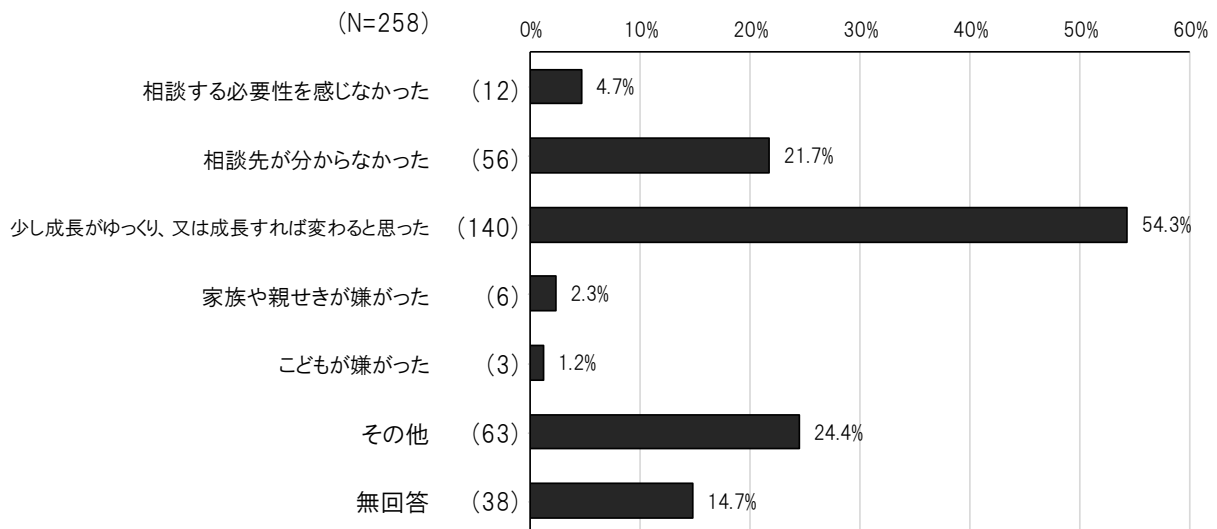
「1か月以内に相談した」は知的障がい者が最も高く、運動機能障がい者が最も低くなっています。また、診断数が最も多い自閉症スペクトラム症(ASD)も、運動機能障がい者に次いで低くなっています。



診断結果別の回答数(n値)については、33ページ下段(最初に気づいたときの相談窓口×診断結果)の図表内の「どこにも相談していない」と「無回答」以外の回答割合を乗じた値です【例：自閉症スペクトラム症(ASD) n=207 [n=214×(100%-1.9%-1.4%)]】。なお、診断結果無回答については本集計の対象としていません。

問 8-3 で「どこにも相談していない(11 件)」及び問 8-4 で「1 か月～半年以内に相談した(148 件)」
「半年～1年以内に相談した(70 件)」 「1年以上相談しなかった(29 件)」と答えた方【計 258 件】を対象
問 8-5. すぐに相談しなかった理由をお答えください(複数回答)

「少し成長がゆっくり、又は成長すれば変わると思った」が 54.3%と特に高くなっており、次いで「その他」が 24.4%、「相談先が分からなかった」が 21.7%となっています。



「その他」の記入内容(抜粋)

- ・本人があすなろに通い出して、しばらく経つまであまり遅れを実感できていなかった。
- ・診査の予定があったから。
- ・健診でも異常なしで、成長の段階であることと聞いていた。
- ・症状の知識がなかったのでわからなかった。
- ・出産時より定期的に発達外来にかかっていた。
- ・2歳頃から症状的なものはでていたが、2歳では診断できない為、様子を見ながら相談。
- ・自身が忙しかった。
- ・精神的に疲れていたから。
- ・自分の育て方や家庭環境が悪いと思った。
- ・相談予約はしたが、それから相談までに日数があった。
- ・そもそも相談するという発想がなかった。
- ・周りが否定した。

●すぐに相談しなかった理由×年齢

「少し成長がゆっくり、又は成長すれば変わらと思った」は、3歳以下で高く、「相談先」が分からなかったは、6歳以上で高くなっています。それ以外については回答傾向に大きな差がみられません。

	相談する 必要性を 感じなかった	相談先が分 からなかった	少し成長が ゆっくり、又は 成長すれば変 わらと思った	家族や親せき が嫌がった	こどもが 嫌がった	その他	無回答
総数(N=258)	4.7%	21.7%	54.3%	2.3%	1.2%	24.4%	14.7%
3歳以下 (n=25)	4.0%	8.0%	80.0%	0.0%	0.0%	20.0%	8.0%
4～5歳 (n=53)	1.9%	13.2%	58.5%	3.8%	0.0%	22.6%	13.2%
6～8歳 (n=58)	1.7%	24.1%	56.9%	1.7%	3.4%	24.1%	17.2%
9～11歳 (n=56)	7.1%	28.6%	46.4%	3.6%	1.8%	25.0%	12.5%
12～14歳 (n=41)	2.4%	29.3%	53.7%	0.0%	0.0%	29.3%	14.6%
15歳以上 (n=20)	15.0%	20.0%	35.0%	5.0%	0.0%	25.0%	25.0%

年齢別の回答数(n値)については、33ページ上段(最初に気づいたときの相談窓口×年齢)の図表内の「どこにも相談していない」の回答割合を乗じた値と34ページ(最初の気づきから相談した時までの期間×年齢)のグラフ内の「1か月～半年以内に相談した」「半年～1年以内に相談した」「1年以上相談しなかった」の回答割合を乗じた値を合わせた数値です【例:15歳以上 n=20 [n=43×2.3%+42×(23.8%+9.5%+11.9%)]】。なお、年齢無回答については本集計の対象としていません。

●すぐに相談しなかった理由×診断結果

運動機能障がいについては、「相談先が分からなかった」「少し成長がゆっくり、又は成長すれば変わらと思った」が他の診断と比べて低くなっています。

	相談する 必要性を 感じなかった	相談先が分 からなかった	少し成長が ゆっくり、又は 成長すれば変 わらと思った	家族や親せき が嫌がった	こどもが 嫌がった	その他	無回答
総数(N=258)	4.7%	21.7%	54.3%	2.3%	1.2%	24.4%	14.7%
自閉スペクトラム症(ASD) (n=146)	4.1%	26.7%	51.4%	2.1%	2.1%	27.4%	13.7%
注意欠如多動症(ADHD) (n=54)	1.9%	18.5%	48.1%	3.7%	1.9%	31.5%	16.7%
学習障がい(LD) (n=20)	0.0%	30.0%	50.0%	5.0%	0.0%	35.0%	15.0%
知的障がい (n=51)	3.9%	23.5%	54.9%	2.0%	3.9%	21.6%	19.6%
運動機能障がい (n=12)	0.0%	8.3%	41.7%	0.0%	0.0%	41.7%	16.7%
その他 (n=27)	0.0%	14.8%	40.7%	3.7%	0.0%	40.7%	11.1%
診断名特になし(無回答含む) (n=27)	11.1%	11.1%	59.3%	3.7%	0.0%	14.8%	18.5%
診断を受けていない (n=31)	3.2%	9.7%	67.7%	0.0%	0.0%	19.4%	16.1%

診断結果別の回答数(n値)については、33ページ下段(最初に気づいたときの相談窓口×診断結果)の図表内の「どこにも相談していない」の回答割合を乗じた値と35ページ(最初の気づきから相談した時までの期間×診断結果)のグラフ内の「1か月～半年以内に相談した」「半年～1年以内に相談した」「1年以上相談しなかった」の回答割合を乗じた値を合わせた数値です【例:自閉症スペクトラム症(ASD) n=146 [n=214×1.9%+207×(40.1%+19.3%+9.2%)]】。複数の診断を受けている方がいるため、件数の合計は母数団(N=258)の件数を上回ります。なお、診断結果無回答については本集計の対象としていません。

3. 児童通所サービスの利用状況について

問9. 現在、児童通所サービスを利用していますか（複数回答）

あてはまるものすべてに「現在利用している」の枠内に○をご記入いただき、現在利用しているサービスの満足度についてもお答えください

※集計結果のとりまとめは、児童発達支援、放課後等デイサービスのみとします

（両者以外のサービスは「その他」として記入されたものとなり、42 ページに記載しています。なお、個々の件数が少ないため、クロス集計を割愛しています）

●児童通所サービスの利用×年齢

年齢に応じて、5歳以下の未就学児では「児童発達支援」、6歳以上の就学児では「放課後等デイサービス」の利用で分かれており、4～5歳の「児童発達支援」及び6歳以上の「放課後等デイサービス」については、ほぼ全て（93～97%）の方が利用しています。

	児童発達支援 【153件】	放課後等デイサービス 【302件】	何も利用していない 【16件】
総数(N=443)	34.5%	68.2%	3.6%
3歳以下 (n=40)	87.5%	2.5%	5.0%
4～5歳 (n=92)	96.7%	9.8%	1.1%
6～8歳 (n=89)	11.2%	94.4%	3.4%
9～11歳 (n=92)	5.4%	93.5%	6.5%
12～14歳 (n=74)	10.8%	97.3%	1.4%
15歳以上 (n=45)	6.7%	93.3%	6.7%

年齢無回答(n=11)はクロス集計の対象としていません(1 ページ参照)。

●児童通所サービスの利用×診断結果

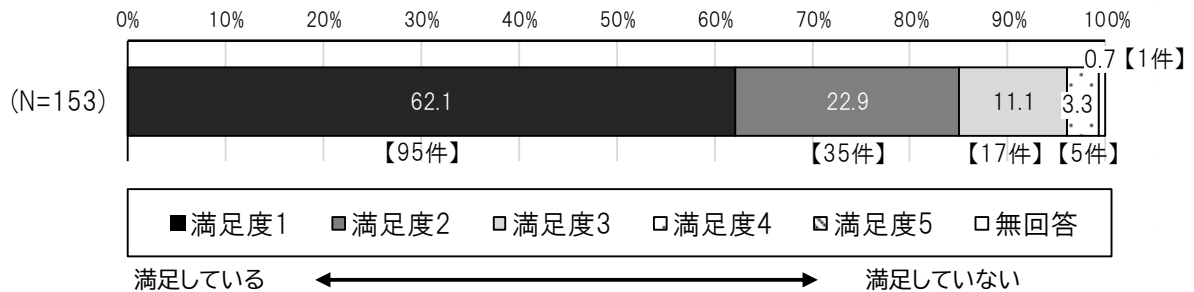
診断名特になし、診断を受けていない方の「児童発達支援」が高くなっています。

	児童発達支援	放課後等デイサービス	何も利用していない
総数(N=443)	34.5%	68.2%	3.6%
自閉スペクトラム症(ASD) (n=216)	21.3%	84.7%	3.2%
注意欠如多動症(ADHD) (n=88)	19.3%	89.8%	1.1%
学習障がい(LD) (n=37)	5.4%	94.6%	2.7%
知的障がい (n=100)	24.0%	81.0%	4.0%
運動機能障がい (n=16)	25.0%	75.0%	0.0%
その他 (n=51)	43.1%	64.7%	2.0%
診断名特になし(無回答含む) (n=47)	74.5%	34.0%	4.3%
診断を受けていない (n=64)	62.5%	32.8%	4.7%

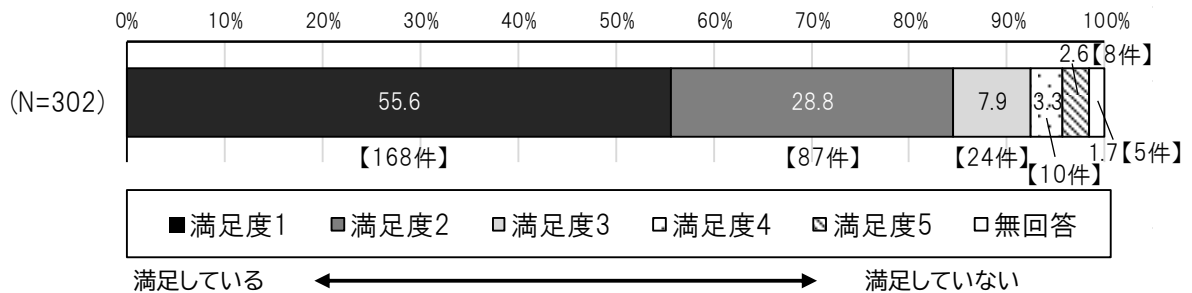
複数の診断を受けている方がいるため、件数の合計は母集団(N=443)の件数を上回ります。また、診断結果無回答(n=12)はクロス集計の対象としていません(2 ページ参照)。

利用満足度については、両サービスで大きな差はみられません。なお、回答が少数であるものの、「満足度4」「満足度5」を合わせた不満度については、放課後等デイサービスが5.9% (3.3+2.6) となっており、児童発達支援の3.3% (3.3+0.0) を上回っています。

児童発達支援【153 件】の利用満足度



放課後等デイサービス【302 件】の利用満足度



問9. 児童発達支援の利用にあたり、満足している理由、満足していない理由

●満足している理由（抜粋）

- ・その子に合った療育、丁寧に接してくれて成長を共に喜んでくれる。
- ・保育士、看護師が親身になってくれている。給食等栄養にも力を入れてくれている。
- ・少人数で保育士の数も多いのでゆったり見てもらえるから。園ではなかなかできない経験がいろいろできるから。
- ・子どもへの接し方はもちろん、親の悩み等にも寄り添って解決策を考えてくださり助かっています。
- ・子どもがとても楽しそうに通園しているため。
- ・利用前に比べて成長しているように思う。
- ・言葉が増え会話が少しずつできるようになってきた。
- ・病院と連携していて、発達検査などスムーズにしてもらえた。
- ・家から近い。LINE で写真を送ってくれる。
- ・送迎までしてもらえるから。夏休み期間等も利用できるから。

●満足していない理由

- ・週1か週5しか選べず振替の融通が効きにくい。
- ・週1クラスだと効果がわかりにくい。
- ・手厚くてすぐ助かっていますが、見ていただける時間が短く、共働きだとキツイです。
- ・預かりの時間が短いので、親が仕事に行けない。
- ・少し対応が遅い。
- ・満足はしているのですが、もう少し扉を開けて欲しい。
- ・療育内容などには満足しているが、送迎の時に、チャイルドシートまたはジュニアシートに乗せず直接助手席に子どもを乗せて送迎しており、安全面で不安なことがある。安全に対する意識が不十分のように感じている。

問9. 放課後等デイサービスの利用にあたり、満足している理由、満足していない理由

●満足している理由（抜粋）

- ・体を動かしたり、細かい作業をしたり、好きな事を思いっきりさせてくれたり、本人も大好きな居場所。
- ・きちんと子どもの特性を理解し、適切な言葉かけなどしてもらっていたり、必要に応じて、子どもに必要な話しなどしてくれるので。
- ・子どもの状況の報告頻度が多く、状態把握しやすく安心。日数を確保できている為、子どもも不安が少なくデイにいく事に抵抗が無い。
- ・子どもの特性に寄り添うだけでなく、親への理解も大きい。
- ・小中学校には登校できなかったものの、デイには自ら通う事ができました。パソコンが好きでパソコンに特化したサービス内容で、本人の居場所を与えて頂いていると思います。
- ・利用しはじめてから他人への興味を持ち出したり、成長を感じる。兄弟との関わりも良くなってきた。
- ・学校と家庭以外の第3の場所として、安心できる居場所になっている。色んな経験や学習のサポートをしてもらってありがたく思っている。
- ・丁寧に放課後、長期休暇中も見えてくれる。様々なプログラムがあり子どもが楽しみにしている。
- ・発達障がいの子どものための知識が深く対応がとても良い。親が気付いていないこともすぐに気付いてフォローしてもらえる上に、アドバイスや相談にも丁寧に対応してもらえるので、母子共に落ち着く事が出来た。

●満足していない理由

- ・スタッフの方にはとても良くしていただいておりますが、子どもとは相性がよくないのか行き渋りがあって、なかなか利用できていないので。
- ・子どもが最近行きたがらないので。
- ・本人が行きたがらない（相談先としては最適）。
- ・本人が行き渋りをしているため。
- ・子どもが行ってもすることがないと毎回文句ばかり言う。
- ・小学生には向いているが、中学生には足りない。通うにはやや遠い。
- ・親は満足しているが、本人には物足りなくなってきたから。
- ・本人が必要を感じていないからか、行きたがらず現在月1回程度。
- ・本人の居場所の提供と言うが、本人が積極的に利用したくない。
- ・スタッフさんや周囲の対人関係については満足というか充実していると実感しているが、送迎の有無などで、そもそも利用が出来ないデイサービスが多い。複数利用するにも色々と面倒が多い。
- ・親が働いていないと送迎サービスを受けられない。
- ・なかなか利用ができない。
- ・ほとんど行けてなくて評価しづらい。でも入っていることで安心感がある。
- ・各事業所の内容には満足しているが、所得制限により利用料が上がってしまい、以前のように利用できずにいる。
- ・子どもは楽しく通所しているが、療育的なことより「楽しい!」をメインにしている感じがするので、遊びに行くと感じるになっている。親的には個別で療育的なことをしてほしいのが本音です。
- ・寄り添ってくれない事業所がある。子どもがしばらく休んでいても、どうしているかなどの問い合わせを一切してくれない。なぜ休んでいるのかなど、子どもが社会に出ていないという現状に寄り添ってほしい。
- ・デイでの様子が、今いち分からない時がある。

問9. その他のサービス名等の回答について

●サービス名等の回答

サービス名	件名
OT、作業療法など。	5 件
移動支援。	4 件
言語療法など。	3 件
リハビリ。	3 件
行動援護。	3 件
ショートステイ。	3 件
居宅介護など。	2 件
コーチ。	2 件
訪問看護。	1 件
学習支援。	1 件
ものづくり。	1 件
通院・通学・入浴介助。	1 件
こども支援ルーム（療育）。	1 件
聾学校に通っている。	1 件
週 1 回集団療育 月 1 回個別療育	1 件

●個別事業所名の回答

事業所名	件名
Bamboo	1 件
あいりす	1 件
あすなろ	2 件
おもちゃ箱	1 件
きんぎょ	1 件
コペルプラス	1 件
すてっぴ	1 件
ツクルファーム	1 件
Tuna	1 件
のびいく	2 件
のびのびほっとルーム	2 件
みつほ	1 件
ワンステップ	1 件
華のあかり	1 件
無限	1 件

問9. その他のサービスの利用にあたり、満足している理由、満足していない理由

●満足している理由（抜粋）

- ・1つ1つの作業を分かりやすく説明してくれるので（OT、作業療法など）。
- ・工作が大好きで、且つ本人の気持ちに向くままに受け入れ表現させてくださっています（Bamboo）。
- ・睡眠が安定しない子を預かってもらう事で負担軽減となっている（ショートステイ）。
- ・どうしても在宅できない時に助かる（居宅介護など）。
- ・のびのびと過ごすことができ、行った日はいつもリフレッシュできているから（ものづくり）。
- ・言葉の訓練だけでなく、作業療法も取り入れてくれているから（言語療法など）。
- ・不登校児の居場所としてなくてはならない存在です。指導員の先生や友達との関わりで、情緒が安定しています（のびのびほっと一む）。

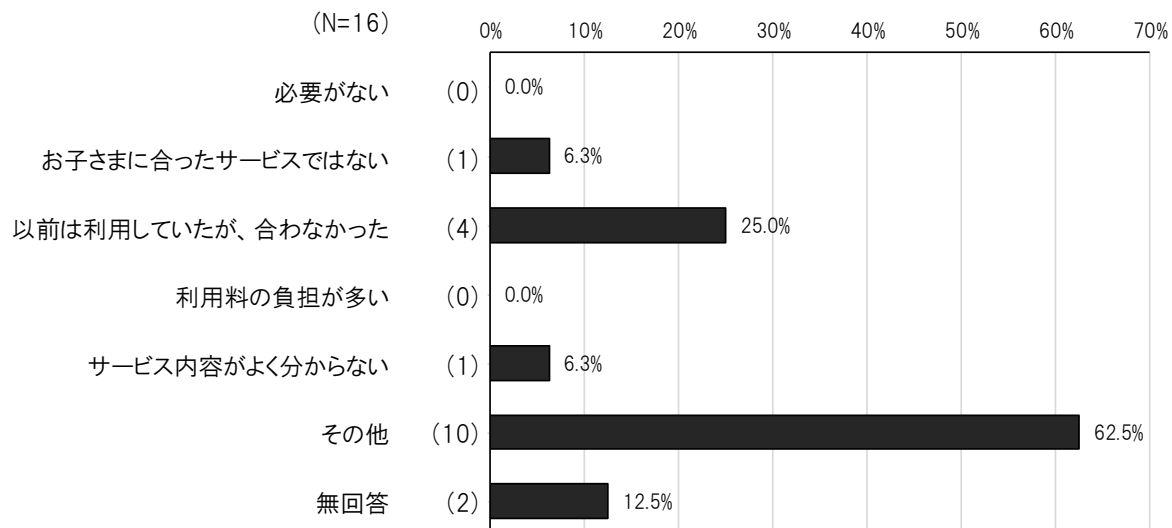
●満足していない理由

- ・通学、通所でも使えるようにしてほしい（移動支援）。
- ・利用できる事業所がほとんど無い（移動支援）。
- ・多くの事業所が人手不足、また受け入れの体制が整っていないので、お願いするのが難しい（移動支援）。

問9で「何も利用していない」と答えた方【16件】を対象

問9-1. 利用していない理由についてお答えください(複数回答)

回答数が16件と少なくなっていますが、「その他」が62.5%(10件)と特に高くなっており、その内訳については、卒業や進学にともない利用しなくなった、利用できなくなったことが多くなっています。



「その他」の記入内容

必要な時だけ利用。

以前利用していたが卒業した。

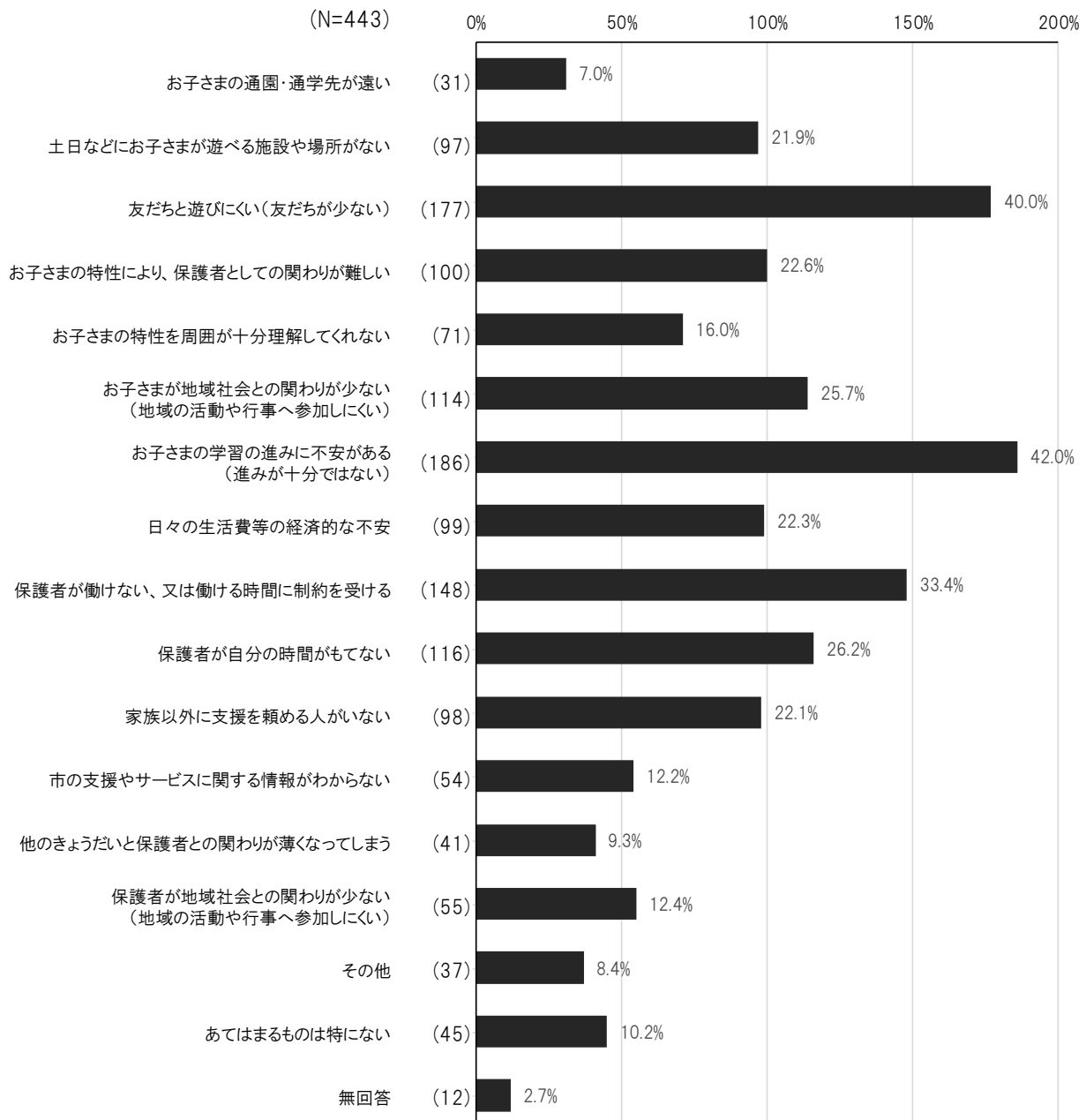
以前は利用していたが(高校生で)時間が合わなくなった。

子ども扱いされて子どもがへこんだ。

4. お子さまの成長に関することなどについて

問 10. お子さまのことであなたが現在、困っていることがあれば、お答えください(複数回答)

「お子さまの学習の進みに不安がある(進みが十分ではない)」が 42.0%と最も高く、次いで「友だちと遊びにくい(友だちが少ない)」が 40.0%、「保護者が働けない、又は働ける時間に制約を受ける」が 33.4%となっています。



●お子さまのことで困っていること×年齢

「土日などにお子さまが遊べる施設や場所がない」は、3歳以下で高く、「お子さまの学習の進みに不安がある(進みが十分ではない)」は、6歳以上で高くなっています。

	お子さまの通園・通学先が遠い	土日などにお子さまが遊べる施設や場所がない	友だちと遊びにくい (友だちが少ない)	保護者としての関わりが難しい	お子さまの特性により、 十分理解してくれない	お子さまが地域社会との関わりが少ない (地域の活動や行事へ参加しにくい)	お子さまの学習の進みに不安がある (進みが十分ではない)	日々の生活費等の経済的な不安	又は働ける時間に制約を受ける	保護者が自分の時間がもてない	家族以外に支援を頼める人がいない	市の支援やサービスに関する 情報がわからない	他のきょうだいと保護者との 関わりが薄くなってしまふ	保護者が地域社会との関わりが少ない (地域の活動や行事へ参加しにくい)	その他	あてはまるものは特にない	無回答
総数(N=443)	7.0%	21.9%	40.0%	22.6%	16.0%	25.7%	42.0%	22.3%	33.4%	26.2%	22.1%	12.2%	9.3%	12.4%	8.4%	10.2%	2.7%
3歳以下 (n=40)	12.5%	45.0%	45.0%	10.0%	5.0%	25.0%	17.5%	12.5%	50.0%	27.5%	22.5%	20.0%	2.5%	12.5%	5.0%	15.0%	0.0%
4～5歳 (n=92)	7.6%	38.0%	34.8%	26.1%	14.1%	21.7%	32.6%	15.2%	33.7%	37.0%	28.3%	15.2%	15.2%	14.1%	4.3%	14.1%	0.0%
6～8歳 (n=89)	11.2%	20.2%	42.7%	20.2%	20.2%	28.1%	48.3%	24.7%	41.6%	32.6%	24.7%	11.2%	5.6%	18.0%	11.2%	10.1%	2.2%
9～11歳 (n=92)	2.2%	13.0%	47.8%	22.8%	18.5%	22.8%	45.7%	19.6%	26.1%	17.4%	13.0%	8.7%	13.0%	12.0%	9.8%	7.6%	6.5%
12～14歳 (n=74)	5.4%	9.5%	36.5%	27.0%	14.9%	27.0%	54.1%	27.0%	25.7%	21.6%	18.9%	6.8%	8.1%	8.1%	10.8%	6.8%	2.7%
15歳以上 (n=45)	6.7%	13.3%	35.6%	24.4%	20.0%	33.3%	46.7%	40.0%	28.9%	17.8%	28.9%	17.8%	6.7%	6.7%	8.9%	8.9%	0.0%

年齢無回答(n=11)はクロス集計の対象としていません(1 ページ参照)。

●お子さまのことで困っていること×診断結果

「お子さまの学習の進みに不安がある(進みが十分ではない)」は、学習障がい(LD)で高くなっています。

	お子さまの通園・通学先が遠い	土日などにお子さまが遊べる施設や場所がない	友だちと遊びにくい (友だちが少ない)	保護者としての関わりが難しい	お子さまの特性により、 十分理解してくれない	お子さまが地域社会との関わりが少ない (地域の活動や行事へ参加しにくい)	お子さまの学習の進みに不安がある (進みが十分ではない)	日々の生活費等の経済的な不安	又は働ける時間に制約を受ける	保護者が自分の時間がもてない	家族以外に支援を頼める人がいない	市の支援やサービスに関する 情報がわからない	他のきょうだいと保護者との 関わりが薄くなってしまふ	保護者が地域社会との関わりが少ない (地域の活動や行事へ参加しにくい)	その他	あてはまるものは特にない	無回答
総数(N=443)	7.0%	21.9%	40.0%	22.6%	16.0%	25.7%	42.0%	22.3%	33.4%	26.2%	22.1%	12.2%	9.3%	12.4%	8.4%	10.2%	2.7%
自閉スペクトラム症(ASD) (n=216)	5.6%	19.4%	44.0%	30.1%	22.7%	31.0%	47.2%	26.9%	33.8%	28.7%	20.8%	13.4%	12.0%	13.0%	10.6%	6.5%	1.4%
注意欠如多動症(ADHD) (n=88)	5.7%	22.7%	45.5%	42.0%	30.7%	31.8%	54.5%	34.1%	29.5%	31.8%	28.4%	15.9%	15.9%	9.1%	11.4%	4.5%	3.4%
学習障がい(LD) (n=37)	5.4%	8.1%	54.1%	18.9%	21.6%	21.6%	75.7%	24.3%	18.9%	10.8%	21.6%	5.4%	8.1%	10.8%	13.5%	5.4%	2.7%
知的障がい (n=100)	10.0%	26.0%	49.0%	27.0%	18.0%	40.0%	46.0%	24.0%	46.0%	35.0%	32.0%	10.0%	11.0%	22.0%	9.0%	10.0%	1.0%
運動機能障がい (n=16)	25.0%	25.0%	31.3%	12.5%	12.5%	37.5%	25.0%	31.3%	37.5%	25.0%	18.8%	18.8%	12.5%	18.8%	18.8%	25.0%	0.0%
その他 (n=51)	13.7%	25.5%	39.2%	23.5%	13.7%	35.3%	47.1%	23.5%	43.1%	29.4%	27.5%	17.6%	11.8%	9.8%	21.6%	5.9%	2.0%
診断名特になし(無回答含む) (n=47)	10.6%	29.8%	29.8%	8.5%	10.6%	10.6%	27.7%	21.3%	34.0%	27.7%	23.4%	10.6%	4.3%	8.5%	2.1%	19.1%	2.1%
診断を受けていない (n=64)	4.7%	28.1%	32.8%	12.5%	1.6%	14.1%	20.3%	9.4%	26.6%	17.2%	18.8%	7.8%	1.6%	7.8%	1.6%	18.8%	3.1%

複数の診断を受けている方がいるため、件数の合計は母集団(N=443)の件数を上回ります。また、診断結果無回答(n=12)はクロス集計の対象としていません(2 ページ参照)。

問 11. お子さまが不安と感じていることや困っていること、助けてほしいことなどについて、お子さまご自身からお話が聞けましたら、その内容をお答えください(自由記入)

128件の記入があり、うち29件は、「とくになし(お子さまが自ら無しと答えた場合や、お子さまから聞くことができなかった場合など含む)」となっており、99件の意見の記入がありました。

記入内容を踏まえて分類した99件の内訳については以下のとおりです。

学校生活、学習面に関すること。	39 件
うまくコミュニケーションがとれないこと。	24 件
他人と同じことができない劣等感。	8 件
感情のコントロールができないこと。	7 件
卒業後の進路、社会に出るのが不安。	6 件
強迫性障がいの症状が辛いこと。	3 件
持病等に関する不安。	3 件
見た目が変わらないため、障がいのあることを理解してくれないこと。	2 件
その他。	7 件
合 計	99 件

記入内容(抜粋)

●学校生活、学習面に関すること

中学生になったら勉強がついていけるか不安。算数がむずかしい。漢字をすぐに忘れてしまう。
書くことが苦手で連絡帳や学習ノートをしっかり書けない。ノートにプリントを貼り忘れる。ノートのページを順番ずつ使えない。
学校でのタブレット授業が難しい。支援の先生が他のクラスに行っていると先生には聞きにくい。
漢字が読めないからお友達の名札が読めず名前が覚えられない。プリント課題の宿題もあるが(ことばの遅れからと漢字が読めない事から)自分一人ではできない。(ワーキングメモリの数値が低いからだと思いますが)暗記ができない。
勉強(学校は嫌いじゃないけど学校での勉強)は好きじゃない、行こうと思っても本が読みたかったり、YouTubeが見たくなって行けない(送りだしていても戻ってしまう)。一人では行けない。算数が嫌。文字書くのが無理など。
LDが理解されない。テストの受け方等について、自己理解を伝える事の難しさがあり、伝えるためのサポート体制をつくってほしい。現状では、学校、保護者、病院、支援サービスがばらばらで、それぞれの思い(サポートしたいという)がうまくつながっていない。
他府県(大阪府など)に比べて支援学校に入る基準が厳しすぎる為、進路に対して不安を感じている。支援学校の数も少なく、選択肢がない為、とても困っています。現在小学4年だが、中学以降の進路が分からない。
本人は自分の特性を自覚しており、学校で友達とトラブルがある時、きちんと言葉で今はこういう事だから、それはできませんと伝えているが(例、イライラしているから話し合いは今はできない等)、それをうまく対応してもらえなかったという事が何度あった。特別扱いしてほしいわけではないが、通常学級の子どものとのトラブルで上手いかわない。

●うまくコミュニケーションがとれないこと

嫌がらせを受けた時に、大人に相談ができない(相談するとその子が大人に怒られるから)。
家族やデイの先生以外に話しかけられない。場所見知りがすごいので、外出先でトイレにいけない。
集団の中でのルールを理解や、同年代の仲間とのコミュニケーションの取り方に困っている。社会の中での暗黙のルール、マナー、決まりなどが理解し難いようで、特に初めての場や慣れないことをするのに大きな不安がある。
そもそも何が「不安」に当てはまるのかを本人が理解していない。時間や周囲(家族)の流れに乗って生活しているので、自発的に意志表示を明確にすることも少ない。
クラスの子の仲間に入れない。先生は忙しそうで相談できない(相談したい先生が欠員のこともある)。先生は他の子にかこまれていて言いにいけない。困ったことがあっても言う他の子にばかにされるので言えない。特別支援学級に入ると、全体と隔離されるので(別室)(クラスにいる時間が減る)、他の子に悪口を言われるし入りたくない。と言う。
お友だちとの関わりに不安があり、運動面にも不安があり、ドッジボールに入っていくと感じたりしている。また、すぐに腹痛や吐き気を催し、早退したり、学校に行きたがらないことがあり、原因が精神的なものか本人もわからないようである。
本人自身は、今のところ特に不自由を感じているということはないように見える。周りが(親、兄弟、姉妹)どのように接したり声をかけたらいいか、分からなくなることがある。
保育園で困った時、先生が本人の代わりにやってしまう。本人はよく理解できないまま、次の場面へ行ってしまう。

●他人と同じことができない劣等感

一生懸命頑張っているのに、どうして自分はできないのか？人より頑張っているつもりなのに自分だけできない。
下校時に早く歩く事ができず、周りの子との意思疎通も難しいためついて行けず、1人で取り残されてしまい毎日辛い。
初めてすることが苦手、不安、自信がない。みんなの前での失敗が嫌。
友達と遊びたいけど遊んでももらえないから寂しい。みんなと勉強したいけどわからないし、無理だから辛い。

●感情のコントロールができないこと

ADHD なので、自分で抑えようとしても衝動性が抑えられない。みんなと同じ事ができない。
どうしたら落ち着くことができるのか？ どうしたら短気が直せるのか？ ASD の特性かと思います。
集団が苦手な為、地域の学校で学ぶことは難しいことは小学校で経験し分かっているが、養護学校では聴覚の刺激（泣き声、怒り声など）が辛く、回避法がとれないくらいのストレスを感じるときの他害行為に至ったとき、コントロールできなかったりすることが、より辛く思う。中程度の知的障がいの為の学校があるといいと思う。
初めての場所が苦手。じっとできなくて困る。

●卒業後の進路、社会に出るのが不安

これから社会へ出ていくことに不安しかない。息子の適性では思うようなサービスや支援も少なく、社会の中で自立は難しく感じるが大人になると働くのは難しくなっても障害者年金を受けられないなど将来に対しての不安しかないです。
中学にあがったら支援がどうなるのかもわからなかったし、高校になったら支援がどうなるのかもわからなかった。高校卒業後のルートが全く見えず、親からも説明してやれない。
いつ、だれが、親や子どもに将来についてのビジョンを教えてくれるのか。どういう公的支援があるのかを早く教えてもらわないと、精神的にダメになりそう。

●強迫性障がいの症状が辛いこと

悪い人が家に忍び込んでいないか、強迫性障がいの症状がしんどい。
母親に依存しているところがあり、1人になることが怖い。

●持病等に関する不安

感覚過敏がひどくなり、学校には週 1～2回しか登校できていないが、学び場の確保が難しく、放課後デイを利用したくても感覚過敏が原因で集団内での活動や取組ができずに、人間関係が気薄になりつつあります。
頭痛が起きる不安。

●見た目が変わらないため、障がいのあることを理解してくれないこと

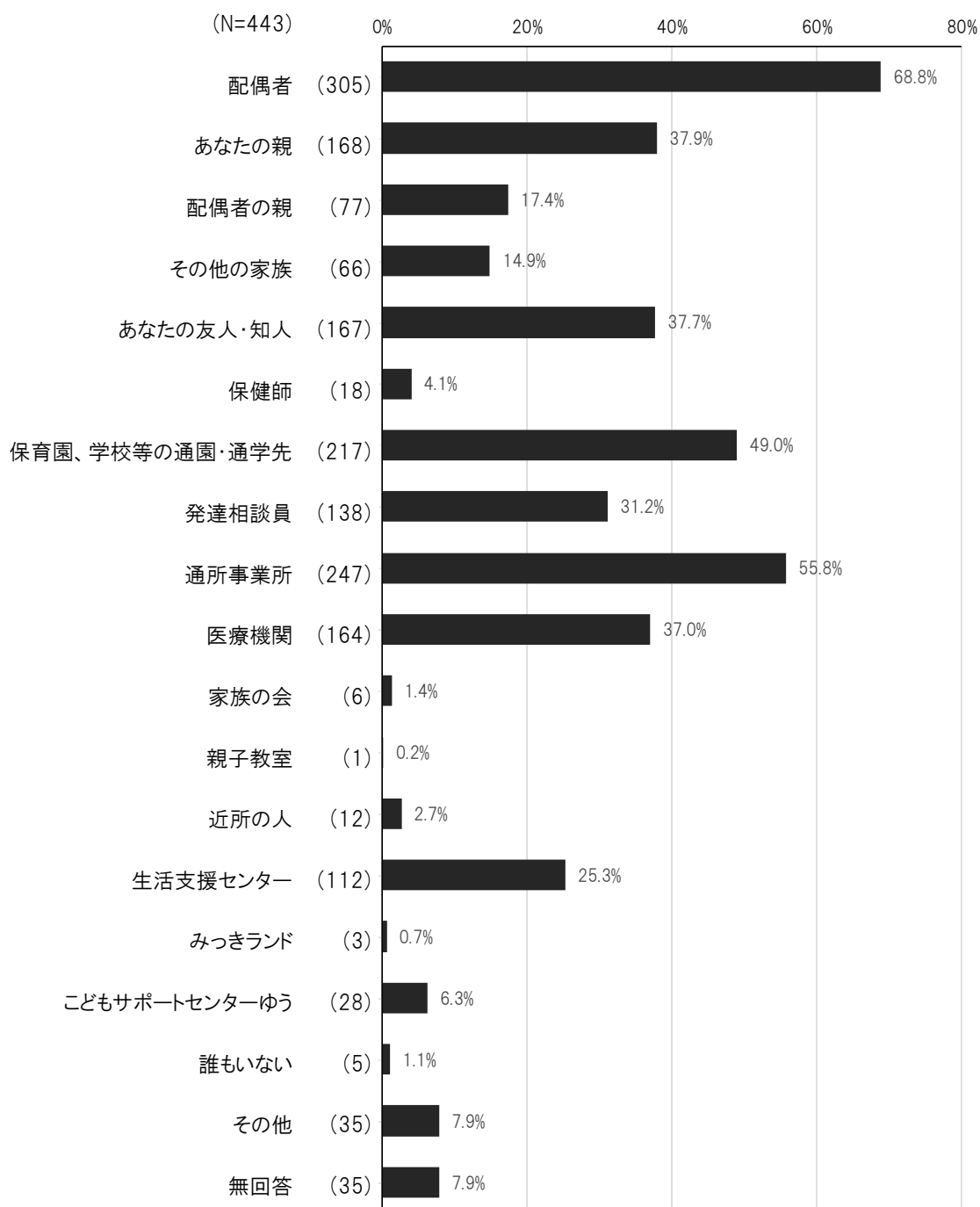
本人は話せませんが、見た目は普通の子と変わらないので、なかなか障がいを理解してもらえず、厳しいお叱りを受けることもあるので、本人も家族も外出時にはかなりビリビリしています。
--

●その他

家からすぐに遊びに行ける公園が欲しい。外で思いっきり遊びたいが、走り回れる公園がないのが辛い。
利用する支援機関では、時間が少ないところで預ける所も無くて困っています（1人親で働いているので、私がしんどくなり突発で入れてくれる所あればと思ったりします）。
そこまでの自覚が薄い。自己理解が弱い。

問 12. お子さまの成長に関する不安や悩みについて、あなたが相談できる人や機関はありますか(複数回答)

「配偶者」が68.8%と最も高く、次いで「通所事業所」が55.8%、「保育園、学校等の通園・通学先」が49.0%となっています。



●お子さまのことでの不安や悩みの相談先×年齢

3歳以下の「保健師」が他の年齢に比べて高く、「保育園・学校等の通園・通学先」が他の年齢に比べて低くなっていますが、それ以外では回答傾向として大きな差はみられません。

	配偶者	あなたの親	配偶者の親	その他の家族	あなたの友人・知人	保健師	保育園・学校等の通園・通学先	発達相談員	通所事業所	医療機関	家族の会	親子教室	近所の人	生活支援センター	みつきランド	こどもサポートセンターゆう	誰もいない	その他	無回答
総数(N=443)	68.8%	37.9%	17.4%	14.9%	37.7%	4.1%	49.0%	31.2%	55.8%	37.0%	1.4%	0.2%	2.7%	25.3%	0.7%	6.3%	1.1%	7.9%	7.9%
3歳以下 (n=40)	80.0%	45.0%	25.0%	17.5%	40.0%	12.5%	35.0%	40.0%	65.0%	22.5%	0.0%	2.5%	5.0%	20.0%	0.0%	2.5%	0.0%	10.0%	2.5%
4～5歳 (n=92)	75.0%	51.1%	22.8%	16.3%	48.9%	7.6%	60.9%	40.2%	59.8%	39.1%	2.2%	0.0%	3.3%	19.6%	2.2%	2.2%	1.1%	3.3%	9.8%
6～8歳 (n=89)	65.2%	33.7%	19.1%	16.9%	36.0%	1.1%	58.4%	34.8%	51.7%	41.6%	1.1%	0.0%	3.4%	23.6%	1.1%	10.1%	1.1%	9.0%	5.6%
9～11歳 (n=92)	72.8%	34.8%	15.2%	12.0%	40.2%	4.3%	42.4%	30.4%	54.3%	39.1%	1.1%	0.0%	2.2%	27.2%	0.0%	4.3%	1.1%	9.8%	8.7%
12～14歳 (n=74)	64.9%	32.4%	10.8%	16.2%	31.1%	1.4%	44.6%	21.6%	52.7%	31.1%	2.7%	0.0%	0.0%	29.7%	0.0%	8.1%	1.4%	5.4%	9.5%
15歳以上 (n=45)	55.6%	28.9%	13.3%	11.1%	26.7%	0.0%	42.2%	17.8%	57.8%	44.4%	0.0%	0.0%	4.4%	35.6%	0.0%	11.1%	0.0%	8.9%	8.9%

年齢無回答(n=11)はクロス集計の対象としていません(1 ページ参照)。

●お子さまのことでの不安や悩みの相談先×診断結果

その他の「通所事業所」が他の診断結果に比べて高くなっています。また、運動機能障がいの「通所事業所」「生活支援センター」が特に低くなっていますが、それ以外では回答傾向として大きな差はみられません。

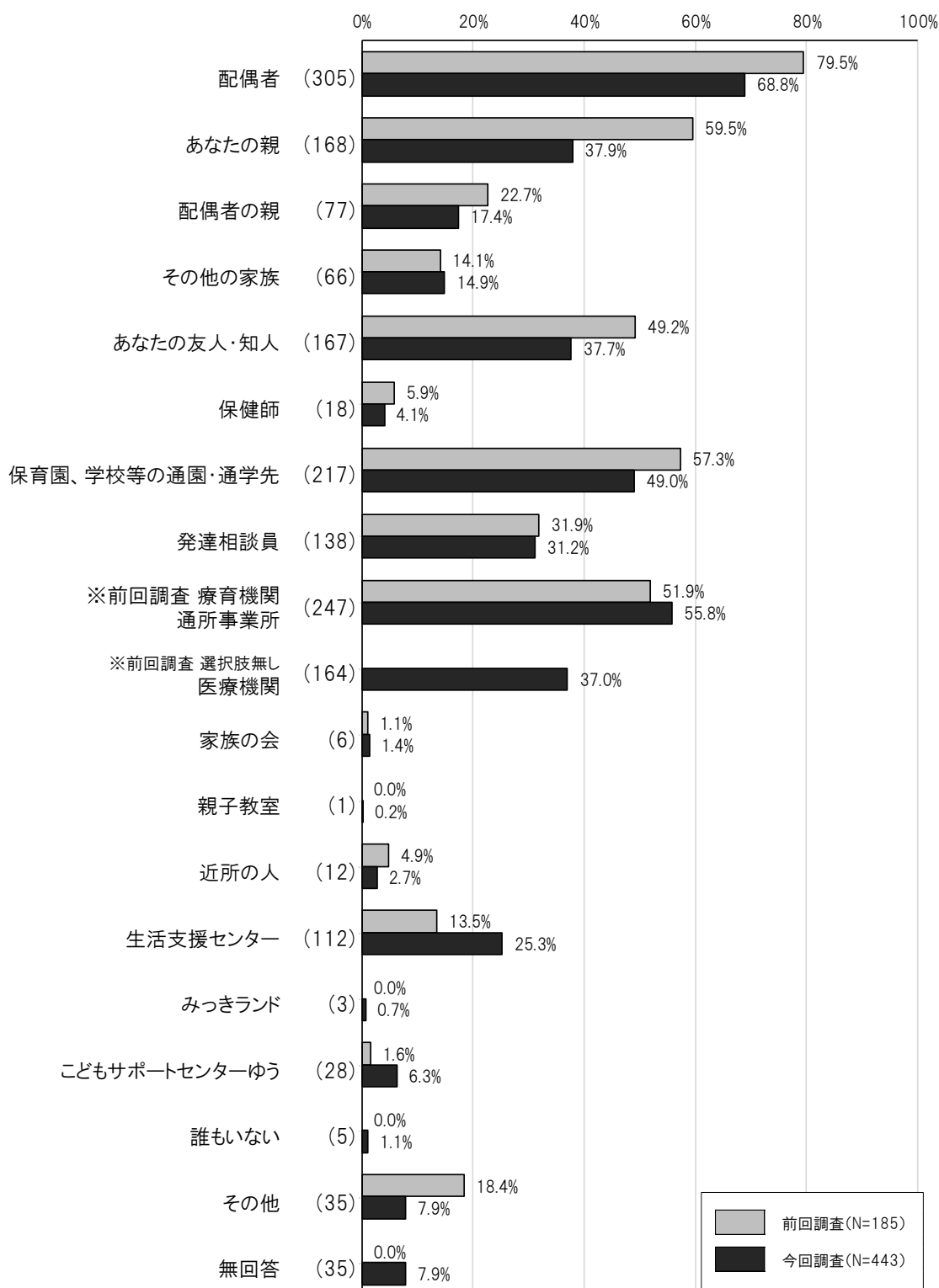
	配偶者	あなたの親	配偶者の親	その他の家族	あなたの友人・知人	保健師	保育園・学校等の通園・通学先	発達相談員	通所事業所	医療機関	家族の会	親子教室	近所の人	生活支援センター	みつきランド	こどもサポートセンターゆう	誰もいない	その他	無回答
総数(N=443)	68.8%	37.9%	17.4%	14.9%	37.7%	4.1%	49.0%	31.2%	55.8%	37.0%	1.4%	0.2%	2.7%	25.3%	0.7%	6.3%	1.1%	7.9%	7.9%
自閉スペクトラム症(ASD) (n=216)	66.2%	34.7%	16.2%	11.6%	32.9%	1.4%	44.4%	27.3%	50.9%	39.8%	1.9%	0.0%	3.2%	24.1%	0.5%	6.9%	1.4%	9.3%	11.6%
注意欠如多動症(ADHD) (n=88)	67.0%	34.1%	15.9%	6.8%	36.4%	2.3%	42.0%	26.1%	53.4%	43.2%	1.1%	0.0%	0.0%	19.3%	1.1%	8.0%	1.1%	8.0%	14.8%
学習障がい(LD) (n=37)	73.0%	24.3%	10.8%	8.1%	35.1%	0.0%	29.7%	24.3%	51.4%	32.4%	0.0%	0.0%	0.0%	27.0%	0.0%	5.4%	0.0%	10.8%	2.7%
知的障がい (n=100)	69.0%	42.0%	18.0%	17.0%	42.0%	4.0%	59.0%	31.0%	56.0%	47.0%	0.0%	0.0%	5.0%	31.0%	0.0%	5.0%	1.0%	5.0%	4.0%
運動機能障がい (n=16)	75.0%	31.3%	12.5%	18.8%	37.5%	0.0%	50.0%	25.0%	31.3%	37.5%	0.0%	0.0%	0.0%	6.3%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	18.8%
その他 (n=51)	78.4%	45.1%	15.7%	23.5%	43.1%	5.9%	66.7%	51.0%	78.4%	52.9%	3.9%	2.0%	3.9%	27.5%	0.0%	13.7%	0.0%	3.9%	7.8%
診断名特になし(無回答含む) (n=47)	63.8%	38.3%	23.4%	19.1%	46.8%	6.4%	59.6%	31.9%	59.6%	25.5%	2.1%	0.0%	0.0%	25.5%	4.3%	0.0%	2.1%	4.3%	8.5%
診断を受けていない (n=64)	71.9%	43.8%	18.8%	14.1%	39.1%	6.3%	40.6%	34.4%	57.8%	21.9%	0.0%	0.0%	1.6%	31.3%	0.0%	4.7%	1.6%	7.8%	3.1%

複数の診断を受けている方がいるため、件数の合計は母集団(N=443)の件数を上回ります。また、診断結果無回答(n=12)はクロス集計の対象としていません(2 ページ参照)。

◇お子さまのことでの不安や悩みの相談先 前回調査との比較

「配偶者」「あなたの親」「あなたの友人・知人」「保育園、学校等の通園・通学先」などが減少している一方で、「生活支援センター」「こどもサポートセンターゆう」が増加しています。

なお、前回調査と選択肢の一部が異なり、前回調査の「療育機関」を「通所事業所」に変更し、新たに「医療機関」を追加しています。



問 13. お子さまの成長を目的として、これまで取り組んできたことがありましたら、教えてください(複数回答)

問 13-1. 問 13 で「○」を付けた項目のうち、これまで取り組んできて良かったと思われる項目の番号をお書きください

取り組んできたことについては、「事業所での療育」が 82.6%と最も高く、次いで「医療機関での訓練」が 50.1%、「運動教室(スポーツ・スイミング等)」が 41.3%となっており、取り組んできたよかったことについても、取り組んできたことと同様の順となっています。

取り組んできたことの件数に対する取り組んできてよかったことの比率についても、「事業所での療育」が 76.5%と最も高く、次いで「医療機関での訓練」が 67.1%となっています。

「食事の用意・後片付け」「散歩」は取り組んできたこととしては、36.1%で上記3つに次いで高くなっていますが、取り組んできてよかったことの比率が低めとなっています。

(N=443)

	問13 取り組んできたこと		問13-1 取り組んできて よかったこと		取り組んできて よかったこと の比率
事業所での療育	366	82.6%	280	63.2%	76.5%
医療機関での訓練	222	50.1%	149	33.6%	67.1%
学習教室	99	22.3%	46	10.4%	46.5%
運動教室(スポーツ・スイミング等)	183	41.3%	108	24.4%	59.0%
ピアノ	47	10.6%	19	4.3%	40.4%
パソコン	49	11.1%	25	5.6%	51.0%
習字	35	7.9%	17	3.8%	48.6%
絵画	34	7.7%	19	4.3%	55.9%
カラオケ・歌	38	8.6%	24	5.4%	63.2%
買い物	145	32.7%	57	12.9%	39.3%
調理	119	26.9%	71	16.0%	59.7%
食事の用意・後片付け	160	36.1%	68	15.3%	42.5%
散歩	160	36.1%	67	15.1%	41.9%
掃除・洗濯	83	18.7%	35	7.9%	42.2%
日記・絵日記	29	6.5%	9	2.0%	31.0%
自転車	142	32.1%	73	16.5%	51.4%
キャンプ	70	15.8%	40	9.0%	57.1%
動物とのふれあい	138	31.2%	71	16.0%	51.4%
特にやっていない	1	0.2%	1	0.2%	100.0%
その他	44	9.9%	32	7.2%	72.7%
無回答	16	3.6%	99	22.3%	—

◇取り組んできたこと 前回調査との比較

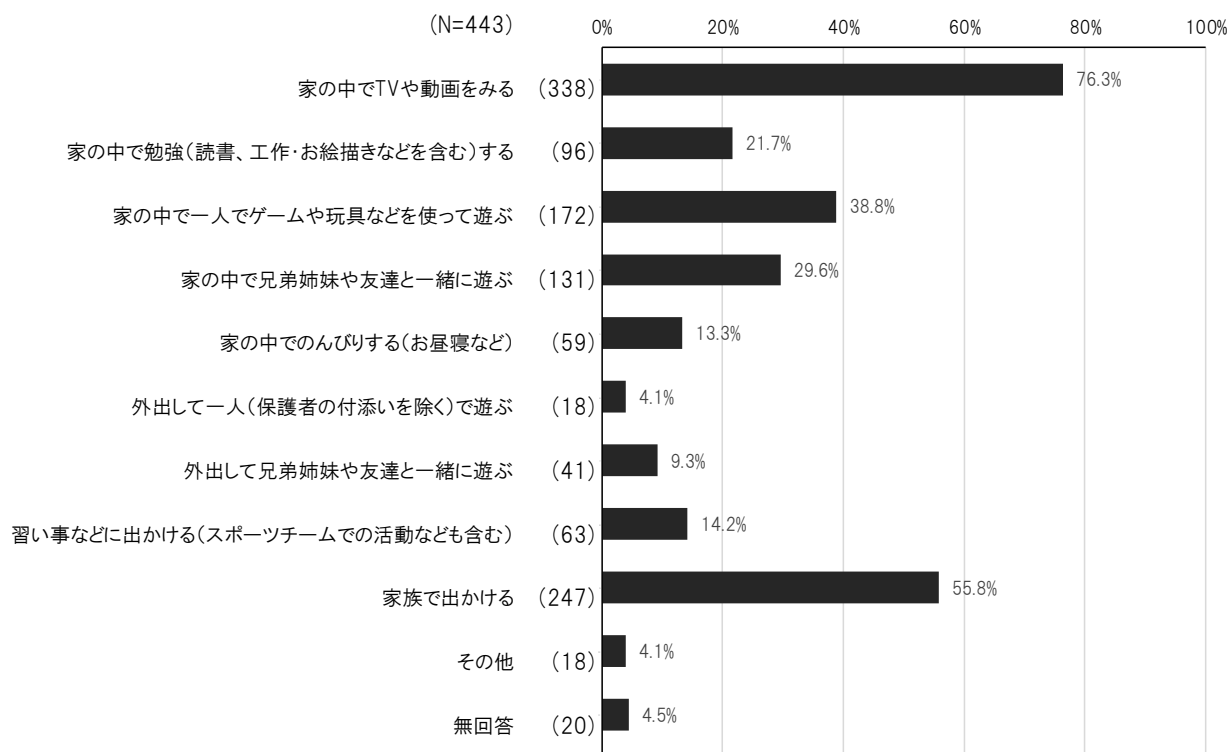
回答者の年齢層は異なりますが、回答傾向に前回調査との大きな変化はみられません。

	前回調査 取り組んできたこと (N=185)		今回調査 取り組んできたこと (N=443)	
事業所での療育	120	65.4%	366	82.6%
医療機関での訓練	72	38.9%	222	50.1%
学習教室	25	13.5%	99	22.3%
運動教室(スポーツ・スイミング等)	86	47.0%	183	41.3%
ピアノ	15	8.0%	47	10.6%
パソコン	10	5.4%	49	11.1%
習字	8	4.3%	35	7.9%
絵画	12	6.5%	34	7.7%
カラオケ・歌	5	2.7%	38	8.6%
買い物	45	24.3%	145	32.7%
調理	42	22.7%	119	26.9%
食事の用意・後片付け	73	39.5%	160	36.1%
散歩	57	30.8%	160	36.1%
掃除・洗濯	43	23.2%	83	18.7%
日記・絵日記	5	2.7%	29	6.5%
自転車	65	35.1%	142	32.1%
キャンプ	23	12.4%	70	15.8%
動物とのふれあい	65	35.1%	138	31.2%
特にやっていない	5	2.7%	1	0.2%
その他	24	13.0%	44	9.9%
無回答	1	0.5%	16	3.6%

問 14. お子さまは休日、どのように過ごしていますか

その頻度が多いものを3つまでお選びください(複数回答 3つまで)

「家の中で TV や動画をみる」が76.3%と最も高く、次いで「家族で出かける」が55.8%、「家の中で一人でゲームや玩具などを使って遊ぶ」が38.8%となっています。



●休日の過ごし方×年齢

4～5歳、6～8歳では「家の中で兄弟姉妹や友達と一緒に遊ぶ」が他の年齢に比べて高くなっています。

9～11歳、12～14歳では「習い事などに出かける(スポーツチームでの活動なども含む)」が他の年齢に比べて高くなっています。

「家の中でのんびりする(お昼寝など)」については、3歳以下だけでなく、12～14歳、15歳以上でも高くなっています。

	家の中でTVや動画をみる	家の中で勉強(読書、工作・お絵描きなどを含む)する	家の中で一人でゲームや玩具などを使って遊ぶ	家の中で兄弟姉妹や友達と一緒に遊ぶ	家の中でのんびりする(お昼寝など)	外出して一人(保護者の付添いを除く)で遊ぶ	外出して兄弟姉妹や友達と一緒に遊ぶ	習い事などに出かける(スポーツチームでの活動なども含む)	家族で出かける	その他	無回答
総数(N=443)	76.3%	21.7%	38.8%	29.6%	13.3%	4.1%	9.3%	14.2%	55.8%	4.1%	4.5%
3歳以下 (n=40)	70.0%	17.5%	35.0%	27.5%	20.0%	2.5%	10.0%	7.5%	67.5%	5.0%	10.0%
4～5歳 (n=92)	71.7%	22.8%	22.8%	45.7%	6.5%	6.5%	13.0%	6.5%	76.1%	4.3%	2.2%
6～8歳 (n=89)	70.8%	21.3%	36.0%	40.4%	9.0%	1.1%	11.2%	14.6%	58.4%	5.6%	5.6%
9～11歳 (n=92)	81.5%	21.7%	47.8%	27.2%	6.5%	2.2%	8.7%	21.7%	56.5%	2.2%	3.3%
12～14歳 (n=74)	90.5%	27.0%	44.6%	17.6%	23.0%	4.1%	6.8%	21.6%	37.8%	0.0%	1.4%
15歳以上 (n=45)	75.6%	17.8%	53.3%	2.2%	26.7%	8.9%	4.4%	8.9%	35.6%	11.1%	4.4%

年齢無回答(n=11)はクロス集計の対象としていません(1 ページ参照)。

●休日の過ごし方×診断結果

学習障がいの「外出して一人（保護者の付添いを除く）で遊ぶ」「習い事などに出かける（スポーツチームでの活動なども含む）」が他の診断結果に比べて高くなっています。

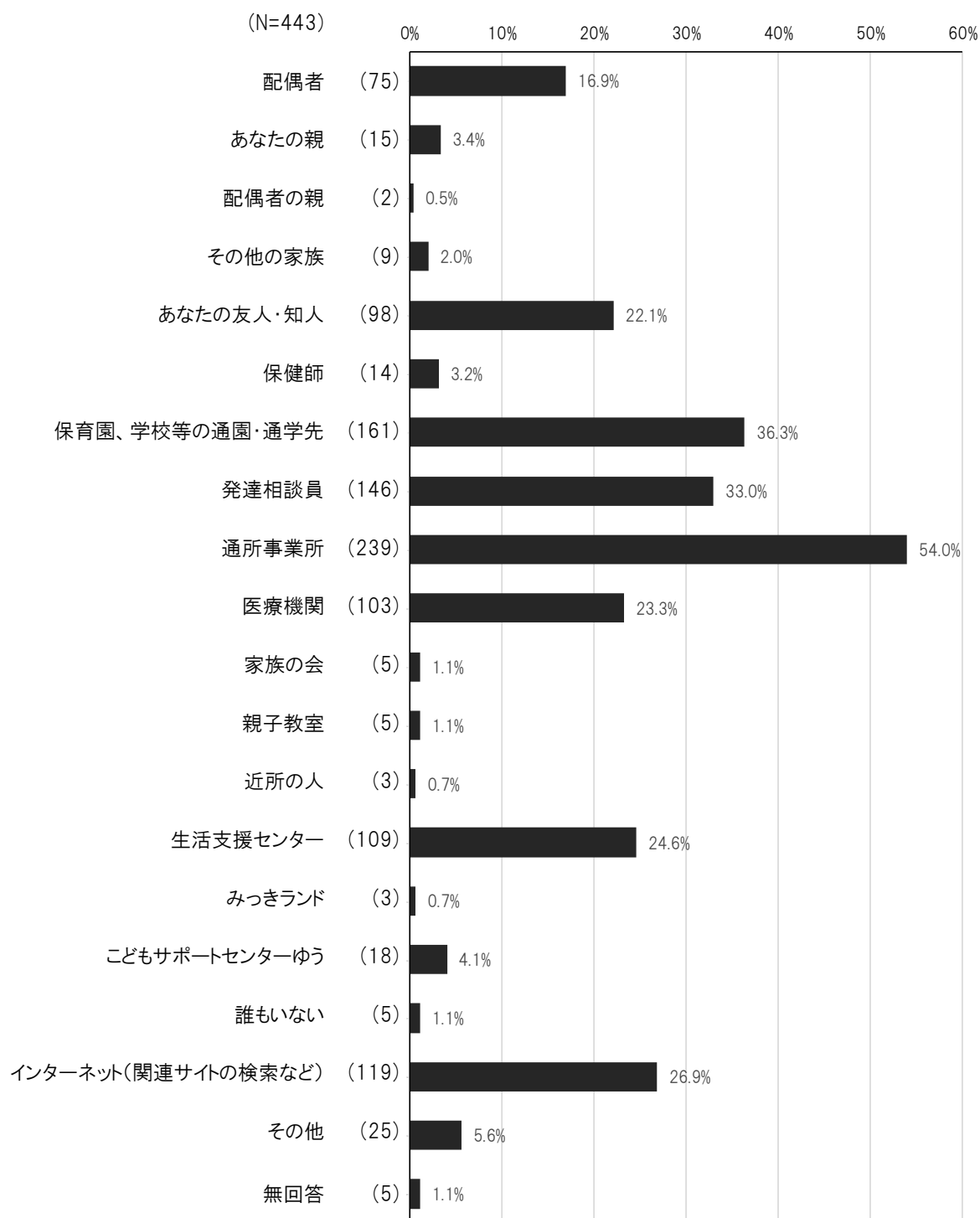
運動機能障がいの「家族で出かける」が他の診断結果に比べて高くなっています。

	家の中でTVや動画を見る	家の中で勉強（読書、工作、お絵描きなどを含む）する	家の中で一人でゲームや玩具などを使って遊ぶ	家の中で兄弟姉妹や友達と一緒に遊ぶ	家の中でのんびりする（お昼寝など）	外出して一人（保護者の付添いを除く）で遊ぶ	外出して兄弟姉妹や友達と一緒に遊ぶ	習い事などに出かける（スポーツチームでの活動なども含む）	家族で出かける	その他	無回答
総数(N=443)	76.3%	21.7%	38.8%	29.6%	13.3%	4.1%	9.3%	14.2%	55.8%	4.1%	4.5%
自閉スペクトラム症(ASD) (n=216)	81.5%	29.2%	43.5%	26.4%	10.6%	5.1%	5.1%	12.5%	48.6%	3.7%	4.2%
注意欠如多動症(ADHD)(N=88)	80.7%	27.3%	43.2%	22.7%	12.5%	5.7%	8.0%	17.0%	37.5%	1.1%	4.5%
学習障がい(LD) (n=37)	83.8%	5.4%	40.5%	32.4%	13.5%	13.5%	2.7%	29.7%	35.1%	5.4%	2.7%
知的障がい (N=100)	80.0%	16.0%	40.0%	22.0%	18.0%	3.0%	8.0%	9.0%	60.0%	6.0%	5.0%
運動機能障がい (n=16)	68.8%	25.0%	37.5%	31.3%	12.5%	0.0%	0.0%	12.5%	81.3%	12.5%	0.0%
その他(N=51)	78.4%	21.6%	33.3%	29.4%	11.8%	2.0%	11.8%	13.7%	66.7%	3.9%	5.9%
診断名特になし(無回答含む) (n=47)	74.5%	21.3%	23.4%	40.4%	12.8%	2.1%	17.0%	14.9%	55.3%	4.3%	6.4%
診断を受けていない(N=64)	68.8%	14.1%	34.4%	35.9%	14.1%	4.7%	14.1%	9.4%	68.8%	6.3%	1.6%

複数の診断を受けている方がいるため、件数の合計は母集団(N=443)の件数を上回ります。また、診断結果無回答(n=12)はクロス集計の対象としていません(2 ページ参照)。

問 15. 発達支援に関する情報はどこから得ていますか（複数回答）

「通所事業所」が54.0%と最も高く、次いで「保育園、学校等の通園・通学先」が36.3%、「発達相談員」が33.0%となっています。



●情報の入手先×年齢

3歳以下の「保健師」が他の年齢に比べて高く、「保育園、学校等の通園・通学先」が他の年齢に比べて低くなっており、問12の困りごとや悩みの相談先と同様の傾向となっています。

	配偶者	あなたの親	配偶者の親	その他の家族	あなたの友人・知人	保健師	の保育園・通学先	発達相談員	通所事業所	医療機関	家族の会	親子教室	近所の人	生活支援センター	みつきランド	こどもサポートセンターゆう	誰もいない	インターネット（関連サイトの検索など）	その他	無回答
総数(N=443)	16.9%	3.4%	0.5%	2.0%	22.1%	3.2%	36.3%	33.0%	54.0%	23.3%	1.1%	1.1%	0.7%	24.6%	0.7%	4.1%	1.1%	26.9%	5.6%	1.1%
3歳以下 (n=40)	15.0%	0.0%	0.0%	0.0%	17.5%	15.0%	22.5%	45.0%	67.5%	20.0%	0.0%	2.5%	2.5%	20.0%	5.0%	2.5%	0.0%	15.0%	7.5%	0.0%
4～5歳 (n=92)	12.0%	4.3%	1.1%	2.2%	22.8%	5.4%	42.4%	45.7%	59.8%	20.7%	1.1%	3.3%	0.0%	22.8%	1.1%	2.2%	1.1%	20.7%	6.5%	0.0%
6～8歳 (n=89)	20.2%	4.5%	1.1%	2.2%	27.0%	2.2%	43.8%	24.7%	51.7%	29.2%	1.1%	1.1%	1.1%	22.5%	0.0%	4.5%	0.0%	33.7%	3.4%	2.2%
9～11歳 (n=92)	16.3%	3.3%	0.0%	2.2%	30.4%	1.1%	33.7%	35.9%	53.3%	22.8%	1.1%	0.0%	0.0%	35.9%	0.0%	3.3%	1.1%	29.3%	4.3%	0.0%
12～14歳 (n=74)	23.0%	2.7%	0.0%	2.7%	13.5%	0.0%	33.8%	21.6%	52.7%	24.3%	1.4%	0.0%	0.0%	21.6%	0.0%	4.1%	0.0%	35.1%	6.8%	1.4%
15歳以上 (n=45)	15.6%	4.4%	0.0%	2.2%	15.6%	0.0%	35.6%	28.9%	44.4%	22.2%	2.2%	0.0%	2.2%	24.4%	0.0%	8.9%	4.4%	24.4%	6.7%	0.0%

年齢無回答(n=11)はクロス集計の対象としていません(1 ページ参照)。

●情報の入手先×診断結果

知的障がい、運動機能障がい、他の診断と比べて異なる傾向がみられ、「保育園、学校等の通園・通学先」「医療機関」で他の診断に比べて高くなっています(「医療機関」は運動機能障がいのみ)。

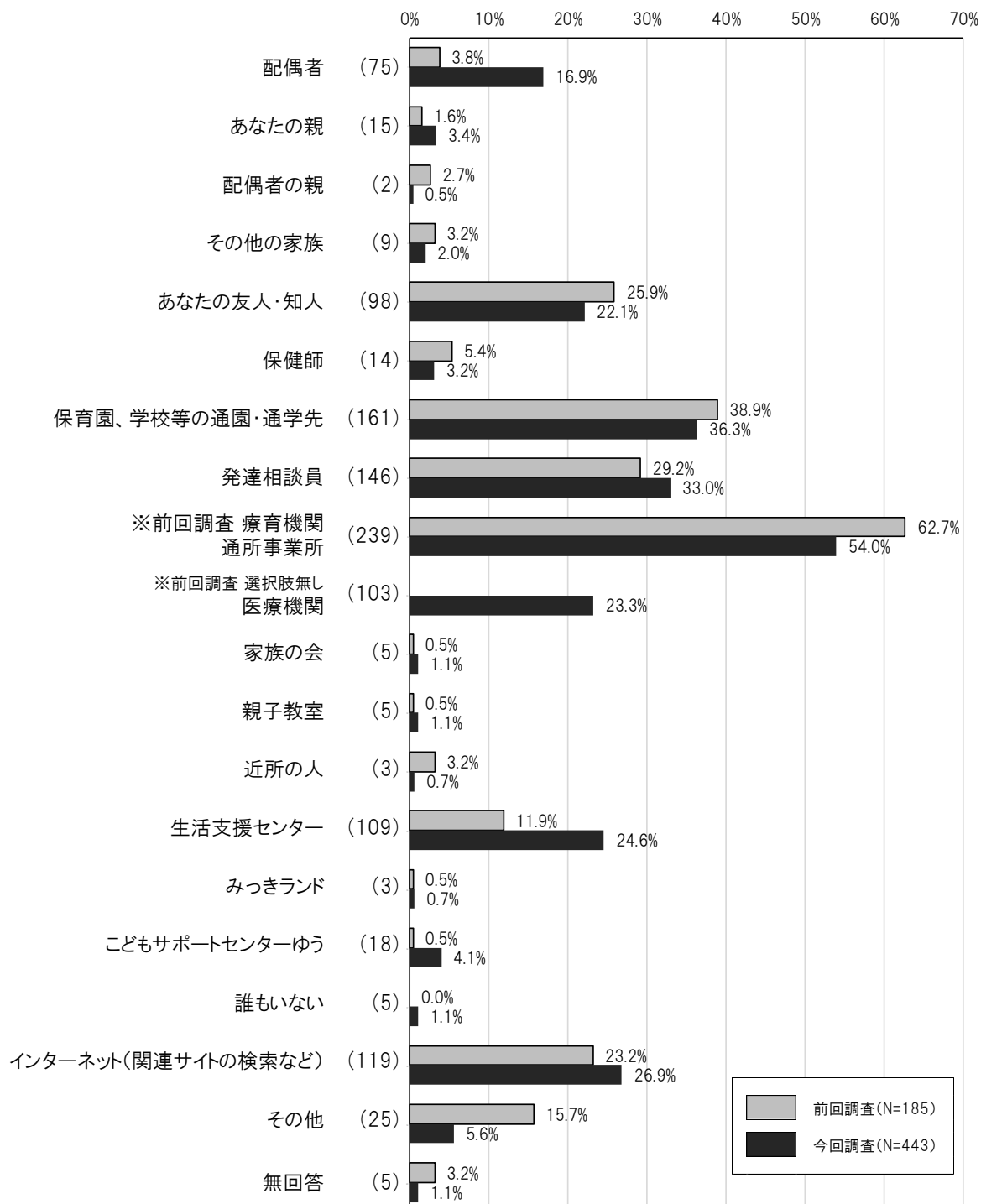
	配偶者	あなたの親	配偶者の親	その他の家族	あなたの友人・知人	保健師	の保育園・通学先	発達相談員	通所事業所	医療機関	家族の会	親子教室	近所の人	生活支援センター	みつきランド	こどもサポートセンターゆう	誰もいない	インターネット（関連サイトの検索など）	その他	無回答
総数(N=443)	16.9%	3.4%	0.5%	2.0%	22.1%	3.2%	36.3%	33.0%	54.0%	23.3%	1.1%	1.1%	0.7%	24.6%	0.7%	4.1%	1.1%	26.9%	5.6%	1.1%
自閉スペクトラム症(ASD) (n=216)	18.1%	5.6%	0.5%	1.9%	23.6%	0.0%	34.3%	29.6%	55.6%	23.6%	0.9%	1.4%	0.5%	28.7%	0.0%	4.6%	0.9%	33.3%	7.9%	0.5%
注意欠如多動症(ADHD) (n=88)	18.2%	3.4%	1.1%	2.3%	23.9%	0.0%	30.7%	29.5%	51.1%	25.0%	0.0%	0.0%	1.1%	21.6%	0.0%	4.5%	1.1%	37.5%	10.2%	1.1%
学習障がい(LD) (n=37)	13.5%	0.0%	0.0%	0.0%	21.6%	0.0%	29.7%	40.5%	45.9%	35.1%	2.7%	2.7%	0.0%	16.2%	0.0%	0.0%	0.0%	43.2%	8.1%	0.0%
知的障がい (n=100)	21.0%	6.0%	1.0%	3.0%	32.0%	2.0%	58.0%	26.0%	55.0%	32.0%	2.0%	0.0%	1.0%	32.0%	0.0%	3.0%	1.0%	20.0%	3.0%	0.0%
運動機能障がい (n=16)	18.8%	6.3%	6.3%	0.0%	25.0%	0.0%	50.0%	18.8%	56.3%	50.0%	6.3%	0.0%	0.0%	18.8%	0.0%	0.0%	0.0%	37.5%	0.0%	0.0%
その他 (n=51)	13.7%	3.9%	0.0%	2.0%	21.6%	2.0%	35.3%	31.4%	68.6%	39.2%	3.9%	2.0%	0.0%	25.5%	0.0%	2.0%	0.0%	35.3%	7.8%	2.0%
診断名特になし(無回答含む) (n=47)	14.9%	0.0%	0.0%	6.4%	21.3%	8.5%	40.4%	38.3%	46.8%	21.3%	0.0%	0.0%	0.0%	19.1%	2.1%	2.1%	2.1%	17.0%	6.4%	0.0%
診断を受けていない (n=64)	10.9%	1.6%	0.0%	0.0%	20.3%	9.4%	37.5%	42.2%	54.7%	9.4%	0.0%	1.6%	1.6%	21.9%	3.1%	3.1%	1.6%	17.2%	0.0%	3.1%

複数の診断を受けている方がいるため、件数の合計は母集団(N=443)の件数を上回ります。また、診断結果無回答(n=12)はクロス集計の対象としていません(2 ページ参照)。

◇情報の入手先 前回調査との比較

問12 お子さまのことでの不安や悩みの相談先(50ページ参照)と同様に前回調査と一部の選択肢が異なります。

前回調査に比べて「配偶者」「生活支援センター」などが増加している一方で、「通所事業所(前回調査では療育機関)」が減少しています。



■悩みや困りごとの相談できる人や機関(問12)と情報の入手先(問15)との比較

情報の入手先として高い「通所事業所」「保育園、学校等の通園・通学先」「発達相談員」については、相談できる人や機関としても高くなっています。

「医療機関」は、相談できる人や機関の回答数に比べて情報の入手先は少なくなっています。

(N=443)

	問 12 悩みや困りごとの相談 できる人や機関		問 15 情報の入手先	
配偶者	305	68.8%	75	16.9%
あなたの親	168	37.9%	15	3.4%
配偶者の親	77	17.4%	2	0.5%
その他の家族	66	14.9%	9	2.0%
あなたの友人・知人	167	37.7%	98	22.1%
保健師	18	4.1%	14	3.2%
保育園、学校等の通園・通学先	217	49.0%	161	36.3%
発達相談員	138	31.2%	146	33.0%
通所事業所	247	55.8%	239	54.0%
医療機関	164	37.0%	103	23.3%
家族の会	6	1.4%	5	1.1%
親子教室	1	0.2%	5	1.1%
近所の人	12	2.7%	3	0.7%
生活支援センター	112	25.3%	109	24.6%
みっきランド	3	0.7%	3	0.7%
こどもサポートセンターゆう	28	6.3%	18	4.1%
誰もいない	5	1.1%	5	1.1%
インターネット(関連サイトの検索など)	—	—	119	26.9%
その他	35	7.9%	25	5.6%
無回答	35	7.9%	5	1.1%

問 16. これまでの子育てにおいて、いつ頃、どのような支援があれば良かったと思いますか
特にあればよかったと思うものを2つまでお答えください（自由記入）

2つの記入欄に、計240件の記入あり。年齢別の内訳は以下のとおりであり、就学前、とりわけ3歳以下の意見が多くを占めています。

年 齢	件数
0 歳	12 件
1 歳	18 件
2 歳	29 件
3 歳	21 件
4 歳	5 件
5 歳	8 件
6 歳	12 件
主に就学前（1歳単位の記入がない）	26 件
7歳	5 件
8歳	2 件
9歳	3 件
10 歳	4 件
11 歳	1 件
12 歳	3 件
13 歳	3 件
14 歳	1 件
主に小学生以上（1歳単位の記入がない）	35 件
年齢関係なく（年齢に関する記載なし含む）	52 件
合 計	240 件

記入内容（抜粋）

年齢	内容
0 歳	未熟児で生まれているのにフォロー先とか教えて欲しかった。病院に頼りっきりだった。
	病気や疾患が多いので総合的にコーディネートして下さる方がいたら心強かった。1人で調べるのが大変だった。
	難聴があると分かった時に聴覚以外の遅れがあるのか、専門家の判断を仰げるような助言があれば良かった。
	月1回でよいので、預かっていただける所（障がいがあると分かってくださってる方に）があったらと思います。
	産後の母のサポート、公的な産後ケアホテル。
	障がいのある子、ない子が互いに理解して気兼ねなく遊べる施設。
	病名が確定した時、どんな支援があるかわからなかったので、支援の選択肢を教えてもらえる場所がほしかった。
	0歳頃から3歳くらいまでの間 障がいのある子、ない子が互いに理解して気兼ねなく遊べる施設。
	出産後半年程度までの時期に療育施設等の情報を提供してもらえると選択肢が増える。

年齢	内容
1歳	1歳半健診時医療機関の紹介状を受け取りましたが、受診後の市からのサポートが欲しかったです。
	1歳半健診であすなろ通園について相談して4月から行かせるべきだった（当時は私がそこまで必要性を感じておらず、市の方からその時点で薦められていても断っていたと思います）。
	1歳の頃に初めて市役所に相談に行きましたが、「まだ1歳だから」という理由ですぐには支援につないでいただけず少しモヤモヤしました。発達支援センターの中には低年齢でも入所できる所があるので、年齢が低くても親が希望したタイミングで一緒に必要な支援を検討してもらえたら嬉しかったです。
	初めての子なのでどういった事が発達障がいにあたるかの知識が全くなく、ADHD などで健診などでは全くひっかからなかったのも、こういう事が多い子は疑いがあるなどの講習の機会があれば他の親からの理解ももう少し得られたのかなと思います。
	0歳児からでも加配があつての保育園などに毎日通所できるような支援があればよかったのと思います。
	療育手帳をもらった時、あゆみ（支援内容が書かれた冊子）をもらったが、どれがあてはまってどうやって支援を受ければいいのか説明がほしかった。
	不眠をどこに相談しても相手にされなかったのが一緒に早くから行動やアドバイスしてくれる存在がほしかった。
	少しでも発達に不安がある人のために早めに長期間通える親子教室のようなもの。
	保育園にも通っていない子ども達が気軽に集まれる場所が欲しかった。普通の施設は定型児と比べてしまって気が引けるから発達の遅れてる子だけが集まれる場所が欲しかった。
	保育園にも通っていない子ども達が集まれる場所が欲しかった。普通の施設は定型児と比べてしまって気が引けるから発達の遅れてる子だけが集まれる場所が欲しかった。
2歳	〇歳ころまで様子をみましょう、をくり返され、時間だけが過ぎる。もっと積極的に検査機関などを薦めてほしい。
	1歳半健診から3歳頃まで特に健診が無いので、その間に何かあればもう少し早めに相談できると思った。
	1～2歳くらいの早い段階で、療育などの利用できる場所を教えてもらえたり、知識のない親や、ためらいのある親には発達障がい等の正しい情報を教えてあげたり、話を聞いてくれる人が必要と思う。
	2歳頃、幼稚園入園前に相談できる場があれば良かった。特に外に出られない時期だったので、電話又は訪問で話を聞いてもらえたら嬉しかった。
	ひまわり教室をもっと早くから始めたかった（1歳半健診でひっきり様子見、2歳のときに再受診。3～4か月後からひまわり教室に通うことになった）。
	早くから OT を受けたかった。OT ができる場所が少ないと感じるため、OT を受けられる施設を増やしてほしい。また療育が必要かどうかにかかわらず、ST や OT がこんなところで受けられると情報提供してほしい。
	3歳の入園に向けてどうしたらいいのか相談、判断できるような場所が欲しかった。
	保育園体験。集団保育。
	言葉がとてもゆっくりだったため、4月から言語療法に通っていますが、もっと早く通えていればもう少し言葉も増えていたのかなと思います。
	低身長でひっかかっているのも、作業療法など体を動かす運動など経験させてあげたかった（身長が低いので運動に支障が出ている）。
	同じ年の子と遊ぶ機会がコロナでなかなかなかったため、かわいそうだった。公園で集まろうとか市や自治体が声かけしてくれたら行ってたと思う。
	何か違うと思って市の発達検査を受けたが、問題なしと言われその後の支援につなげてもらえなかった。
	発達が遅れていると検診で指摘を受け発達支援センターに通いはじめましたが、訓練や他の事業所の話は積極的にはしていただけなかったのも、いろいろな支援があることをこの時に知ったかった。
	発達に遅れがある子を対象とした子や親の集まり。それまではとても孤独でした。
	発達検査等で様子を見る（経過観察）と言われたのですが、相談先やその後の情報が何もなかったのも、そのような時に相談先を教えてください情報がもっとあればよかったと思いました。
	何か習い事をしたいと思っていても、参加が難しいと思い（周りの理解含め）できない。例えばプール、音楽（ピアノ）にしても障がい者クラスがあればうれしい。
	市の保健師だけでなく、直接発達支援を行っている事業所に問い合わせしてみたらよかったなと思っています。

年齢	内容
3歳	ST、OTを受けられる病院が枠いっぱいですぐに始められなかったり、待ちの期間があったので療育をすぐに始められる環境があればと思います。
	子どもへの支援というよりは親への支援（知識）が欲しかった。児童発達支援事業所と幼稚園は連携しているものだと思っていた為、幼稚園との協力（理解を得ようとする事）をおろそかにしてしまった。
	小集団ではなく集団での保育の中でたくさん刺激を受けて欲しかった。また同じように発達の遅れがあったり悩んだりしている親子さんが集まって話をしたり遊ばせてあげられる場所が欲しかった。
	ペアレントトレーニングをきちんと受けれる時間、機関があれば良かった。講義ではなく、振り返りも含めたもの。
	障がい者同士で話せる場、遊べる場が欲しい。
	先輩ママから、前は自治会館で、幼稚園に入る前にプレ幼稚園のようなものやっていて、そこで同い年の子と遊ぶ機会もあったので、幼稚園へもスムーズに入れたと聞いてすごうらやましかったです。
	年少から保育園をやめて、ろう学校に通わなければならなくなり、土曜日仕事をしていたのですが、預かってもらえる所がなく休まざるを得なくなりました。「障がいが理由で辞めざるを得ない場合、元在園児だけでも土曜はそのまま通える」「長期休み中は少し割安で一時預かりを利用できる」制度があれば、仕事を休んだり早退しないで済むのと思いました。
	療育に通う＝仕事を辞める以外の選択肢がない為、正社員を続けられるように延長や土曜保育、難しければ今の保育園に送ってもらえるようなサポート。
	通所療育について、もっと早く知りたかった。
4歳	3～4歳の頃はK式検査を受けても明確に知的障がいが無い限り様子見て終わってしまった。グレーの子でもすぐ療育機関に繋がってもらえたら親の精神的なサポートにも繋がるのでありがたい。
	加配つきで市立幼稚園に並行通園していますが、入園前後に本人の特性やそういった子どもとの関わり方を詳しく園側へ伝えてくださる専門家がいてくださればと思いました。
	集団に入ってしばらくたつ時期、グレーゾーンの子は保育園など、見落とされやすいので、もうすこし療育の枠があれば受けられたのと思う。
5歳	通所施設の療育が週1 or 週5の選択しかないため、地域の幼稚園へ進むことが難しかったので、週4療育/幼稚園週1、週3療育/幼稚園週2の選択肢があればいいと思っていた。
	子どもの発達について年中になるまで全く不安に思っていなかったため、年中で急に話が出てきて、すごく不安になりました。
	就学前に再度詳しいチェックがあれば支援級の選択肢がとれた（身体面での問題は全くなかったため）。
	学校の先生からのアドバイス。ことばの教室は教えていただけましたが、学習障がいの診断を受ける場合、医療センターを探しました。個別に支援いただきたかったです。
	診断後のICTを活用した学習支援（誰も読めないような字しか書けないのに、自分の力で書く日記等は苦戦しました。）
	知的障がいのある子に対して、接し方など（怒り方、話し方など）についての学習する場（親として）。
6歳	学童にも（親が就労していないためできない）預け先がなく、兄弟、親の病院、本児を連れて行きにくい時の預け先が欲しい（急でも受け入れてくれる）。
	現在就学準備中ですが、保護者から地域の小学校へ伝えるだけでなく、発達の専門家の方から関わり方や注意点など学校側へアドバイスしていただければ助かと思っています。
	小学校入学すぐに不登校になりました。その時に今のホットルームのようなサービスがあれば良かったと思います。
	保育園から小学校入学にかけて情緒の変化がすごかった。これが成長として普通なのか判断が難しかった。園の先生や学校が相談できる場所があるというのを教えてもらえたら早い段階で相談ができたと思う。
	年長の時にも検診があればいいなと思います。そこで何かしらの違いを見つけてもらえれば、入学前から対応できたなと思いました。
	年長の終わりの方になっても落ち着きがない、泣く、キレることに対して、私のせいではなく子どもに原因があるのでは？と対応してほしかった。

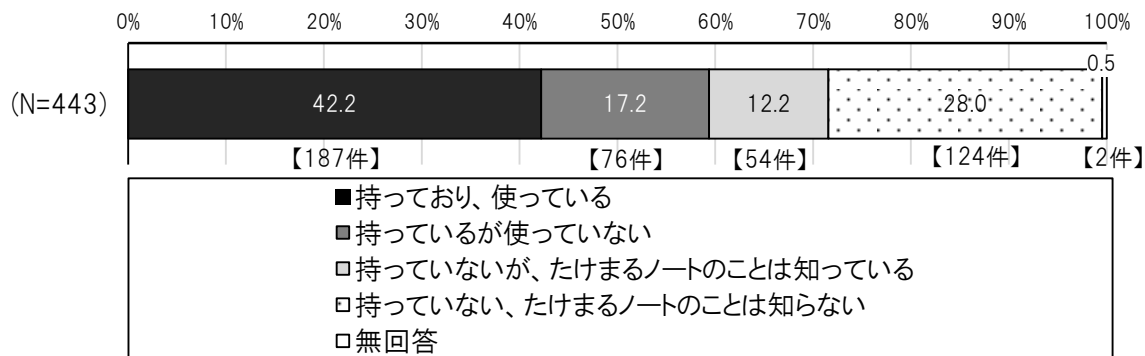
年齢	内容
主に 就学前	同じような子どもの発達の悩みをもつ親同士繋がれる場の支援。
	上の子など他の兄弟がいる中で、訓練に行くのは大変だったので、上の子を預かってくれるか本人を連れて行ってくれるか等の支援があればもっと楽だった。
	通っている園での様子を見て、定期的に保護者に知らせてもらえたり、担任の先生の相談に乗ってもらえるような専門家。
	就学前に発達に疑いのない子も含めて全員に発達検査があればいいと思う。就学前に療育を受けられるように早い段階で診断が出ていればと悔やんでいるので。
	幼稚園年中の途中から療育に通うようになり、子育てに余裕がでてきました。それまでは周囲に子育ての大変さを理解してもらえず、毎日辛く孤独だったので、もっと早く療育に通えていればと思います。
	保育園で、ケアをしてくれる先生がたくさんいたらいいなと思いました。
	就学前の長期休暇の時に、デイのように見てもらえる所があれば、発達の相談などもできたし、もっと自分に余裕を持つことができて、上の子ともゆっくり接する時間が持てたと思う。
	幼稚園になってから天候に左右されない遊び場があれば良いと思った。みっきランドのようなものがあれば、子どもを遊ばせつつ、親同士やそこに居られる係の方と情報交換できるのに、対象年齢超えたら放り出された感じがしてしんどかった。
	おやつ代の加算で支援を使うのを躊躇するときがある。 受給者証でも遊べる（手帳を持っているわけじゃないので使える）施設がたくさんあればいいと思う。
	両親共働きのため、保育園が利用できない日祝などはどちらかが休んで育児しているが、自閉症の息子につききりになるため、心身ともに休めず追い詰められる時があります。
7 歳	医療機関での訓練は小学校入学と同時に終了する事が多いので、小学生以降も訓練できる場所が増えたらいいと思う。
	発達障がいの可能性について、集団行動をする小学校等で早期発見して欲しかった。育て方を気を付ける事が大きく違ったと思う。
8 歳	小1、小2の時に習得すべき小さい「や、ゆ、よ」、小さい「つ」など3年生になっても間違えていることが多かった。医師にそのことを伝え、それができないことを相談した時点で教員がおかしいと気づくべきであると教わり、学校の先生にもそのような知識を持っていたほしかったなと思いました。
9 歳	幼少期は療育のサポートがあったが、小学校は普通級だったのでサポートが途切れてしまった。1～2年の頃は特に問題がなかったが、3年頃から勉強の遅れを感じるようになり、相談先がわからなかった。
10 歳	不登校になった。先生や周りの人の理解、支援がなく、親子で苦しい時間を過ごした。集団に適応しにくい子に対する支援が欲しかった。
	家族の会や悩んでいる人の会などの情報がほしかった。発達相談員もその知識がなく（というより奈良が開催していないだけなのか？）今は枚方で家族の会に参加している。
11 歳	見た目に分かりづらい発達障がいっぽい特性に対して、話したりどう接したらいいかなど気軽に相談できるなど。
12 歳	小中の連携がもっとスムーズにあって欲しかった。
	発達障がいの診断がない不登校状態のときに、放課後デイサービスのような居場所があれば良かった。
13 歳	中学入学後は、小学校からの引継ぎが無かったと感じるほどでした。支援級に入学しましたが、専門知識を持たれてる先生が少ないように感じたので、先生方にも専門性のある機関と繋がっていただきたいと感じました。
	幼稚園では、市の相談員さんが各園を見に行き先生に心配のある子の様子などを聞いてくれたりしていたのを小中学校でもしてくれたらなと思います。特に中学ぐらいになると家で学校の事をなかなか把握しにくくなるので。
14 歳	ショートステイ。

年齢	内容
主に小学生以上	小学校に児童発達に通じた先生や相談できる職員がいれば安心できた。担任が変わるたびに1から関係を構築し、良い環境が出来上がった頃にクラス替えになってしまう。在学中を通じて頼れる先生がいれば良いのと思った。
	学校内で授業、学校生活の中で本人が全くしゃべることをせず、友人もなく休み時間にトイレに逃げ回っているということがあったのなら、親に教えてほしかったし、サポートセンター等へ行く等薦めてほしかった。例えばほっとルームでもいいから小学校のうちに教えてほしかった。
	発達の遅れが気になった時期(小3)があり、学校の先生に相談したが、少しゆっくりなだけだと言われた。夫が嫌がったため発達検査は小、中学生の時はしなかったが、歳を重ねると段々周りとの差はひらいていったと思う。学校の先生から検査を進めてくれたり、学校で検査を受けることができたよかったです。
	家族会や先輩ママなど、経験者から話を聞かせて頂く機会があれば良かった。 特に少し先の見通しをたてるためにも、2~3学年上のお母さんへの質問会があれば、役に立ったと思います。 入学前などの不安な時期、支援級/普通級などの選択を迫られる前の悩む時期に。
	放課後等デイサービスの存在を小学5年の頃に病院の先生から教えてもらい知った。デイサービス=障がい者手帳や療育手帳の受給者しか通えない所だと思ってたので、対人関係で苦労したのもっと小さい頃から通わせたかった。
	各放課後デイサービスの情報がなかなか入らない。保護者間や支援員の先生方に相談すれば教えて頂けますが、内向的な保護者さんは誰に聞けば情報が入るのかすら分からない場合が多いので、もっと情報が入りやすければと思います。
	小学1年生から学校に行けず不登校だった。今でこそ居場所を作っているようだが、その頃はなかった。集団になじめないということは、何かしらがあり、自閉症スペクトラム障がいを疑ういいチャンスだったのに、誰もそれを教えてくれなかった。早くに知っていれば、療育にも行けただろうに、中学に入ってからやっと診断をもらったので、思春期と重なり大変だった。
	発達相談専門の先生によるアドバイス。
年齢関係なく、年齢記入無	未就学児、小学生がいつでも遊べる児童館や支援センターなどの居場所があればコミュニケーションの場に、また、外に出て少しでも身体を動かすきっかけになるのではと感じました。
	診断がついた時の相談する場所の情報提供。
	障がい者(児)向けのイベント(健常者除外の)、スポーツだけじゃなくて祭り、送迎ありでキャンプなど。
	支援センターや病院へ行くのも車がないと不便です。育てにくい子は特に送迎が必要な場合が多いです。送迎が無理なら利用できるタクシーチケット等が使えたらと思う。
	障がいの種別により詳しくない人が多いので、もう少し地域で同じ障がいを持つ親から話を聞いてアドバイスして欲しかった。こちらは不安だけなので安心は出来なかった。
	グレーゾーンと言われる子たちの親は、気づきにくい。また、相談しにくいので。もっと相談しやすい環境があれば嬉しい。
	支援の紹介や障害者手帳の取得や療育の紹介など、各種子育てから障がいのある子どもまで様々な制度があるが、そういったことを各担当課の垣根を越えて横方向に繋がられるコーディネーターのような存在があると良いと思う。役所の方よりも同じく障がいのある子の親から教えてもらったり、自分で調べてたどり着いたものの方が多い。
	発達面で気になり始めてから、通所するまでに時間がかかり(空き待ち)特に何もフォローできなかった。この時間に他の通所先を見学したり、単発で参加できる教室を知りたかった。
	ホームページ等で親の会などの紹介を載せて欲しい。親の会は年会費などもかかり未知の世界にお金を出せなくて躊躇してしまい、内容がわかればもっと早く関わっていたと思います。
	生駒市のホームページで各通所事業所の細かい紹介ページがあり、保護者が通う所を自由に決められる制度。
	感覚統合のあるデイサービスを増やしてほしい。
	関連情報のワンストップ化(ここにさえアクセスすれば何でも分かる)。
	毎日通う園や学校の先生が、どのような指導法を学んでいるのか、開示して頂きたい。園、学校と家庭とがバラバラの方針だと、効果が上がらず、子どもも混乱すると思います。

5. たけまるノートについて

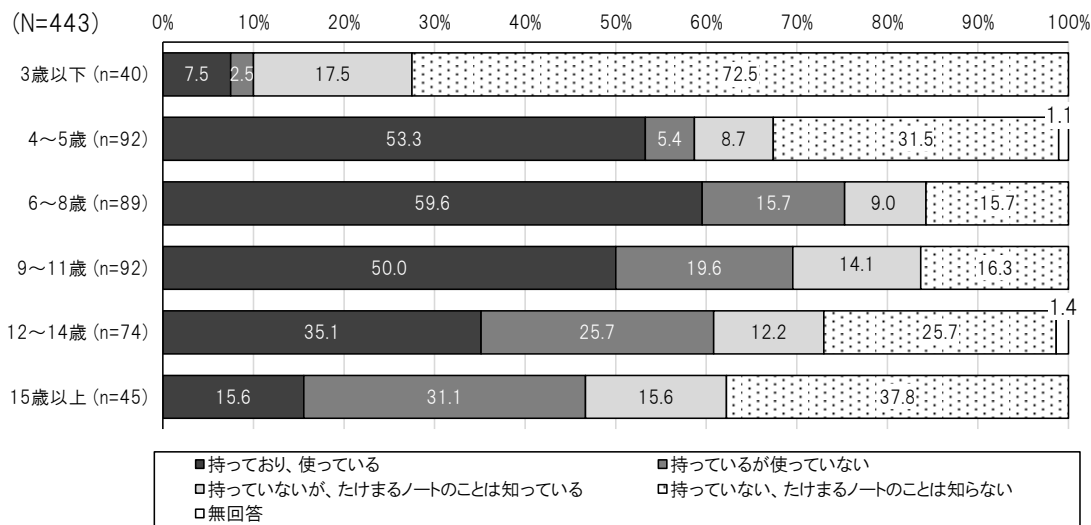
問 17. たけまるノートを持っていますか

「持っており、使っている」が42.2%と最も高く、次いで「持っていない、たけまるノートのことは知らない」が28.0%、「持っているが使っていない」が17.2%となっています。



● たけまるノートの所有、利用×年齢

4～5歳、6～8歳の「持っており、使っている」が高くなっていますが、年齢が上がるにつれて減少し、12～14歳では9～11歳から約3割減少し、15歳以上でもさらに12～14歳から約半減しています。



年齢無回答(n=11)はクロス集計の対象としていません(1 ページ参照)。

◇ たけまるノートの所有 前回調査との比較

前回調査の「持っている」が42.2%に対して、今回調査では59.4%と増加しています。

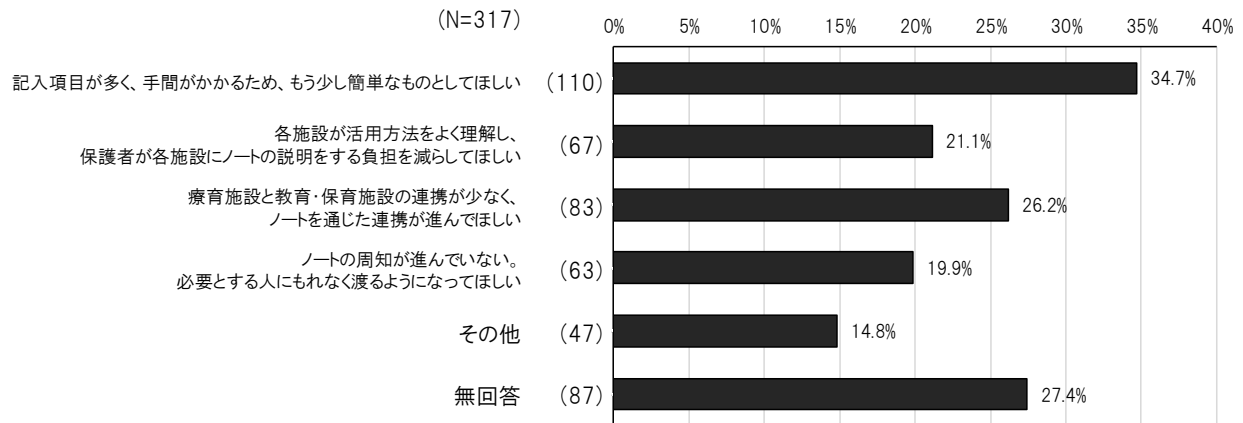
これは、今回調査と前回調査の6～11歳の構成比が異なっていること〔前回調査は29.7% (18.3%+11.4%)、今回調査は40.9% (20.1%+20.8%)、1 ページ参照〕が影響していると考えられます。

	持っている	持っていない
前回調査	42.2%	55.7%
今回調査	59.4%	40.2%

問 17 で「持っており、使っている(187 件)」「持っているが使っていない(76 件)」「持っていないが、たけまるノートのことは知っている(54 件)」と回答した方【317 件】を対象

問 17-1. たけまるノートの使いにくい点や改善してほしい点等があれば、教えてください(複数回答)

「記入項目が多く、手間がかかるため、もう少し簡単なものとしてほしい」が34.7%と最も高くなっていますが、「その他」を除くそれぞれの選択肢の回答比率は約20~35%となっており、偏りがみられません。



「その他」の記入内容

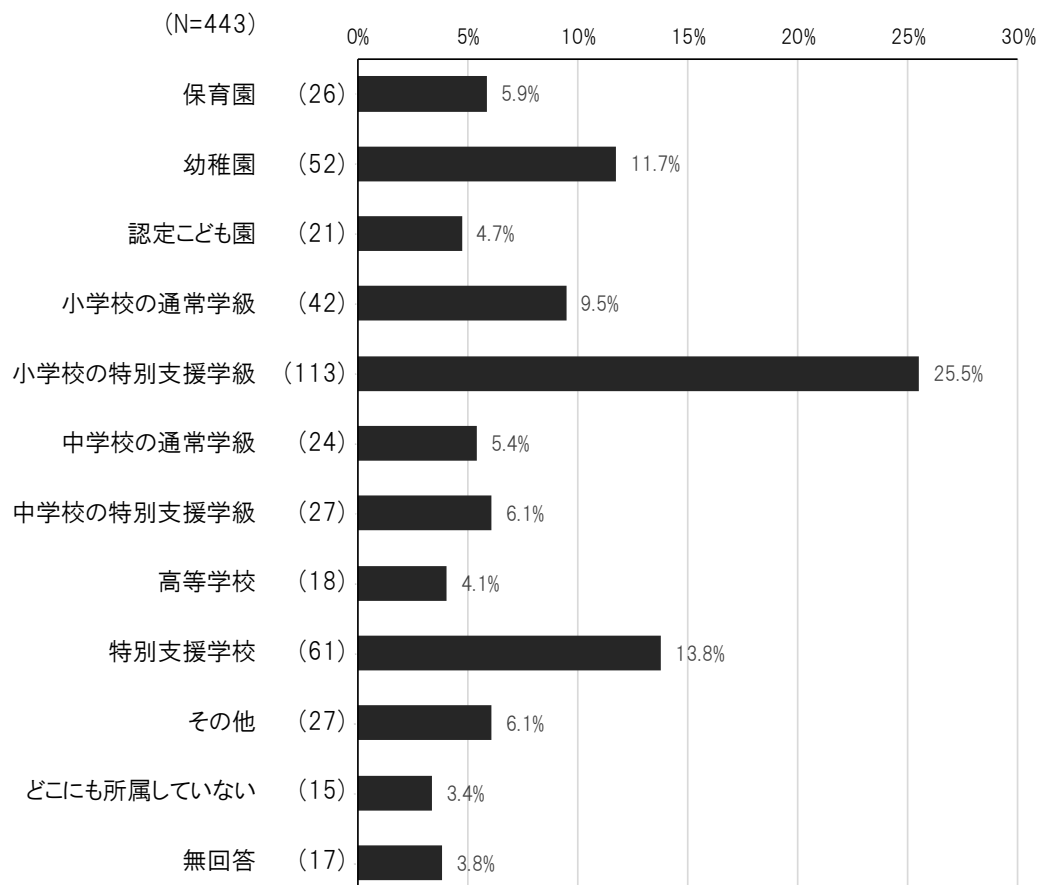
- ・読み手の負担が大きく、読んでくれていない。
- ・電子化による軽量化。
- ・記入欄が小さい。
- ・使い方の説明不足。
- ・配布を促進するための工夫。 など

6. お子さまの通園、通学先に対する要望など

問 18. お子さまが現在所属している園・学校はありますか

「小学校の特別支援学級」が25.5%と最も高く、次いで「特別支援学校」が13.8%となっています。

小学校では特別支援学級の25.5%に対して通常学級が9.5%とその差が大きくなっている一方で、中学校では特別支援学級が6.1%、通常学級が5.4%と拮抗しています。



「その他」の記入内容

- ・子ども支援センター あすなろ(27件中12件)。
- ・児童発達支援センター。
- ・療育園。
- ・通信制高校。
- ・養護学校。
- ・ろう学校。 など

●通園・通学先×年齢

4～5歳では「幼稚園」、6～8歳、9～11歳では「小学校の特別支援学級」、12～14歳では「中学校の特別支援学級」、15歳以上では「特別支援学校」が最も高くなっています。なお、15歳以上の「特別支援学校」と「高等学校」に大きな差はなく、それぞれ45.5%、40.9%となっています。

	保育園	幼稚園	認定こども園	通小 常学校の 級	特別 小 学 校 の 級	通中 常学校の 級	特別 中 学 校 の 級	高等学校	特別 支援 学校	その他	どこにも 所属 していない	無回答
総数(N=443)	5.9%	11.7%	4.7%	9.5%	25.5%	5.4%	6.1%	4.1%	13.8%	6.1%	3.4%	3.8%
3歳以下 (n=40)	22.5%	17.5%	7.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.5%	27.5%	22.5%	0.0%
4～5歳 (n=92)	17.4%	46.7%	19.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.1%	7.6%	5.4%	2.2%
6～8歳 (n=89)	1.1%	1.1%	0.0%	15.7%	56.2%	0.0%	0.0%	0.0%	15.7%	2.2%	1.1%	6.7%
9～11歳 (n=92)	0.0%	0.0%	0.0%	29.3%	63.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.4%	1.1%	0.0%	1.1%
12～14歳 (n=74)	0.0%	0.0%	0.0%	1.4%	1.4%	32.4%	35.1%	0.0%	23.0%	2.7%	0.0%	4.1%
15歳以上 (n=45)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	40.0%	46.7%	8.9%	0.0%	4.4%

年齢無回答(n=11)はクロス集計の対象としていません(1 ページ参照)。

●通園・通学先×診断結果

診断名特になし、診断を受けていないを除くと、知的障がいの「特別支援学校」が他の診断結果に比べて高くなっていますが、それ以外では回答傾向に大きな差はみられません。

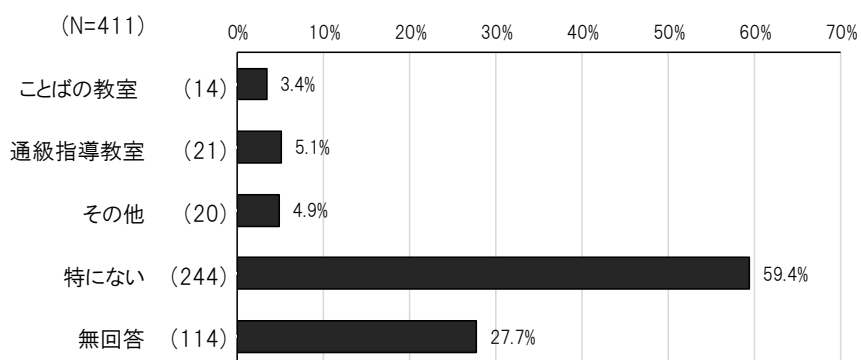
	保育園	幼稚園	認定こども園	通小 常学校の 級	特別 小 学 校 の 級	通中 常学校の 級	特別 中 学 校 の 級	高等学校	特別 支援 学校	その他	どこにも 所属 していない	無回答
総数(N=443)	5.9%	11.7%	4.7%	9.5%	25.5%	5.4%	6.1%	4.1%	13.8%	6.1%	3.4%	3.8%
自閉スペクトラム症(ASD) (n=216)	2.3%	8.3%	1.4%	11.6%	32.9%	7.4%	7.4%	4.6%	13.4%	5.6%	0.5%	4.6%
注意欠如多動症(ADHD) (n=88)	2.3%	5.7%	0.0%	17.0%	37.5%	11.4%	3.4%	9.1%	6.8%	2.3%	0.0%	4.5%
学習障がい(LD) (n=37)	2.7%	0.0%	0.0%	21.6%	32.4%	16.2%	10.8%	8.1%	5.4%	0.0%	0.0%	2.7%
知的障がい (n=100)	3.0%	7.0%	2.0%	1.0%	23.0%	1.0%	6.0%	2.0%	46.0%	5.0%	2.0%	2.0%
運動機能障がい (n=16)	6.3%	12.5%	0.0%	12.5%	25.0%	6.3%	6.3%	0.0%	18.8%	0.0%	12.5%	0.0%
その他 (n=51)	7.8%	9.8%	9.8%	5.9%	31.4%	3.9%	2.0%	2.0%	17.6%	9.8%	0.0%	0.0%
診断名特になし(無回答含む) (n=47)	14.9%	29.8%	10.6%	4.3%	8.5%	2.1%	8.5%	2.1%	4.3%	8.5%	2.1%	4.3%
診断を受けていない (n=64)	7.8%	23.4%	12.5%	6.3%	9.4%	1.6%	3.1%	4.7%	6.3%	9.4%	10.9%	4.7%

複数の診断を受けている方がいるため、件数の合計は母集団(N=443)の件数を上回ります。また、診断結果無回答(n=12)はクロス集計の対象としていません(2 ページ参照)。

問18で「どこにも所属していない(15件)、無回答(17件)」以外の方【411件】を対象

問18-1. 次のうち、現在利用されている教室はありますか(複数回答)

「特になし」が59.4%と特に高く、「通級指導教室」が5.1%、「ことばの教室」が3.4%となっています。



「その他」の記入内容

- ・放課後等デイサービス。
- ・あすなろ。
- ・通級指導教室の相談利用及び申し込み中。 など

●現在利用している教室×年齢

「特になし」を除く回答数は少なくなりますが、4～5歳の「ことばの教室」、9～11歳の通級指導教室が他の年齢に比べて高くなっています。

	ことばの教室	通級指導教室	その他	特になし	無回答
総数(N=411)	3.4%	5.1%	4.9%	59.4%	27.7%
3歳以下 (n=31)	3.2%	3.2%	6.5%	64.5%	25.8%
4～5歳 (n=85)	8.2%	1.2%	5.9%	55.3%	29.4%
6～8歳 (n=82)	3.7%	6.1%	0.0%	64.6%	25.6%
9～11歳 (n=91)	2.2%	9.9%	4.4%	60.4%	23.1%
12～14歳 (n=71)	1.4%	7.0%	9.9%	50.7%	32.4%
15歳以上 (n=43)	0.0%	0.0%	4.7%	65.1%	30.2%

年齢別の回答数(n値)については、68ページ上段(通園・通学先×年齢)の図表内の「どこにも所属していない」と「無回答」以外の回答割合を乗じた値です【例:6～8歳 n=82 [n=89×(100%-1.1%-6.7%)]】。なお、年齢無回答については本集計の対象としていません。

●現在利用している教室×診断結果

学習障がい(LD)の「通級指導教室」が他の診断に比べて高くなっています。

運動機能障がいの「その他」も他の診断に比べて高く、次いで学習障がい(LD)の「その他」も高くなっています。

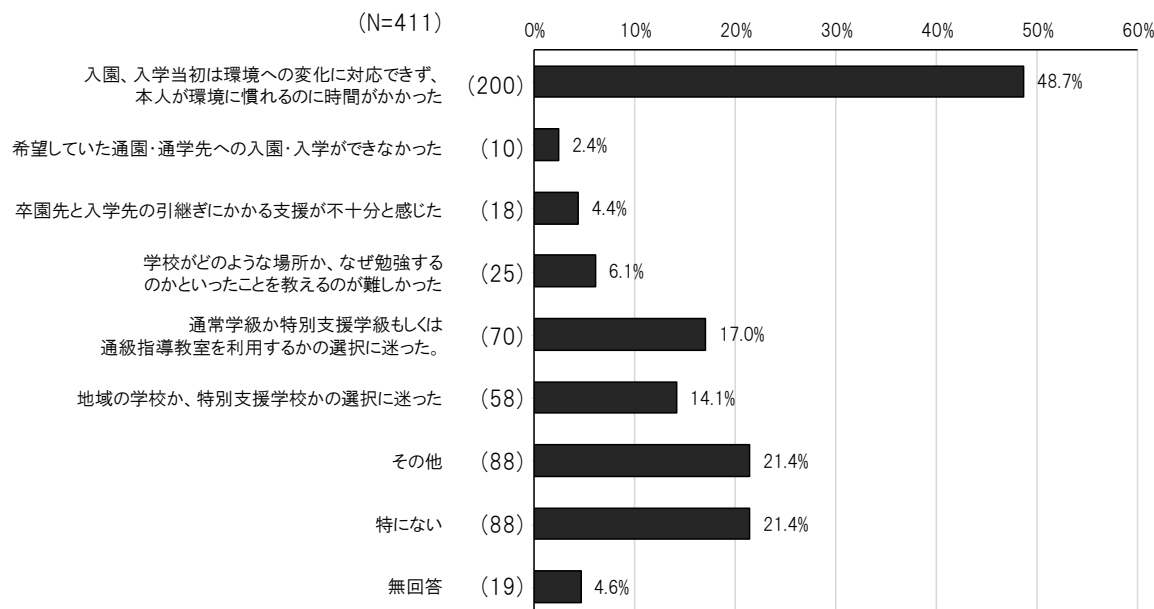
	ことばの教室	通級指導教室	その他	特にない	無回答
総数(N=411)	3.4%	5.1%	4.9%	59.4%	27.7%
自閉スペクトラム症(ASD) (n=205)	2.0%	5.4%	6.3%	57.6%	29.3%
注意欠如多動症(ADHD) (n=84)	0.0%	8.3%	8.3%	63.1%	21.4%
学習障がい(LD) (n=36)	5.6%	16.7%	13.9%	38.9%	25.0%
知的障がい (n=96)	3.1%	1.0%	1.0%	66.7%	28.1%
運動機能障がい (n=14)	0.0%	0.0%	14.3%	42.9%	42.9%
その他 (n=51)	2.0%	2.0%	2.0%	68.6%	25.5%
診断名特になし(無回答含む) (n=44)	13.6%	2.3%	6.8%	43.2%	36.4%
診断を受けていない (n=54)	1.9%	5.6%	0.0%	70.4%	22.2%

診断結果別の回答数(n値)については、68ページ下段(通園・通学先×診断結果)の図表内の「どこにも所属していない」と「無回答」以外の回答割合を乗じた値です【例：自閉症スペクトラム症(ASD) n=205 [n=216×(100%-0.5%-4.6%)]】。複数の診断を受けている方がいるため、件数の合計は母数団(N=411)の件数を上回ります。なお、診断結果無回答については本集計の対象としていません。

問 18 で「どこにも所属していない(15 件)、無回答(17 件)」以外の方【411 件】を対象

問 19. 現在通っている園や学校へ、入園・入学する時に苦勞したり、困ったりしたことがありましたらお答えください(複数回答)

「入園、入学当初は環境への変化に対応できず、本人が環境に慣れるのに時間がかかった」が48.7%と最も高く、次いで「その他」「特にない」が21.4%、「通常学級か特別支援学級もしくは通級指導教室を利用するかを選択に迷った」が17.0%、「地域の学校か、特別支援学校かを選択に迷った」が14.1%となっています。



「その他」の記入内容

- ・進学時等の環境の変化への不満・不安。
- ・進学先について本人や家族の理解が得られない。
- ・不登校への対応。 など
- ・学校側の理解が得られない。
- ・進路相談先等が分からない。

●入園・入学にあたり困ったことなど×年齢

「通常学級か特別支援学級もしくは通級指導教室を利用するか」の選択に迷った」「地域の学校か、特別支援学校かの選択に迷った」については、6歳以上の回答が主となっていますが、「通常学級か特別支援学級もしくは通級指導教室を利用するか」の選択に迷った」は6～8歳、9～11歳が12～14歳、15歳以上に比べて高く、「地域の学校か、特別支援学校かの選択に迷った」は12～14歳、15歳以上が6～8歳、9～11歳に比べて高くなっています。

	入園、入学当初は環境への変化に対応できず、本人が環境に慣れるのに時間がかかった	希望していた通園・通学先への入園・入学ができなかった	卒園先と入学先の引継ぎにかかる支援が不十分と感じた	学校がどのような場所か、なぜ勉強するのかと教えるのが難しかった	通常学級か特別支援学級もしくは通級指導教室を利用するかを選択に迷った。	地域の学校か、特別支援学校かの選択に迷った	その他	特になし	無回答
総数(N=411)	48.7%	2.4%	4.4%	6.1%	17.0%	14.1%	21.4%	21.4%	4.6%
3歳以下 (n=31)	29.0%	3.2%	0.0%	0.0%	0.0%	3.2%	22.6%	45.2%	12.9%
4～5歳 (n=85)	61.2%	5.9%	0.0%	1.2%	7.1%	4.7%	28.2%	17.6%	5.9%
6～8歳 (n=82)	51.2%	1.2%	4.9%	7.3%	29.3%	14.6%	20.7%	15.9%	1.2%
9～11歳 (n=91)	48.4%	2.2%	4.4%	15.4%	26.4%	13.2%	15.4%	15.4%	3.3%
12～14歳 (n=71)	47.9%	0.0%	9.9%	5.6%	18.3%	25.4%	18.3%	22.5%	4.2%
15歳以上 (n=43)	32.6%	2.3%	4.7%	0.0%	4.7%	20.9%	25.6%	34.9%	4.7%

年齢別の回答数(n値)については、67ページ上段(通園・通学先×年齢)の図表内の「どこにも所属していない」と「無回答」以外の回答割合を乗じた値です【例:6～8歳 n=82 [n=89×(100%-1.1%-6.7%)]】。なお、年齢無回答については本集計の対象としていません。

●入園・入学にあたり困ったことなど×診断結果

知的障がい「地域の学校か、特別支援学校かの選択に迷った」が他の診断結果に比べて高くなっています。

	入園、入学当初は環境への変化に対応できず、本人が環境に慣れるのに時間がかかった	希望していた通園・通学先への入園・入学ができなかった	卒園先と入学先の引継ぎにかかる支援が不十分と感じた	学校がどのような場所か、なぜ勉強するのかと教えるのが難しかった	通常学級か特別支援学級もしくは通級指導教室を利用するかを選択に迷った。	地域の学校か、特別支援学校かの選択に迷った	その他	特になし	無回答
総数(N=411)	48.7%	2.4%	4.4%	6.1%	17.0%	14.1%	21.4%	21.4%	4.6%
自閉スペクトラム症(ASD) (n=205)	51.7%	1.5%	7.3%	7.3%	23.9%	16.6%	17.1%	15.6%	3.4%
注意欠如多動症(ADHD) (n=84)	56.0%	3.6%	6.0%	13.1%	31.0%	8.3%	23.8%	10.7%	3.6%
学習障がい(LD) (n=36)	47.2%	0.0%	11.1%	13.9%	19.4%	13.9%	13.9%	25.0%	8.3%
知的障がい (n=96)	45.8%	4.2%	4.2%	2.1%	8.3%	32.3%	25.0%	19.8%	0.0%
運動機能障がい (n=14)	50.0%	7.1%	7.1%	7.1%	14.3%	21.4%	14.3%	14.3%	7.1%
その他 (n=51)	43.1%	7.8%	3.9%	13.7%	17.6%	11.8%	29.4%	23.5%	2.0%
診断名特になし(無回答含む) (n=44)	56.8%	2.3%	0.0%	2.3%	9.1%	4.5%	29.5%	29.5%	4.5%
診断を受けていない (n=54)	42.6%	0.0%	0.0%	1.9%	7.4%	5.6%	16.7%	33.3%	13.0%

診断結果別の回答数(n値)については、67ページ下段(通園・通学先×診断結果)の図表内の「どこにも所属していない」と「無回答」以外の回答割合を乗じた値です【例:自閉スペクトラム症(ASD) n=205 [n=216×(100%-0.5%-4.6%)]】。複数の診断を受けている方がいるため、件数の合計は母集団(N=411)の件数を上回ります。なお、診断結果無回答については本集計の対象としていません。

●通園・通学先×入園・入学する時にあたり困ったこと（進学を選択にかかる内容のみ）

「通常学級か特別支援学級もしくは通級指導教室を利用するかを選択に迷った」方の70件（70ページのグラフ参照）のうち、特別支援学級に通学が41件となっています。

「地域の学校か、特別支援学校かを選択に迷った」方の58件（70ページのグラフ参照）のうち、特別支援学校に通学が22件、特別支援学級に通学が21件となっています。

	通常学級 + 高等学校	特別支援学級	特別支援学校	その他
通常学級か特別支援学級もしくは 通級指導教室を利用するかを選択 に迷った (n=70)	20	41	1	8
地域の学校か、特別支援学校かの 選択に迷った (n=58)	9	21	22	6

○小学校・中学校・高等学校別の内訳

「通常学級か特別支援学級もしくは通級指導教室を利用するかを選択に迷った」方の70件については、小学校では特別支援学級の件数が通常学級の3倍となっている一方で、中学校では通常学級と特別支援学級の件数が差が少なくなっています。

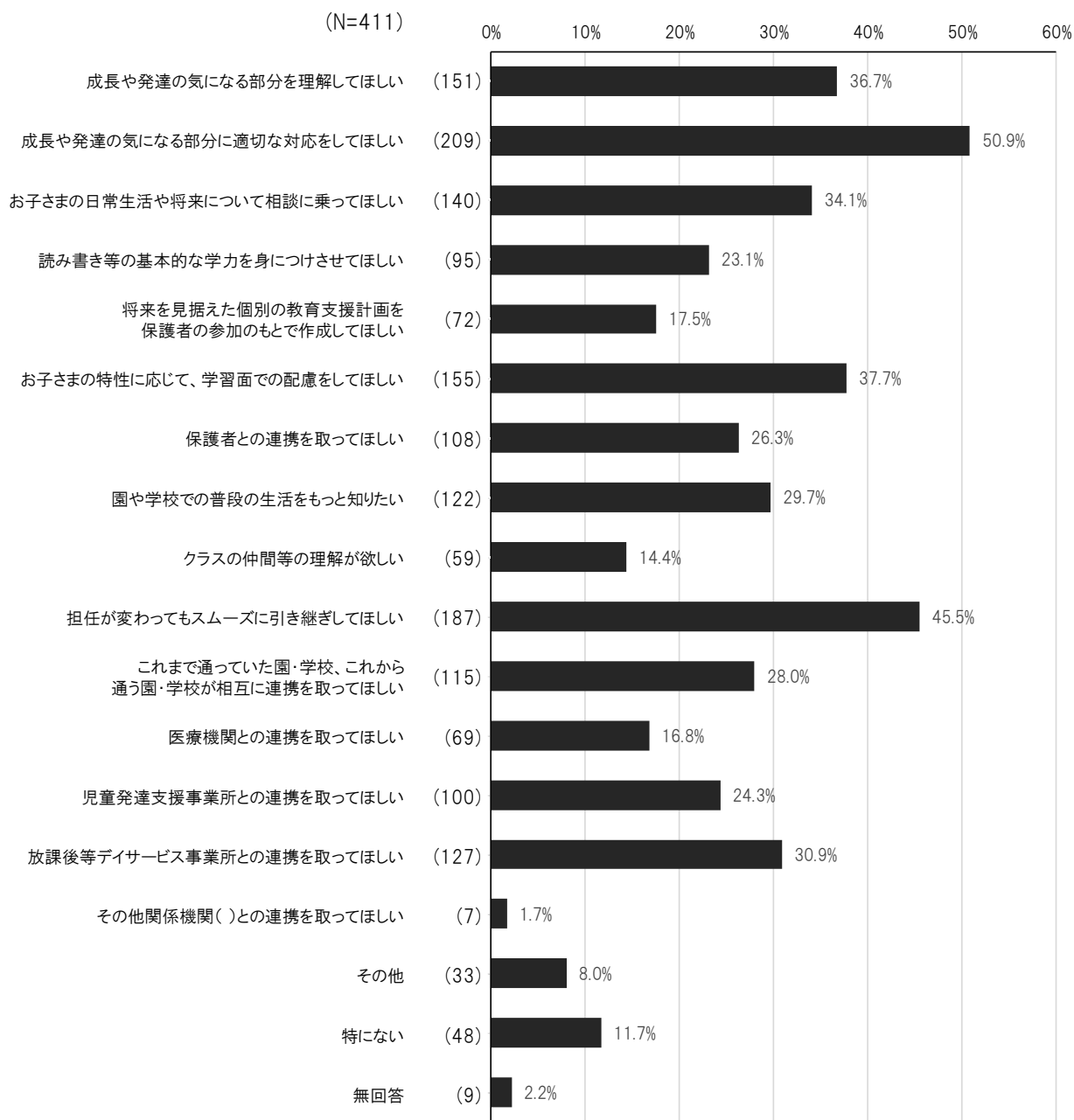
「地域の学校か、特別支援学校かを選択に迷った」方の58件について、特別支援学校が22件となっており、うち15歳以上は9件（43×20.9% 71ページ上段の図表参照）となっています。主に高校生に相当する年齢では、高等学校の3件に対して3倍となっています。

	小学校		中学校		高等学校	特別支援 学校	その他
	通常学級	特別支援 学級	通常学級	特別支援 学級			
通常学級か特別支援学級もしくは 通級指導教室を利用するかを選択 に迷った (n=70)	12	36	7	5	1	1	8
地域の学校か、特別支援学校かの 選択に迷った (n=58)	2	16	4	5	3	22	6

問 18 で「どこにも所属していない(15 件)、無回答(17 件)」以外の方【411 件】を対象

問 20. 現在通っている園や学校に望むことは何ですか(複数回答)

「成長や発達 of 気になる部分に適切な対応をしてほしい」が 50.9%と最も高く、次いで「担任が変わってもスムーズに引き継ぎしてほしい」が 45.5%、「お子さまの特性に応じて、学習面での配慮をしてほしい」が 37.7%、「成長や発達 of 気になる部分を理解してほしい」が 36.7%となっています。



●入園や学校に望むこと×年齢

全体として最も高い「成長や発達の気になる部分に適切な対応をしてほしい(50.9%)」については、年齢による大きな差はみられません。「担任が変わってもスムーズに引き継ぎしてほしい(45.5%)」については、3歳以下、15歳以上を除く年齢で高くなっており、「これまで通っていた園・学校、これから通う園・学校が相互に連携を取ってほしい(28.0%)」については、小学校への進学時、中学校への進学時に該当する4～5歳、9～11歳で高くなっています。

	成長や発達の気になる部分を理解してほしい	成長や発達の気になる部分に適切な対応をしてほしい	お子さまの日常生活や将来について相談に乗ってほしい	読み書き等の基本的な学力を身につけてほしい	将来を見据えた個別の教育支援計画を保護者の参加のもとで作成してほしい	お子さまの特性に応じて、学習面での配慮をしてほしい	保護者との連携を取ってほしい	園や学校での普段の生活をもっと知りたい	クラスの仲間等の理解が欲しい	担任が変わってもスムーズに引き継ぎしてほしい	これまで通っていた園・学校、これから通う園・学校が相互に連携を取ってほしい	医療機関との連携を取ってほしい	児童発達支援事業所との連携を取ってほしい	放課後等デイサービス事業所との連携を取ってほしい	その他関係機関との連携を取ってほしい	その他	特にない	無回答
総数(N=411)	36.7%	50.9%	34.1%	23.1%	17.5%	37.7%	26.3%	29.7%	14.4%	45.5%	28.0%	16.8%	24.3%	30.9%	1.7%	8.0%	11.7%	2.2%
3歳以下 (n=31)	22.6%	35.5%	32.3%	12.9%	3.2%	9.7%	32.3%	41.9%	3.2%	19.4%	22.6%	19.4%	35.5%	3.2%	0.0%	9.7%	16.1%	3.2%
4～5歳 (n=85)	51.8%	60.0%	29.4%	22.4%	11.8%	31.8%	30.6%	49.4%	11.8%	45.9%	50.6%	17.6%	43.5%	10.6%	1.2%	3.5%	7.1%	1.2%
6～8歳 (n=82)	40.2%	52.4%	31.7%	32.9%	20.7%	42.7%	25.6%	36.6%	23.2%	57.3%	17.1%	14.6%	23.2%	43.9%	1.2%	11.0%	12.2%	2.4%
9～11歳 (n=91)	37.4%	53.8%	42.9%	22.0%	23.1%	48.4%	25.3%	25.3%	18.7%	59.3%	33.0%	17.6%	22.0%	41.8%	1.1%	9.9%	7.7%	2.2%
12～14歳 (n=71)	31.0%	53.5%	31.0%	19.7%	23.9%	42.3%	26.8%	12.7%	9.9%	43.7%	22.5%	16.9%	12.7%	43.7%	4.2%	9.9%	7.0%	1.4%
15歳以上 (n=43)	20.9%	34.9%	39.5%	18.6%	11.6%	32.6%	16.3%	9.3%	9.3%	20.9%	7.0%	18.6%	9.3%	20.9%	2.3%	4.7%	30.2%	2.3%

年齢別の回答数(n値)については、67ページ上段(通園・通学先×年齢)の図表内の「どこにも所属していない」と「無回答」以外の回答割合を乗じた値です【例:6～8歳 n=82 [n=89×(100%-1.1%-6.7%)]】。なお、年齢無回答については本集計の対象としていません。

●入園や学校に望むこと×診断結果

学習障がい(LD)では「お子さまの特性に応じて、学習面での配慮をしてほしい」、運動機能障がいでは「保護者との連携を取ってほしい」などが高くなっていますが、それ以外については回答傾向に大きな差はみられません。

	成長や発達の気になる部分を理解してほしい	成長や発達の気になる部分に適切な対応をしてほしい	お子さまの日常生活や将来について相談に乗ってほしい	読み書き等の基本的な学力を身につけてほしい	将来を見据えた個別の教育支援計画を保護者の参加のもとで作成してほしい	お子さまの特性に応じて、学習面での配慮をしてほしい	保護者との連携を取ってほしい	園や学校での普段の生活をもっと知りたい	クラスの仲間等の理解が欲しい	担任が変わってもスムーズに引き継ぎしてほしい	これまで通っていた園・学校、これから通う園・学校が相互に連携を取ってほしい	医療機関との連携を取ってほしい	児童発達支援事業所との連携を取ってほしい	放課後等デイサービス事業所との連携を取ってほしい	その他関係機関との連携を取ってほしい	その他	特にない	無回答
総数(N=411)	36.7%	50.9%	34.1%	23.1%	17.5%	37.7%	26.3%	29.7%	14.4%	45.5%	28.0%	16.8%	24.3%	30.9%	1.7%	8.0%	11.7%	2.2%
自閉スペクトラム症(ASD) (n=205)	41.5%	53.2%	38.5%	24.9%	22.9%	43.9%	28.3%	27.3%	18.5%	48.8%	29.3%	19.0%	24.4%	37.6%	1.5%	8.3%	11.7%	1.0%
注意欠如多動症(ADHD) (n=84)	50.0%	58.3%	41.7%	22.6%	23.8%	52.4%	33.3%	26.2%	22.6%	56.0%	29.8%	22.6%	25.0%	40.5%	0.0%	8.3%	13.1%	1.2%
学習障がい(LD) (n=36)	47.2%	56.6%	19.4%	27.8%	27.8%	63.9%	27.8%	22.2%	19.4%	69.4%	25.0%	25.0%	22.2%	41.7%	5.6%	11.1%	5.6%	0.0%
知的障がい (n=96)	30.2%	46.9%	38.5%	34.4%	16.7%	33.3%	19.8%	32.3%	17.7%	35.4%	14.6%	21.9%	21.9%	30.2%	2.1%	5.2%	15.6%	1.0%
運動機能障がい (n=14)	57.1%	50.0%	42.9%	28.6%	35.7%	35.7%	42.9%	35.7%	21.4%	50.0%	28.6%	28.6%	35.7%	35.7%	7.1%	7.1%	14.3%	0.0%
その他 (n=51)	39.2%	54.9%	41.2%	23.5%	13.7%	45.1%	29.4%	33.3%	13.7%	60.8%	41.2%	23.5%	33.3%	35.3%	2.0%	21.6%	7.8%	0.0%
診断名特になし(無回答含む) (n=44)	40.9%	59.1%	31.8%	15.9%	11.4%	22.7%	25.0%	40.9%	6.8%	36.4%	29.5%	15.9%	27.3%	25.0%	2.3%	0.0%	13.6%	2.3%
診断を受けていない (n=54)	20.4%	31.5%	13.0%	14.8%	5.6%	13.0%	18.5%	25.9%	5.6%	29.6%	27.8%	5.6%	24.1%	5.6%	0.0%	3.7%	18.5%	9.3%

診断結果別の回答数(n値)については、67ページ下段(通園・通学先×診断結果)の図表内の「どこにも所属していない」と「無回答」以外の回答割合を乗じた値です【例:自閉症スペクトラム症(ASD) n=205 [n=216×(100%-0.5%-4.6%)]】。複数の診断を受けている方がいるため、件数の合計は母数団(N=411)の件数を上回ります。なお、診断結果無回答については本集計の対象としていません。

**問 21. 現在通っている園や学校が行っている取組で、良いと思うもの、続けてほしいと思うものは何ですか
(自由記入)**

160件の記入があり、記入内容を踏まえて分類した内訳については以下のとおりです。

子どもに寄りそった支援。	44 件
保護者との細やかな連携。	38 件
加配制度など教職員の十分な確保。	31 件
さまざまな課外授業(ボランティア活動など含む)。	25 件
相談体制の充実。	10 件
現状に満足している。	6 件
送迎バスがある。	2 件
その他。	4 件
合 計	160 件

記入内容(抜粋)

●子どもに寄りそった支援

子どもの気持ちに寄り添った支援(否定せず受け止めてくれる姿勢)、担当の先生以外にサポートの先生がいてくださること。
感覚過敏やこだわりのある子どもに対して、要望があった人には指定外の特別な体操服での通園を認める。(3年目から認められたので今後も継続してほしい)。
個々の特性を理解して頂けていること。保護者の思いや本人の思いに寄り添いながら生活面、学習面などの進め方を考えて頂いていること。
個別の教育支援をして頂けているので、ゆっくりながら成長していることが、連絡帳を通して日々感じることが出来ます。外周路や地域の散歩を通しての道路交通安全(車は危ない、信号での待つ事、道に飛び出さない等)の訓練、地域の学校との交流会を通して、色々な人に特性を知ってもらう活動など。
現在支援学級の担任の先生、クラスの担任の先生方がとても理解のある先生で、すばらしい対応をして下さっています。子どもも楽しく学校生活を送らせて頂き、困難なこともフォロー、チャレンジへ繋げてもらい大きな成長をしています。
先生が少ない中で個別にしっかり見てくれているところ。毎日の取組みや生活をお帳面でやりとりできたり、気になったことなどあればすぐ連絡をもらえるところ。
本人が困っていても無理に押しつけてやらそうとしない(癇癪になるため)。決まった場所のトイレしか行けないため、こまめに声かけ誘導してくれる。表情、言葉が出ないので、楽しい事、できた事を一緒に共感してくれる。
支援級の担任の先生も交流級の担任の先生も、息子をとても理解してくれており、学習面・生活面・精神面全てにおいて良い対応をして頂いています。保護者への連絡も丁寧でいつも感謝しております。
経管栄養の子ども気管切開の子ども医療ケア児を受け入れていて、看護師が保育に入ってきてしっかりみてくれるので、安心して預けられる。生駒市にもそんな保育園があってほしい。
子どもの発達や成長をよくみてくださり、無理に取り出しをすることもなく、通常のクラスの授業に対応できる間は通常クラスで勉強させてもらえることにとても感謝しています。支援級在籍でも、個々に合わせて、授業を受けられるこの環境を変えずに続けて頂きたいです。
自由にさせてもらっているみたいなので、調子にのったりちよけまくってるけど、先生たち皆さんで見守ってくれるのでありがたいです。本人も楽しく通ってます。子どもも含めて親まで気づかってくれるいいところです。
通常級の子どもたちと関わる時間を大事に考えてくれているので、本人の発達(コミュニケーション、発語)がとても進んだと感じる。
個別支援計画を立て懇談では十分な時間をとって話を聞いてもらうこと。
合理的配慮でタブレットの使用を許可してもらっていること。

●保護者との細やかな連携

細やかな「報・連・相」。今も一般の学校に比べれば、とても細やかに連絡を頂けていて助かってます。それでも緊急時の対応などは、まだまだ不十分と感ずるので。
放課後デイや生活支援センターと密に連携を取っていただき、悩みを共有し、解決策を一緒に考え、取り組んでいただき大変ありがたく思っています。
不登校に大変理解のある学校で、先生方ともしっかりコミュニケーションがとれているので助かっている。子ども同志のコミュニケーション不足を助けるための取組みも色々あり、今のところ楽しく通えている。
連絡帳で学校での様子が細かく記入されているので続けてほしい。先生方の負担は承知の上だが、子どもからの話は聞けないので様子が分かりありがたい。
毎日の連絡ノートでその日の様子を詳しく記入して下さり、毎月写真付きで学級通信を配布して普段の取り組みや行事を教えて下さるのは大変良いと思います。
現状に満足しています。児童発達支援の事業所と密に連絡とって下さり、直接の送迎も連携して下さっているのはとてもありがたいです。
こちらからお願いすると色々やってくれるケースは多いように思います。できれば気になることがあれば学校側からのアドバイスも欲しいです。
学校全体で（とくに先生方間で）特性の共有ができています。ただ校長先生が変わると雰囲気もだいぶ変わったり、情報の共有にムラがあるかも？と感じます。幼稚園や保育園→小学校→中学校へ情報の連携をぜひお願いしたいです。
特別支援学校、連絡帳を通じやりとりや家庭訪問、日々の行事などとても手厚く対応いただいていると思っております。無理なく続けていけることを願います。
保護者とライン、SNS で連絡してくれること。仕事をしているので電話に出れないことも多々ありとても助かっています。
発達支援事業所と園の先生が、それぞれの場所に訪問して、子ども達の様子や関わり方を直接見て、聞いて共有して頂けたのがありがたい。
学年が変わるごとに先生が変わるので、引き継ぎ書で前年度の課題や親と今年度どう成長するにあたり係わっていくか一緒に先生と話し合いができるのは良い。前担任と引き継ぎをしていただいているのか分からないが、してくれていれば1から全て話さなくて良いと思う。
放課後デイサービス、支援級、個別療育など発達の理解、共有をして下さる予定です。とてもうれしいことだと感じています。

●加配制度など教職員の十分な確保

加配をお願いしています。担任の先生だけでなく、たくさんの先生方の目がある、ということで安心感を持っております。いつも丁寧に保育していただいております。
専門的な知識を持っておられる先生が、支援学級の担当をされていること。
加配の先生、担任の先生共に非常に細かく配慮していただき何の不満もありません。特別扱いすることなく自然な関わりの中で目配り、気配りしていただき着実に成果が出ています。
先生が恥ずかしがらずに恥じらいを捨ててお手本をいつも子どもに楽しく陽気に見せてくださるのがとてもありがたいです（私の子は怖がり、見通しがつかない事が苦手なため）。とても元気でハキハキ明るい。
先生方は毎日忙しく、子ども達との関わりには限界があるかと思います。もう少し、先生も子ども達もゆとりのある日常になって欲しいと願います。キャパオーバーで取組みにも難しいと思います。
入学してから5年間支援級の先生が一緒の為、1年の時は学級に入れないなどを知って対応してくれたので、どのようにすれば良いか全て知ってくれており、安心して学校に行けています。子どもに合わせて学力もスモールステップでやってくれるので、ものすごく伸びました。先生とのノートで日々の困りごとなど相談でき、すぐ解決!!本当に感謝です。
中2より通常学級になったが、中1の時、支援学級の先生からたまに声かけをもらい本人は不安なく登校できている。中1と同じ担任である放課後デイサービス等との連携もしており、安心している。
集団に入ることが難しく不登校になったが、支援級に入級し、行きやすいタイミングで登校することができるようになり、少しずつ行けるようになった。支援級全体で、学年の隔たりなく全学年の先生が対応して下さるので、学年が上がってもスムーズに適應できている。
本人が困っているかもしれないことや、本人が頑張っていることや、できるようになったことをその都度保護者に伝えてくださった。そのため園での様子がわかりやすかったり、今後の対応を先生と相談させてもらえたりとても助かり安心して通わせることができた（ただし、進級すると担任や加配の先生が変わってしまうため毎回同様のサポートを受けられるわけではない）。加配の先生との信頼関係を本人が築けたことで、とても成長した。

●さまざまな課外授業（ボランティア活動など含む）

1～6年生と一緒に活動する学習が多い事。他の学年の児童にも特性への理解や必要な支援を知ってもらえる事がとても心強い。学級や学年を越えて息子への理解が深まる事は嬉しい。
えんくろすという取組みで地域のボランティア、保護者、園と一緒に活動する機会が設けられています。地域の方々と関わる時間を持つことは地域の中で育つ子ども達にとって、とても大切な時間だと感じております。
放課後登校や好きな授業だけ登校して参加させてもらえてる事。苦手なお友達（クラスメイト）と同じ場所にならないよう配慮いただいている。
特別支援学級の時間で、野菜を育てたり、製作したり、ミュージックケアを行っているところ。
体力作りとタブレット学習。体力作りは家ではなかなか出来ないの。タブレット学習は本人が大好き。
通っている小学校は少人数のため、支援級で畑をしたり自立活動を行っています。子ども達も日直等の役割があるとイキイキしてるように見えます。また、支援級の参観と一緒に調理自習を行ったりと、楽しい企画も先生方考えてくださり、ありがたいです。
山散歩…体幹を鍛えられるので、ぜひ続けて欲しい。 遊びのルールをスモールステップで教えてくれる事…きちんと「わかった」上で楽しめるようにしてくれている。
1年を通して支援学級内で交流があり、野菜作りや作品展に向けて、みんなで力を合わせているところ。
事業所見学等色々な情報を教えて頂いたり、一緒に行ってもらったりと、すごく親身になってもらえてる事。

●相談体制の充実

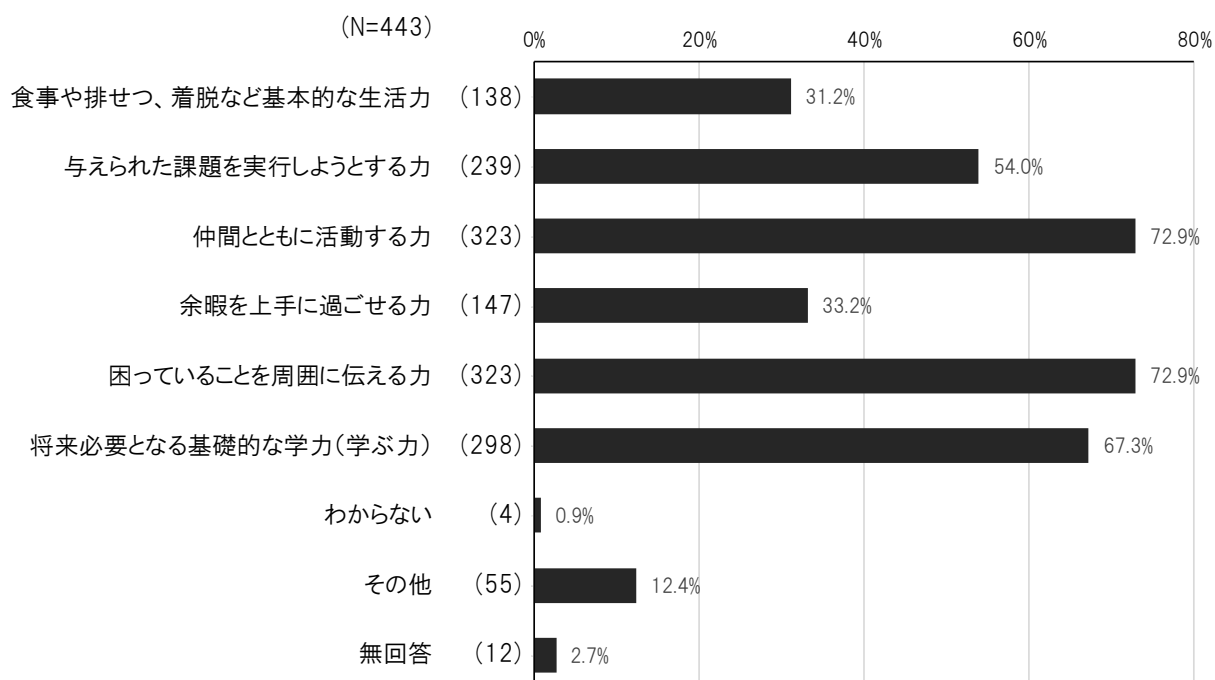
親が子と関わりについて相談した際、関係機関と連携して、面談の場を設けてくれて、必要な支援があれば速やかに利用までの流れを示してくれる事。
交流級と支援級の担任だけではなく、スクールカウンセラーと話すことで、より客観的な意見を聞けて、親子共々課題を認識できて、本人の成長に役に立っています。
高校に入って、初めて毎週カウンセラーが来ている学校に行くことができたので、本人が苦しくなった時に毎週逃げ込める場所があるということで、登校できるようになった。小、中学校にはカウンセリングルームが月1、2回しか来ないし、予約（特に小学校）は子どもでは、しにくい所があった。逃げる所（居場所）が、なかったそうです。

●その他

不登校になりがちなので、不登校の親の会がある。それは続けて欲しい。
災害時対策。

問 22. 将来、学校教育を終えるまでにお子さまに身につけて欲しいことは何ですか（複数回答）

「仲間とともに活動する力」「困っていることを周囲に伝える力」がともに72.9%と最も高く、次いで「将来必要となる基礎的な学力（学ぶ力）」が67.3%、「与えられた課題を実行しようとする力」が54.0%となっています。



「その他」の記入内容

- ・将来は自立し、一人で生きていける力。
- ・自己理解、自己肯定感。
- ・一般常識、社会適応能力の向上。 など

●学校教育を終えるまでに身に着けてほしいこと×年齢

3歳以下の「食事や排せつ、着脱など基本的な生活力」「与えられた課題を実行しようとする力」が他の年齢に比べて高く、12～14歳、15歳以上の「余暇を上手に過ごせる力」が他の年齢に比べて高くなっていますが、それ以外については回答傾向に大きな差はみられません。

	食事や排せつ、着脱など基本的な生活力	与えられた課題を実行しようとする力	仲間とともに活動する力	余暇を上手に過ごせる力	困っていることを周囲に伝える力	将来必要となる基礎的な学力（学ぶ力）	わからない	その他	無回答
総数(N=443)	31.2%	54.0%	72.9%	33.2%	72.9%	67.3%	0.9%	12.4%	2.7%
3歳以下 (n=40)	75.0%	72.5%	85.0%	32.5%	77.5%	75.0%	0.0%	7.5%	0.0%
4～5歳 (n=92)	42.4%	55.4%	80.4%	22.8%	73.9%	65.2%	1.1%	4.3%	6.5%
6～8歳 (n=89)	27.0%	56.2%	74.2%	32.6%	66.3%	69.7%	1.1%	18.0%	1.1%
9～11歳 (n=92)	18.5%	50.0%	69.6%	32.6%	71.7%	69.6%	2.2%	16.3%	0.0%
12～14歳 (n=74)	23.0%	52.7%	70.3%	43.2%	77.0%	67.6%	0.0%	14.9%	1.4%
15歳以上 (n=45)	22.2%	48.9%	62.2%	40.0%	77.8%	57.8%	0.0%	11.1%	4.4%

年齢無回答(n=11)はクロス集計の対象としていません(1 ページ参照)。

●学校教育を終えるまでに身に着けてほしいこと×診断結果

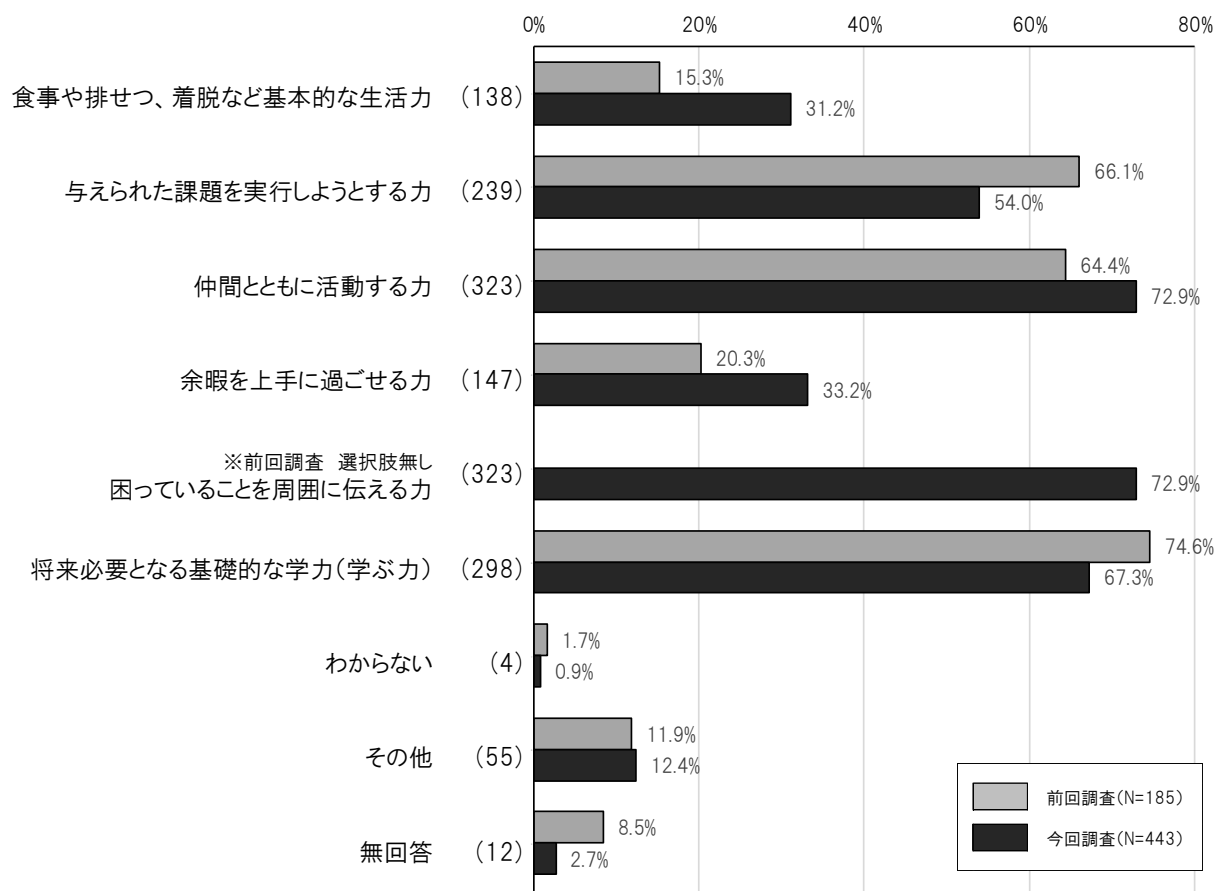
「食事や排せつ、着脱など基本的な生活力」については知的障がい、運動機能障がいが高く、自閉スペクトラム症(ASD)、注意欠如多動症(ADHD)、学習障がい(LD)で低くなっていますが、それ以外については回答傾向に大きな差はみられません。

	食事や排せつ、着脱など基本的な生活力	与えられた課題を実行しようとする力	仲間とともに活動する力	余暇を上手に過ごせる力	困っていることを周囲に伝える力	将来必要となる基礎的な学力（学ぶ力）	わからない	その他	無回答
総数(N=443)	31.2%	54.0%	72.9%	33.2%	72.9%	67.3%	0.9%	12.4%	2.7%
自閉スペクトラム症(ASD) (n=216)	25.5%	58.3%	77.8%	39.8%	73.1%	67.6%	0.5%	14.4%	0.9%
注意欠如多動症(ADHD) (n=88)	19.3%	64.8%	80.7%	45.5%	72.7%	71.6%	1.1%	13.6%	1.1%
学習障がい(LD) (n=37)	18.9%	45.9%	67.6%	32.4%	67.6%	83.8%	0.0%	18.9%	0.0%
知的障がい (n=100)	48.0%	50.0%	72.0%	47.0%	78.0%	58.0%	1.0%	14.0%	2.0%
運動機能障がい (n=16)	43.8%	50.0%	75.0%	37.5%	62.5%	50.0%	0.0%	25.0%	6.3%
その他 (n=51)	37.3%	68.6%	68.6%	33.3%	80.4%	66.7%	0.0%	25.5%	2.0%
診断名特になし(無回答含む) (n=47)	44.7%	51.1%	61.7%	25.5%	74.5%	61.7%	0.0%	8.5%	12.8%
診断を受けていない (n=64)	32.8%	51.6%	70.3%	18.8%	64.1%	68.8%	1.6%	4.7%	1.6%

複数の診断を受けている方がいるため、件数の合計は母集団(N=443)の件数を上回ります。また、診断結果無回答(n=12)はクロス集計の対象としていません(2 ページ参照)。

◇学校教育を終えるまでに身に付けてほしいこと 前回調査との比較

「困っていることを周囲に伝える力」が今回調査の選択肢として追加されていますが、回答傾向としては前回調査の回答傾向と大きな差はみられません。



7. 自由意見

問 23. お子さまの現状及び将来において、福祉や教育・医療分野において求めることや、その他生駒市政へのご意見・ご要望などがございましたら、ご自由にお書きください（自由記入）

回答総数443件において、228件の記入があり、うち複数の意見を記載している方がいたため、意見の総数が243件となっています。

記入内容を踏まえて分類した243件の内訳については以下のとおりです。

支援学級、支援学校などに関すること。	53 件
進学や就職など進路に関すること。	31 件
療育に関すること。	25 件
福祉サービスの充実（新たな施設整備などを含む）。	22 件
情報の入手手段や相談先の充実。	20 件
医療に関すること。	17 件
放課後等デイサービスに関すること。	17 件
公園、遊び場などの施設整備。	17 件
経済的支援、手当の充実。	17 件
行政サービス全般（親亡き後のことなど含む）。	14 件
障がい児への理解。	10 件
合 計	243 件

記入内容（抜粋）

●支援学級、支援学校などに関すること

小・中学校において、抽出授業（特別支援学級での授業）が全授業数の半数以下でも、特別支援学級に在籍できるようにしてほしい。通級指導教室の設置している学校を増やしてほしい。
学童の運営に保護者が関わるのは時代遅れだと思う。働いているから学童を利用しているのに、役員の仕事によっては随分と時間を割かれる。
国の方針が厳格になり、支援級に在籍する時間が増えてしまった。息子の発達の特性上や学校生活になれた4年生であることから、たまたま大きな問題はなかった。国に対して生駒市から学校の裁量の範囲で対応できるように要望書を出してほしい。本件に関わらず、国や県に対して、市から要望をあげて、少しでもより良い方向へ変わってほしい。
学校教員の理解が乏しく、自ら理解しようとしていない人が多い。グレーゾーンの子どもが増える中、今までの教員の考えでは保護者トラブル、子どもの自己肯定感を下げる。保護者からの学校不信になる。
現在、中学進学に向けて、地域の学校の支援級か養護学校か親の希望をどちらで出すか、非常に悩んでいます。入学後の様子を想像できない状況です。コロナ禍という事もあり、なかなか体験授業という機会もありませんでしたが、できれば小学校高学年より、小、中学校間で生徒の情報共有をし、それぞれの学校でどういう支援ができるか親にも各学校での中学校生活がどういう風になるか想像できるよう提供いただきたいです。
現状は難しいかもしれませんが、各クラスにおいて十分な人数の特別支援の先生を付けていただく、もしくはクラスの人数を少人数にいただくことで、要望のあるなしに関わらず、必要とする子どもに適切な支援がなされる学習環境となることを望みます。
勉強ができることよりも、生きていく力を身につけさせてほしい。早いうちから自立を視野に入れて訓練していくことも必要ではないかと思う。もちろん、その子その子で全く支援の仕方が違うと思うので、難しいと思いますが、できる限り1人ひとりに合った支援を今後とも、よろしくお願いいたします。
先生方が忙しすぎるので、ご近所見守りボランティアの方や元教員の方など、人物は厳選しつつ、クオリティーを高め、補助の方による学校のお手伝いがあればと思います。 あくまでも学校教育のなかで（保護者の許可なく）そういった本来は配慮を必要とされる生徒や、また教室に入りにくい生徒をケアする為にも、校内に別教室や別先生の余裕があれば、と思います。

●支援学級、支援学校などに関すること(つづき)

通級教室の先生が足りていない(人数が少なく先生負担が多い。周囲でも受けてほしいお子さんはいらっしゃるのが実情、受けられない等のお話も聞きます)。グレーゾーンの微妙な診断でも、実際の生活面や学校での集団での活動などの困っているお子さんの支援等にも、力を入れていただきたいです。
不登校になって初めて発達検査をし、診断されました。そこで特別支援学級への入級を考えた時が10月で、申し込みのメチが9月だと知り、間に合わず翌年の2学期からの入級になりました。締切をつくらず学校での居場所をもっと早く作れるようにしてほしいです。
小学校の先生の数が足りていない。どうして生駒市は小学校の教員1人枠を2人でわけて、年配の先生などを入れてくれないのかと思います。週2、週3で働ける人を組み合わせて採用してほしいです。1年間、1人先生が足りなかったら、弱い子、できない子にしわ寄せがくるので、なんとかしてほしい。
現在、生活面では「全介助」です。養護学校に入りたいと思った時に「定員オーバーで入れません」となってしまわないか。「ギリギリで地域の学校に行けるレベルです」などのような状況にならないか、定型発達の子もたちからオムツなどを理由にいじめられないか、など不安ばかりです。支援を必要とする人が支援を受けられる状態を望みます。支援に携わる方々の待遇をよりよくするなど、支援者の数が増えることを望みます。
小学校の支援学級の手続きが難しかったです。幸いに、園の先生方や、あすなろの先生方が助けて下さっています。また、別で中学校の兄がいますが、よく不登校になりまして、医療的な助けを求めたいと思いますが、思春期で色々難しく、中学生や大きい子どもたちの相談口や助けがほしいです。
少人数学級になってほしいなと思います。1人の先生が子ども1人1人に目を向けても、それぞれのことを理解できるように。1人の人間が30~40人を見るというのは、不可能かと思っています。15~20人ぐらいで、伸び伸びと子どもが育ってほしいです。
勉強ができることよりも、生きていく力を身につけさせてほしい。早いうちから自立を視野に入れて、訓練していくことも必要ではないかと思う。もちろん、その子その子でまったく支援の仕方が違うと思うので難しいと思いますが、できる限り1人ひとりに合った支援を今後とも、よろしくお願い致します。
校長先生は理解が深く、教頭先生はとても親身でよく気を配って下さっています。ですが、先生方が忙しすぎるので、ご近所見守りボランティアの方や元教員の方、など、クオリティーは高めて人物は厳選しつつ、補助の方による学校のお手伝いがあればと思います。

●進学や就職など進路に関すること

小学校は、理解していただき協力もあります。ただ、中学校がどこまで理解していただけるのかが不安になります。中学になると担当教科制になり、各教師に連携がされているのかなど。どうしても内申点に厳しいとされる中学校なので、不安が強く感じます。
公立、私立ともに、中学校の特別支援学級が充実していればいいと思う。
義務教育後の進路、福祉サービスの情報がほしい。就職時のサポート等あれば助かります。
就労継続支援A型、B型事業所が増え、将来子どもが職に就く時の選択肢を増やしてほしい。
進学や就職など将来のことが想像できず不安です。実際にどのような例があるのか、発達障がい理解のある学校はあるのかなど(高校、大学)相談できる窓口があればと思います。
小学校~高校まで放課後デイサービスを利用していますが、高校卒業~自立に向け、現在も親の選択に迷い続けております。様々な方に関わりを持っていただいておりますが、今後将来に向けての見通しがつけられず、不安でいっぱいです。1人1人に対応できる支援計画を主として相談できる。しかも関係機関と横の繋がりによって、指南していただける公的サービスを希望します。
知的障がいのないASDの子どもは、将来福祉サービスを受けるのは難しく、自活していく必要があると考えています。一般就労でうまくやっていけるのか、かなりの不安があります。
高校入学に向けて、支援が必要な子へどのような進路が選択肢としてあるのかほぼ情報がありません。その後の将来像も見えてきません。学校を通してでもいいので、この子の適性やこういった分野だったら活躍できそうなのか、専門性のある機関と連携していただきたいですし、定期的に集まって発達具合等も共有していただき、長期目標、短期目標を設定していただけるとありがたいです。
就学相談の際、学校に関する情報が少なかったです。全て「学校に直接問い合わせてください」と言われたが、それでは相談の意味がないように思いました。
中学校で支援級に入るか、普通級で頑張れるか判断出来ない。小学校の支援級の担任と親と中学校の先生とでミーティングがしたいです。

●療育に関すること

東生駒病院でSTを受けていますが、1クール終わると1年近く待つことになります。子どもにとって1年は大きなチャンスロスだと思います。他の医療機関でも同様と聞きますので、もっと絶え間なくリハビリを受けられるようにしてほしいです。
医療的ケア児に兄弟がいる場合、上の子の支援学校登校時間（酸素ボンベがあるためスクールバス利用不可。親の送迎必要）との兼ね合いもあり、下の子の通園（幼稚園や保育園）の毎日の通園が困難です。そのため下の子は少し発育の遅れがあったこともあり、今年度は療育へ通所としましたが、次年度は幼稚園か保育園へ通わせたいと考えていますが、時間的な余裕がなく、今からそれが悩みです。
大阪市は支給される日数が多いが生駒市は少ない。大阪市は言語聴覚士が積極的に療育に介入するが、生駒市では病院に行かないと言語聴覚士に会えない。生駒市として言語聴覚士の登用を増やして欲しい。
支援学級には入れるレベルではないが、保育園で集団生活に難ありの子に療育を受けさせてただけて、本当にありがたいと思っている。今後も現状のようなレベルで発達に難ありの親子をサポートしてほしい。
怒鳴らない子育ての研修会が、市で定期的に行われていることが、すごくよい取り組みだと思う。以前あすなろで受けてすごくよかった。
今後もOTを続けたい。また途切れることなく療育を続けたい。療育を受けられるのは2ヶ所までというルール等があるが、必要な時に必要なことを受けられないと、限られた時間の中で成長する時期やピークなど関係があると思う。できることは全てしたいと思うので、複数の療育をできるようにしてほしい。
来年度幼稚園か支援センター継続するか悩んでいるところです。並行通園だと幼稚園週4日、支援センター週1日と決められてますが、どちらが何日か、相談しながら決めれる制度を作してほしい。子どもに選択肢を作ってあげてほしい。
23日/月支援を受けさせてもらっていますが、制限があることで満足に支援を受けられない。小さい時期にできることをたくさんさせてあげたい。少しでも将来生きやすい生活が送れるよう、子どもたちに選択肢をたくさん作ってやってほしい。

●福祉サービスの充実（新たな施設整備などを含む）

将来、親なき後に安心して子どもの将来を託せるよう、入所施設の充実や、社会の障がいに対する理解・協力が深まり広がるような取り組みと、どこに何を相談すればよいか分かりにくい現状なので、その周知活動等を行政機関には期待しております。
軽度の障がいの場合、将来受けられるサポートや支援が無いに等しく感じます。なんとか学校には通えてはいますが、社会の中へいくには不安しかなく、将来のビジョンが全く見えない状態です。就職できたとしても、遅かれ早かれニートかひきこもりになってしまうだろうと思うし、就労A、Bまではいかなくても、働ける場所がもっと増えてほしい。人生において困っている事も多いものの、軽度ではなかなか障がい者年金ももらえず、将来に対しての不安しかないので、そういったサポートも充実してほしいです。目指すところは自立であるが、今の状態ではなかなか自立は難しいので。
なるべく1人でできることを増やしたいので、それを支援してくれたり、移動支援やショートステイなどももっと使いやすくしてほしい。今どんなサービスを自分が（子どもが）受けれるのか全てわかっていないので、支援学校などを通じてでもいいので分かりやすくまとめてほしい。
耳の聞こえない子のための習い事など、情報の提供や、土曜日の一時預かりのできる保育園をもっともっと拡大してほしい。

●情報の入手手段や相談先の充実

特別支援学級を利用するため診断結果で病名がついたが、療育手帳は持っていない子どもへの負担が大きいと感じる。学習の遅れがあるが、どこに相談していいのかわからないのか、検査などあるのか、就学してからの相談をどこにしているのかわからないことが多く感じる。
どのような公的サービスが受けられるのか（将来的に）についてのレクチャーを定期的に本人、保護者に市が面談などしてほしい（基本的にどんな公的支援があるのか知る術がない）。
障がいを抱えた親同士の繋がり（親の会）や、専門家やカウンセラーの紹介を積極的に発信していただければ助かります。
子どものことを第一に考えて、その時にできる支援をできる限り受けられる制度を考えてほしい。しっかり親にも理解ができるような説明をしてほしい。悩み始めの時にもう少しいろいろな支援を提示してもらえたら、その子にあった支援を選んで受ける事ができたんじゃないかと思う。使える支援が少ない。もう少し扉を開いてほしい。
家庭だけで対応するには情報や知識に限界があるため、まずは福祉、医療、学校間で連携連絡し、その子に合った対応方法が何かを学校でアドバイスできる仕組みが構築できれば生駒市は非常に先駆的な自治体に生まれ変わると思います。
いろいろなサービスや補助がありとてもありがたいです。ただ情報がなく、かなり手探りです。この子にはこういう助けが必要ですよとか、こういう療育がよいですよとか、専門の方のお話が聞きたいです。あるのかもしれませんが、どこで聞けばいいかわかりません。
グレーゾーンという悩ましいタイプなので、そういう子のママ同士の交流や、あすなろの同窓会など、小学校卒業前など、悩む時期に相談会など開いてほしい。

●医療に関すること

1歳半検診でもこちらから言わないと多分何もなかったように感じるので、検診でしっかり診てほしい。
小学校1年生の時に小児科に行ったが、支援を受けるには市役所から意見をもらわないとできないと言われ、市役所に問い合わせると病院からの意見がないと何もできないと言われた。医療機関なのに市からの口添えがないと診断書が書けないというのはおかしいのではないかな。
ADHDやASDの薬を処方出来る小児の医療機関が、生駒市では1件の状態です。他府県や奈良市に行けば良いのかも知れませんが、頻繁に通うことやセカンドオピニオンを考えるともう少し選択肢があればありがたいです。
発達について相談できる（理解、知識がある）小児科を増やしてほしい。特に中学生は、小児科に行くのが恥ずかしい年ごろでもある。また、特性のからみで精神的な面での相談がしづら過ぎる。
医療分野と福祉が連携することで、家族の負担を軽減できるのではないかと感じる。また、支援に関する教育を、教職員に早期教育として取り入れていただく必要性を感じる。

●放課後等デイサービスに関すること

大阪では、放課後デイサービスの出席が、学校の出席に認められる例があるが、生駒市では前例がないとのこと。息子は不登校だが、放課後デイサービスには元気に通っているの、認めてもらえる制度があったらいい。
中学生以上の学習支援をメインにした放課後デイサービスを増やしてほしい。生駒市中心部付近にデイが多いように思うので、奈良市と市境付近にも（中学生の軽度の発達障がいの子たちを中心とした）増やしてほしい。
放課後デイサービスに入れなくて困っている人が多いので、相談、支援して下さるところを増やし、発信してほしい。放課後デイサービスを増設してほしい。支援者（支援級の先生や学校の先生）がもっと子どもの小さな変化や、困りに気づけるような勉強会があればよいと思う。
きちんとしたことができていない施設があります。見学をしてびっくりしました（保護者からの指摘では、変更してもらえませんが）。運動療育ですが、素人が計画していて、非常に危険です。マット運動など、命に関わると思います。市で確認するべきだと思います。
障がい軽度の子ばかり優先して利用させ、重度の子の利用を断ってくる。療育手帳を持たない子に宿題をさせているようなデイサービスが多い。せめて療育手帳を持っている子を優先的に利用させてほしい。

●公園、遊び場などの施設整備

インクルーシブ公園（例えばブランコ一つだけでもインクルーシブのものに変えるなど）の充実、歩道などの段差解消。
桜井市のひみこぱーくのような室内で遊べる場所が増えたらとても嬉しいです。
施設利用（運動施設など）を障がい児が利用しやすくしてほしい。利用しようとしてもすでに健常者により全て予約が埋まっていることがほとんどである。
室内遊び場が無さすぎる。みっきランドは2歳児までで、場所も広くなく体を動かす遊びはあまりない等、制約が多すぎる。昨今の猛暑なども考えると外遊びも限界があるので、早急に実現させてほしい、公園の整備が行き届いていない。草がボーボーで歩きにくかったり、遊具に支障があったりしている。ハチの巣などもあるように思う。大きめの公園の遊具をキレイにするだけでなく、小さい公園にももっと行き届いた管理を願う。
公共の場で何か問題が起きないかと心配なので、「スポパ」で支援が必要な人が、優先に遊べる場を提供してもらえると嬉しいです。安心して遊ばせることができました。ありがとうございます。

●経済的支援、手当の充実

放課後等デイサービスの所得制限を見直してほしいです。息子の将来のために少しでも貯金したいのに、この制度のせいで私が働けません。高校は私立が良いと聞きましたが、経済面で不安です。
習い事に対する金銭的な支援がほしい（児童手当だけで賄うのは難しい）。
医療機関を受診してソーシャルスキルトレーニング等を将来を見据えて受けてみたいと思いますが、経済的な面で躊躇してしまいます。補助等あれば子どもの未来がよりよいものになると思うのでお願いしたいです。
発達障がいなどの特性で学校に通いづらい子どもたちのサポートや、学校以外の場所（フリースクールなど）に通う場合の補助があればいいと思います。ホームスクーリングや、それぞれの特性に合う学びの方法を色々選択できるようになってほしいです。
物価も上がる一方で、発達障がい児、不登校児を抱えていると母親が働きにくく生活が苦しい状況を理解してほしい。その支援を求めたい。

●行政サービス全般（親亡き後のことなど含む）

仕事との両立がどうしても難しいので、いろんなサポートを充実させてもらえると助かります。
親が先に他界して以降、残された兄弟に経済的な負担がかからないよう、障がいを持つ人間が憲法25条の精神に基づいて地域で安心して経済的に自立した暮らしを送れるよう願ってやまない。
福祉やサービスの利用に手続きが多く、スムーズでない。サービスを受ける窓口が独立しているため、わかりにくい。
障がいを持っていても、親が死んだ後、1人で生活をしていけるように支援がもっと充実していれば、親は安心して子育てができてと思う。
中等度の障がいに対する援助がほしい（医療費等）。 福祉やサービスの利用に手続きが多く、スムーズでない。サービスを受ける窓口が独立して分かりにくい。

●障がい児への理解

言葉が出なくても相談できるよう、筆談等でスムーズにできたらありがたい、場面緘黙というものへの理解が深まればと願います。
年配（孫がいる世代）に発達障がいを知ってもらえる取り組みをしたほうがいい。若い人たちよりも年配の理解力がなさ過ぎて辛い思いをしています。いまだに親には子どもの事を話せていません。私のしつけのせいにされるので。
発達凸凹に関しての差別や、偏見を無くしていくための学校教育や知識を広めてほしい。
まだまだ障がいがある子どもへの偏見が残っているなど感じています。自分の子じゃないからと目を背けるのではなく、同じ親として一緒に考えて理解してもらえるようになっていけばと思います。1人でも多くの人にわかってもらえたら嬉しいです。
生駒市内の中学校での障がいへの理解や、配慮にバラつきがあり過ぎる。地域差もあると思うが、子ども達が平等な支援を受けられるようにしてほしい。

Ⅲ. アンケート調査票

(別紙 WEB アンケート回答要領など)

このアンケートは、インターネットでの WEB アンケートも実施しています
パソコンやスマートフォンからの回答も可能です

パソコンで回答される方は、下記のURLを入力し、画面を開いてください。

<https://forms.gle/d8HFc55PdA9QTFeU9>

タブレット、スマートフォンで回答される方は、右のQRコードを読み取ってください。



画面が表示されましたら、別冊の調査票 1 ページの右上に記載している回答用英数字
(5つの半角数字・アルファベット)を入力して回答を開始してください。

※この英数字は重複回答を避けるためのもので、個人を特定するものではありません。

WEB 回答画面です



調査票 1 ページ右上の英数字

WEBアンケート回答用 英数字 →

直についてのお願い

協力をたまり、厚くお礼を申し上げます。
基本的な施策を定める「第7期生駒市障がい者福祉計画」にあたり、お子さまの発達に不安のある保護者のたします。
月1日現在で児童通所サービスを利用されている
ビスを利用されていない方にも回答いただけるよ
ンター窓口などでも配布を行っています。
況や、今後希望するご支援などについてご意見を
検討するために利用させていただきま
答いただくとともに、ご回答いただいた内容につ
せんので、回答者の方々にご迷惑をおかけするこ

全ての質問で、質問文および選択肢の音声流れる静止画がございます。

視聴をご希望の方は、画面の下にある静止画の「再生」をクリックしてください。

全ての回答を終えるには、約 15 分を要する見込みです（自由記入回答を除く）。

回答の途中で画面を閉じることなく、最後の質問まで回答いただき、送信をクリックしてください。なお、送信後は、回答の変更はできませんので、ご了承ください。

WEB アンケートで回答される方は **9月3日（日）まで** にご回答ください。

WEB アンケートで回答された方は、調査票用紙への記入、返信は不要です。

裏面もご参照ください

複数のアンケート調査票が送付された方へ

①同じアンケート調査票の場合

このアンケートは児童通所サービスを利用されている方に送付させていただいております。同サービスを兄弟・姉妹で2人以上利用されている場合、それぞれのお子さま方を対象として複数のアンケート調査票が送付される場合がございます。

それぞれのお子さまの状況に応じて、お一人ずつご回答いただき、それぞれの返信用封筒に同封の上で、ご返送ください。

大変お手数をおかけしますが、何卒ご協力をよろしくお願いいたします。

②異なるアンケート調査票の場合

現在、生駒市障がい福祉課では、各種障害者手帳をお持ちの方を対象とした「第7期生駒市障がい者福祉計画に関する市民アンケート調査」も別途実施しています（対象者は無作為抽出）。

それぞれのアンケートは質問項目も異なることから、両方のアンケートが届いた方におかれましては、誠にお手数をおかけしますが、そのどちらにも回答いただきますよう何卒ご協力をよろしくお願いいたします。

ご多用のところ、誠に恐れ入りますが、一つだけの回答でも構いませんので、可能な範囲でのご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

生駒市 障がい福祉課

WEBアンケート回答用 英数字 →

アンケート調査についてのお願い

皆さまには、日頃から市政の推進にご協力をたまわり、厚くお礼を申し上げます。

この度、障がいのある方への支援など基本的な施策を定める「第7期生駒市障がい者福祉計画」(計画期間:令和6～8年度)の策定にあたり、お子さまの発達に不安のある保護者の方を対象としたアンケート調査を実施いたします。

このアンケート調査票は、令和5年6月1日現在で児童通所サービスを利用されている方に送付させていただくとともに、サービスを利用されていない方にも回答いただけるように、市の障がい福祉課や各生活支援センター窓口などでも配布を行っています。

お子さまや保護者の皆さまの現在の状況や、今後希望するご支援などについてご意見をお聞かせいただき、事業の実施や施策を検討するために利用させていただきます。

また、このアンケートは無記名でご回答いただくとともに、ご回答いただいた内容については、調査目的以外には利用いたしませんので、回答者の方々にご迷惑をおかけすることはありません。

お忙しいところお手数をおかけしますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

▷ご記入の前に

- ・このアンケート調査は、対象のお子さまの保護者の方にご回答をお願いするものです。
- ・令和5年4月1日現在の内容でご記入ください。
- ・質問に選択肢のあるものは、あてはまる番号に○をつけてください。質問によって、○をつけていただく数を指定しているものがありますので、ご注意ください。
- ・答えたくない質問は無記入のまま、次の質問に進んでいただいても構いません。
- ・一部の保護者の方には、以下のような場合、複数のアンケート調査票が送付されることがございます。誠にお手数をおかけしますが、可能な限りで構いませんので、それぞれの調査票へのご回答について、何卒ご協力をよろしく願います。

- ・複数のお子さまがこのアンケート調査の対象となる場合
- ・別途実施している「障害者手帳所持者向けアンケート調査」の対象となる場合

ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒に入れ、8月31日(木)

までに返送していただきますようお願いいたします。(切手は不要です)

WEBサイトからアンケートに回答いただくことも可能です。詳しくは別紙をご参照ください。
なお、WEBサイトから回答いただいた方は、調査票への記入、郵送の必要はありません。

◇調査についてのご質問などは、下記までお問い合わせください。

発行元・問い合わせ先 生駒市 障がい福祉課 〒630-0288 生駒市東新町8-38
電話：0743-74-1111(内線7260) FAX：0743-74-1600

質 問

<ご記入いただいた方(あなた)のプロフィールをおうかがいします>

問1 あなたの年齢(○はひとつ)

- | | | | |
|--------|--------|----------|--------|
| 1. 10代 | 2. 20代 | 3. 30代 | 4. 40代 |
| 5. 50代 | 6. 60代 | 7. 70代以上 | |

問2 お子さまとの続柄(○はひとつ)

- | | | | | |
|------|------|-------|-------|-----------------------|
| 1. 父 | 2. 母 | 3. 祖父 | 4. 祖母 | 5. その他 () |
|------|------|-------|-------|-----------------------|

<お子さまについておうかがいします>

問3 お子さまの性別(○はひとつ)

- | | | |
|-------------------------|------|---------|
| 1. 男 | 2. 女 | 3. その他※ |
| ※「わからない」「答えたくない」などを含みます | | |

問4 令和5年4月1日現在※のお子さまの年齢 才(数字を記入)

※4月2日以降、既に令和5年の誕生日を迎えている場合は誕生日前の年齢をお答えください

問5 お子さまは障害者手帳を所持されていますか(○はひとつ)

- | | |
|-----------|------------------|
| 1. 所持している | 2. 所持していない → 問6へ |
|-----------|------------------|

「1. 所持している」を回答した方は、手帳の種別もお答えください(あてはまるものすべてに○)
また、障がいの程度、内容についても、お答えください

1. 身体障害者手帳

- | | | | | | | |
|----|--|-----|-----|-----|-----|-----|
| 程度 | 1 級 | 2 級 | 3 級 | 4 級 | 5 級 | 6 級 |
| 内容 | ① 視覚障害 ② 聴覚障害 ③ 音声・言語・そしゃく機能障害
④ 肢体不自由 ⑤ 内臓機能の疾患による内部障害 | | | | | |

2. 療育手帳

- | | | | | | | |
|----|---|----|----|---|----|----|
| 程度 | A | A1 | A2 | B | B1 | B2 |
|----|---|----|----|---|----|----|

3. 精神障害者保健福祉手帳

- | | | | |
|----|-----|-----|-----|
| 程度 | 1 級 | 2 級 | 3 級 |
|----|-----|-----|-----|

問6 次のうち、お子さまにあてはまるものすべてお選びください(あてはまるものすべてに○)

1. 自立支援医療費制度(精神通院医療)を受けている
2. 国が指定する難病または小児慢性特定疾病の認定を受けている
3. 高次脳機能障害の診断を受けている
4. 医療的ケアを受けている → ケアの内容も以下よりお選びください

- | | |
|--------------------------------|------------|
| ① 経管栄養(経鼻胃管・腸ろう・胃ろうなど) | |
| ② かくたん吸引(口腔・鼻腔・気管カニューレ内部などの吸引) | |
| ③ 吸入・ネブライザー | ④ 気管切開部の管理 |
| ⑤ 人工呼吸器の管理 | ⑥ その他() |

5. あてはまるものはない

問7 お子さまの現在のご様子についておうかがいします。お子さまの発達について、気になるところがありますか(○はひとつ)

- | | |
|-------|-------------|
| 1. ある | 2. ない → 問8へ |
|-------|-------------|

問7-1 問7で「1. ある」と回答した方におうかがいします。

気になるところはどのような内容ですか(あてはまるものすべてに○)

- | | | | |
|-----------|---------------|--------|--------|
| 1. ことばの遅れ | 2. 対人関係などの社会性 | 3. 運動面 | 4. 行動面 |
| 5. 学習面 | 6. その他() | | |

問7-2 お子さまに対して、知的発達の遅れを指摘されたことはありますか(○はひとつ)

- | | |
|-------|-------|
| 1. ある | 2. ない |
|-------|-------|

問7-3 お子さまの成長や発達について気になる様子がみられた際、医療機関を受診したことがありますか(○はひとつ)

- | |
|-------------------------------|
| 1. かかりつけ医を受診した → 問7-5へ |
| 2. かかりつけ医以外を紹介されて受診した → 問7-5へ |
| 3. 受診したことがない → 問7-4へ |

問7-4 問7-3で「3. 受診したことがない」を回答した方におうかがいします。受診したことがない理由をお答えください。(あてはまるものすべて○)

※回答後、問8へお進みください

- | | |
|--------------------------|-------------------|
| 1. 今のところ必要性を感じない | 2. 受診できるところが分からない |
| 3. 受診前に相談したいが、その相談相手がいない | |
| 4. その他 () | |

問7-5 問7-3で「1.」「2.」(「3. 受診したことがない」以外)を回答した方におうかがいします。診断結果について、次よりあてはまるものをお選びください
(あてはまるものすべて○)

- | | | |
|--------------------|-------------------|------------|
| 1. 自閉スペクトラム症 (ASD) | 2. 注意欠如多動症 (ADHD) | |
| 3. 学習障がい (LD) | 4. 知的障がい | 5. 運動機能障がい |
| 6. その他 () | | |
| 7. 診断名特になし | | |

問7-6 はじめて診断結果が出たのはいつ頃ですか 才頃 (数字を記入)

問7-7 診断結果が出たことによって、あなたご自身の心境はどう変化しましたか。(○はひとつ)

- | | |
|------------------|------------------|
| 1. 不安が減少する方に変化した | 2. 不安が増加する方に変化した |
| 3. 特に変わらない | 4. その他 () |

問8 お子さまの気になるところにあなたが最初に気づいたのはお子さまが何歳の頃ですか。
(○はひとつ)

- | | | | | |
|----------------------------|---------|---------|----------|----------|
| 1. 0歳 | 2. 1～2歳 | 3. 3～5歳 | 4. 6～11歳 | 5. 12歳以上 |
| 6. 現在のところ、気になるところはない → 問9へ | | | | |

問8-1 問8で「1.」～「5.」(「6. 現在のところ、気になるところはない」以外)を回答した方におうかがいします。気づいたきっかけは何でしたか(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|--------------------------|------------------|
| 1. 家族が気づいた | 2. 知人から話があった |
| 3. 病院から話があった | 4. 乳幼児健康診査で話があった |
| 5. 保育園、学校等の通園・通学先から話があった | |
| 6. その他 () | |

1. ことばが遅い	2. 運動発達の遅れ（首のすわりなど）
3. 視線が合わない	4. 呼んでも振り向かない
5. 指差しがない	6. 多動・よく迷子になる
7. 人に無関心である	8. 友だちと遊べない
9. 動作のまねをしない	10. 人見知りがない
11. 出ていたことばが消えた	12. 睡眠のリズムが乱れている
13. 表情の変化がない	14. 手をひらひらさせるなどの動作がある
15. 抱きにくい	16. あやしても笑わない
17. その他（ ）	

1. 保育園、学校等の通園・通学先
2. 医療機関
3. 市役所（健康課など）
4. 生活支援センター
5. その他（ ）
6. どこにも相談していない → 問8-5へ

1. 1か月以内に相談した → 問9へ 2. 1か月～半年以内に相談した
3. 半年～1年以内に相談した 4. 1年以上相談しなかった

1. 相談する必要性を感じなかった
2. 相談先が分からなかった
3. 少し成長がゆっくり、又は成長すれば変わらと思った
4. 家族や親せきが嫌がった
5. こどもが嫌がった
6. その他（ ）

問9 現在、児童通所サービスを利用していますか

あてはまるものすべてに「現在利用している」の枠内に○をご記入いただき、現在利用しているサービスの満足度についてもお答えください(それぞれに○はひとつ)

また、その満足度を選んだ理由についても、お答えください(自由記入)

現在利用しているサービス		現在利用している	満足 ←————→ 不満					満足度の理由
1. 児童発達支援			1	2	3	4	5	
2. 放課後等デイサービス			1	2	3	4	5	
3. その他	具体的にサービス名をお書きください		1	2	3	4	5	
			1	2	3	4	5	
			1	2	3	4	5	
4. 何も利用していない			→ 問9-1へ					

※「1.」～「3.」にひとつでも「○」をつけた方は問10へお進みください

問9-1 問9で「4. 何も利用していない」を回答した方におうかがいします。

利用していない理由についてお答えください(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|----------------------|---------------------|
| 1. 必要がない | 2. お子さまに合ったサービスではない |
| 3. 以前は利用していたが、合わなかった | 4. 利用料の負担が多い |
| 5. サービス内容がよく分からない | 6. その他 () |

問10 お子さまのことであなたが現在、困っていることがあれば、お答えください。

(あてはまるものすべてに○)

お子さまに関すること	1. お子さまの通園・通学先が遠い
	2. 土日などにお子さまが遊べる施設や場所がない
	3. 友だちと遊びにくい(友だちが少ない)
	4. お子さまの特性により、保護者としての関わりが難しい
	5. お子さまの特性を周囲が十分理解してくれない
	6. お子さまが地域社会との関わりが少ない(地域の活動や行事へ参加しにくい)
	7. お子さまの学習の進みに不安がある(進みが十分ではない)

保護者・家庭に関する事	8. 日々の生活費等の経済的な不安
	9. 保護者が働けない、又は働ける時間に制約を受ける
	10. 保護者が自分の時間がもてない
	11. 家族以外に支援を頼める人がいない
	12. 市の支援やサービスに関する情報がわからない
	13. 他のきょうだいと保護者との関わりが薄くなってしまう
	14. 保護者が地域社会との関わりが少ない（地域の活動や行事へ参加しにくい）
	15. その他（ ）
	16. あてはまるものは特になし

問11 お子さまが不安と感じていることや困っていること、助けてほしいことなどについて、お子さまご自身からお話が聞けましたら、その内容をお答えください（自由記入）

問12 お子さまの成長に関する不安や悩みについて、あなたが相談できる人や機関はありますか。（あてはまるものすべてに○）

1. 配偶者	2. あなたの親	3. 配偶者の親
4. その他の家族	5. あなたの友人・知人	6. 保健師
7. 保育園、学校等の通園・通学先	8. 発達相談員	
9. 通所事業所	10. 医療機関	11. 家族の会
12. 親子教室	13. 近所の人	14. 生活支援センター
15. みっきランド	16. こどもサポートセンターゆう	
17. 誰もいない	18. その他（ ）	

問13 お子さまの成長を目的として、これまで取り組んできたことがありましたら、教えてください
(あてはまるものすべてに○)

- | | | |
|-----------------------|--------------|-----------|
| 1. 事業所での療育 | 2. 医療機関での訓練 | 3. 学習教室 |
| 4. 運動教室 (スポーツ・スイミング等) | | 5. ピアノ |
| 6. パソコン | 7. 習字 | 8. 絵画 |
| 9. カラオケ・歌 | 10. 買い物 | 11. 調理 |
| 12. 食事の用意・後片付け | 13. 散歩 | 14. 掃除・洗濯 |
| 15. 日記・絵日記 | 16. 自転車 | 17. キャンプ |
| 18. 動物とのふれあい | 19. 特にやっていない | |
| 20. その他 (| |) |

問13-1 問13で「○」を付けた項目のうち、これまで取り組んできて良かったと思われる項目
の番号をお書きください(1~20までの番号を記入)

問14 お子さまは休日、どのように過ごしていますか。
その頻度が多いものを3つまでお選びください(○は3つまで)

1. 家の中でTVや動画をみる
2. 家の中で勉強(読書、工作・お絵描きなどを含む)する
3. 家の中で一人でゲームや玩具などを使って遊ぶ
4. 家の中で兄弟姉妹や友達と一緒に遊ぶ
5. 家の中でのんびりする(お昼寝など)
6. 外出して一人(保護者の付添いを除く)で遊ぶ
7. 外出して兄弟姉妹や友達と一緒に遊ぶ
8. 習い事などに出かける(スポーツチームでの活動なども含む)
9. 家族で出かける
10. その他 (

問15 発達支援に関する情報はどこから得ていますか(あてはまるものすべてに○)

- | | | |
|-------------------|-------------------------|--------------|
| 1. 配偶者 | 2. あなたの親 | 3. 配偶者の親 |
| 4. その他の家族 | 5. あなたの友人・知人 | 6. 保健師 |
| 7. 保育園、学校等の通園・通学先 | | 8. 発達相談員 |
| 9. 通所事業所 | 10. 医療機関 | 11. 家族の会 |
| 12. 親子教室 | 13. 近所の人 | 14. 生活支援センター |
| 15. みっきランド | 16. こどもサポートセンターゆう | |
| 17. 誰もいない | 18. インターネット(関連サイトの検索など) | |
| 19. その他() | | |

問16 これまでの子育てにおいて、いつ頃、どのような支援があれば良かったと思いますか
特にあればよかったと思うものを2つまでお答えください(自由記入)

いつ頃	特にあればよかったと思う支援
()才頃	
()才頃	

問17 たけまるノートを持っていますか(○はひとつ)

- | | |
|---------------------------------|-----------------|
| 1. 持っており、使っている | 2. 持っているが使っていない |
| 3. 持っていないが、たけまるノートのことは知っている | |
| 4. 持っていない、たけまるノートのことは知らない →問18へ | |

「たけまるノート」とは

サポートブックいこま「たけまるノート」は、原則として保護者に持っていていただき、お子さまの発達状況や支援内容を保護者や関係機関が順次記録するものです。

ノートの活用により、保護者が様々な場所でこどもの成育歴や現状などを繰り返し話す負担を減らし、こどもに関わる支援者が、適切な支援を切れ目なく行うことを目指しています。

問17-1 問17で「1.」～「3.」(「4. 持っていない、ノートのこと知らない」以外)を回答した方におうかがいします。たけまるノートの使いにくい点や改善してほしい点等があれば、教えてください(あてはまるものすべてに○)

1. 記入項目が多く、手間がかかるため、もう少し簡単なものとしてほしい
2. 各施設が活用方法をよく理解し、保護者が各施設にノートの説明をする負担を減らしてほしい
3. 療育施設と教育・保育施設の連携が少なく、ノートを通じた連携が進んでほしい
4. ノートの周知が進んでいない。必要とする人にもれなく渡るようになってほしい
5. その他 ()

問18 お子さまが現在所属している園・学校はありますか(○はひとつ)

1. 保育園
2. 幼稚園
3. 認定こども園
4. 小学校の通常学級
5. 小学校の特別支援学級
6. 中学校の通常学級
7. 中学校の特別支援学級
8. 高等学校
9. 特別支援学校
10. その他 ()
11. どこにも所属していない → 問22へ

問18-1 問18で「1.」～「10.」(「11. どこにも所属していない」以外)を回答した方におうかがいします。次のうち、現在利用されている教室はありますか(あてはまるものすべてに○)

1. ことばの教室
2. 通級指導教室
3. その他 ()
4. 特にない

問19 現在通っている園や学校へ、入園・入学する時に苦労したり、困ったりしたことがありましたらお答えください(あてはまるものすべてに○)

1. 入園、入学当初は環境への変化に対応できず、本人が環境に慣れるのに時間がかかった
2. 希望していた通園・通学先への入園・入学ができなかった
3. 卒園先と入学先の引継ぎにかかる支援が不十分と感じた
4. 学校がどのような場所か、なぜ勉強するのかといったことを教えるのが難しかった
5. 通常学級か特別支援学級もしくは通級指導教室を利用するかを選択に迷った。
6. 地域の学校か、特別支援学校かを選択に迷った
7. その他 ()
8. 特にない

問20 現在通っている園や学校に望むことは何ですか（あてはまものすべてに○）

1. 成長や発達の気になる部分を理解してほしい
2. 成長や発達の気になる部分に適切な対応をしてほしい
3. お子さまの日常生活や将来について相談に乗ってほしい
4. 読み書き等の基本的な学力を身につけさせてほしい
5. 将来を見据えた個別の教育支援計画を保護者の参加のもとで作成してほしい
6. お子さまの特性に応じて、学習面での配慮をしてほしい
7. 保護者との連携を取ってほしい
8. 園や学校での普段の生活をもっと知りたい
9. クラスの仲間等の理解が欲しい
10. 担任が変わってもスムーズに引き継ぎしてほしい
11. これまで通っていた園・学校、これから通う園・学校が相互に連携を取ってほしい
12. 医療機関との連携を取ってほしい
13. 児童発達支援事業所との連携を取ってほしい
14. 放課後等デイサービス事業所との連携を取ってほしい
15. その他関係機関（ ）との連携を取ってほしい
16. その他（ ）
17. 特にない

問21 現在通っている園や学校が行っている取組で、良いと思うもの、続けてほしいと思うものは何ですか。（自由記入）

1. 食事や排せつ、着脱など基本的な生活力
2. 与えられた課題を実行しようとする力
3. 仲間とともに活動する力
4. 余暇を上手に過ごせる力
5. 困っていることを周囲に伝える力
6. 将来必要となる基礎的な学力（学ぶ力）
7. わからない
8. その他（ ）



ご協力ありがとうございました。